

結婚と 家族関係

教師用ガイド



結婚と 家族関係

教師用ガイド

発行：

末日聖徒イエス・キリスト教会
ユタ州ソルトレーク・シティー

ご意見とご提案

本書へのご意見やご提案を以下のあて先までお寄せください。

Curriculum Planning
50 East North Temple Street, Floor 24
Salt Lake City, UT 84150-3200
U.S.A.

電子メール：cur-development@ldschurch.org

お名前、ご住所、ワード名、ステーク名を添えてお出してください。
本書のタイトルを忘れずにお書きいただき、次に本書の良かった点、
改善できる点をお知らせください。

©2001 by Intellectual Reserve, Inc. 版權所有

印刷：日本

英語版承認：1997年8月

翻訳承認：1997年8月

原題：*Marriage and Family Relations: Instructor's Manual*

35865 300 Japanese

一般的な指示

結婚と家族関係コースの活用法

本コースは教会員が夫婦関係や家族関係を堅固なものにし、その関係から喜びを得られるようにすることを目的としたものです。監督会／支部長会はこのコースが効果的に行われるように見届ける必要があります。

教会員はそれぞれ異なった課題を抱えており、家族状況も異なっているため、本コースは2部に分かれています。第1部「夫婦のきずなを強める」は既婚の夫婦や結婚の準備をしている教会員に有益です。第2部「家族を強めるための両親の責任」は「主の薫陶と訓戒とによって」(エペソ6:4) 子供や孫を育てようとしている両親や祖父母の皆さんを支援するためのものです。コースへの出席は個人の必要に合わせた選択が可能です。例えば、既婚者でも子供がいない場合は、前半の8回のレッスンだけに参加して後半は参加しないという選択ができます。逆に独り親の場合は第2部だけに参加することができます。

ワード／支部の指導者は御霊の導きと会員個人の必要を考慮して、本コースを柔軟に活用するようにしてください。以下のことを考慮に入れるとよいでしょう。

- 監督会／支部長会は本コースを日曜学校のクラスとしてスケジュールに入れ、具体的な参加者は御霊の導きによって決めることができる。
- 大祭司グループ指導者、長老定員会会長会、扶助協会会長会は本コースのレッスンを毎月第1日曜日のレッスンとして用いることができる。適切であれば、週日や土曜日のファイヤサイドやその他の機会に用いることもできる。
- 監督会／支部長会は本コースのレッスンを第5日曜日の神権会扶助協会合同集会で用いることができる。若い男性・女性のファイヤサイドで用いてもよい。
- アロン神権・若い女性アドバイザーは本テキストをミュチュアルの夕べの資料として用いることができる。若い男性・女性合同の会で教えることも、それぞれの組織で教えることも可能である。
- 個人や夫婦が独自で学習することができる。

資料配付先

以下に列挙したワード／支部の教会員に『結婚と家族関係教師用ガイド』と『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』が1部ずつ配付されます。

監督／支部長	扶助協会会長
大祭司グループリーダー	若い女性会長
長老定員会会長	結婚と家族関係コース教師
若い男性会長	

コースの参加者には参加者用学習ガイドが配付されます。

目次

一般的な指示	iii
「家族—世界への宣言」	viii
はじめに	ix
本コースの目的	ix
教師としてのあなたの責任	ix
重大な家族の問題に対処する	xi
使用すべき資料	xi
参考資料	xi
第1部：夫婦のきずなを強める	
第1課：「家族は創造主の計画の中心をなすものである」	3
末日の預言者は結婚と家族が永遠にわたって	
重要なものであることを宣言している	3
永遠の結婚はこの世から永遠にわたって	
喜びと大いなる祝福をもたらす	4
結婚と家族関係のコースは家族関係の中に	
喜びを見いだすために設けられた	5
わたしたちの家庭は「贖い主の岩の上に」	
築かれた「小さな天国」となり得る	6
第2課：夫婦間に一致をはぐくむ	8
主は、夫婦は一体となるべきであると命じられた	8
夫婦は互いに相手に対等なパートナーとして大切にすべきである	8
夫婦は互いの人格や能力を補い合うべきである	9
夫婦は互いに誠実でなければならない	10
第3課：夫婦間に愛と友情をはぐくむ	12
夫婦は互いに愛情をはぐくまなければならない	12
優しさと思いやりを示すことによって夫婦間に愛と友情を保つ	12
結婚生活における適切な性関係は愛情の表現である	13
夫婦はキリストの純粋な愛である慈愛を身に付けるように	
努力しなければならない	15

第4課：夫婦間の問題に対処する	17
夫婦は皆、問題に直面する	17
結婚を聖約の関係として見れば、夫婦はどのような問題も解決できる	17
問題が生じたときは、フラストレーションや怒りではなく 忍耐と愛をもって対処できる	18
第5課：積極的なコミュニケーションにより問題に対処する	21
どの夫婦でも意見の違いはある	21
夫婦は互いに相手の良い点を見るようにしなければならない	21
積極的なコミュニケーションは問題の防止や解決に役立つ	22
第6課：信仰と祈りにより夫婦のきずなを強める	25
夫婦は協力してイエス・キリストを信じる信仰を強めなければならない	25
夫婦はともに祈るときに祝福される	26
第7課：赦し^{ゆる}が持つ癒^{いや}しの力	28
夫婦間の赦しの精神は平安と信頼感や安心感をもたらす	28
夫婦は自分の欠点について相手からの赦しを求め、 改善に向けて誠実に努力しなければならない	29
夫婦は互いに赦し合うように努力すべきである	30
第8課：家族の財政を管理する	32
適切な財政管理は幸福な結婚生活に不可欠である	32
夫婦は協力して家計管理の基本原則に従うようにすべきである	32
第2部：家族を強めるための両親の責任	
第9課：「子供たちは神から賜^{しきょう}わった嗣業である」	39
天父は霊の子供たちを地上の両親に託された	39
両親は一人一人の子供の必要を満たす努力をしなければならない	40
子供たちは両親から愛される権利を持っている	41
子供への虐待は神への冒瀆 ^{ぼうとく} である	42
子供は両親の生活に大きな喜びをもたらす	42
第10課：父親と母親の神聖な役割（その1：父親の役割）	44
夫婦は協力して子供たち一人一人に信仰の盾を与えなければならない	44
父親は愛と義をもって管理する	45
父親は家族に生活必需品を提供し、家族を守る	46
第11課：父親と母親の神聖な役割（その2：母親の役割）	48
母親は神の業に参加する	48
母親のおもな責任は子供を養い育てることである	49
父親と母親は対等なパートナーとして互いに助け合う	50

第12課：模範と訓戒によって子供を教える	51
両親は子供を教える責任を持つ	51
両親は子供を教えるときに靈感を受けることができる	52
両親は模範と訓戒によって子供を教える	53
第13課：子供に福音の原則を教える（その1）	55
両親の教えは子供に強い信仰を保たせる	55
両親は子供に福音の第一の原則と儀式を教える	56
両親は「その子供たちに祈ることと、 主の前をまっすぐ歩むこと」を教えなければならない	57
第14課：子供に福音の原則を教える（その2）	59
両親は子供に教えるとき、愛を示す	59
両親は子供に思いやりと奉仕を教えなければならない	60
両親は子供に正直と人の物を大切にすることを教えなければならない	60
両親は子供に正直に働くことから得られる報いについて 教えなければならない	60
両親は子供に道徳的に清くあるべきことを教えなければならない	62
第15課：子供が決定を下すに当たって、導きを与える	64
子供は決定を下すときに導きが必要である	64
両親は子供が選択の自由を義にかなって行使できるように 助けることができる	65
両親は子供にふさわしくない決定の結果から学ばせるべきである	67
両親は道を外れた子供たちにも絶えることのない愛を 示さなければならない	67
第16課：家族の祈り，家族の聖文学習，家庭の夕べ	70
家族の祈りと聖文学習，家庭の夕べは，すべての末日聖徒の家族で 高い優先順位を与えられなければならない	70
家族はともに祈るときに大きな祝福を受ける	70
家族の聖文学習は，家族が神に近づけるように助けてくれる	71
家庭の夕べはこの世の影響に対抗する力を家族に与える	72

世界への宣言

末日聖徒イエス・キリスト教会
大管長会ならびに十二使徒評議会

わ たしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。

す べての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。

前 世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にするのです。

神 がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したものでした。わたしたちは宣言します。すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。

わ たしたちは宣言します。この世に命をもたらす手段は、神によって定められたものです。わたしたちは断言します。命は神聖であり、神の永遠の計画の中で重要なものです。

夫 婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負って

います。「子供たちは神から賜^{たま}わった嗣業^{しぎょう}であり」(詩篇127:3)とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの責務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。

家 族は神によって定められたものです。男女の間の結婚は、神の永遠の計画に不可欠なものです。子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦^{ゆる}し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとり確立され、維持されます。神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。心身の障害や死別、そのほか様々な状況で、個々に修正を加えなければならないことがあるかもしれません。また、必要なときに、親族が援助しなければなりません。

わ たしたちは警告します。貞節の律法を犯す人々、伴侶や子供を虐待する人々、家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。またわたしたちは警告します。家庭の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。

わ たしたちは、全地の責任ある市民と政府の行政官の方々に、社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進めてくださるよう呼びかけるものであります。

この宣言は、1995年9月23日、ユタ州ソルトレーク・シティーで開催された中央扶助協会集会において、ゴードン・B・ヒンクレー大管長により、メッセージの一部として読み上げられたものである。

はじめに

本コースの

目的

結婚と家族関係のコースは教会員が夫婦のきずなと親子のきずなを強め、家族関係の中に喜びを見いだせるように計画されました。本書は2部に分かれています。第1部「夫婦のきずなを強める」は特に既婚の夫婦や結婚の準備をしている教会員に役立ちます。第2部「家族を強めるための両親の責任」は「主の薫陶と訓戒とによって」(エペソ6:4) 子供や孫を育てようとしている両親や祖父母の皆さんを支援するためのものです。

本コースの基になっているのは、聖文と末日の預言者や使徒が教える教義と原則です。また、「家族—世界への宣言」には特に重きを置いており、本書のviiiページに紹介されています。

教師としての あなたの責任

結婚と家族が永遠にわたって重要な概念であり、夫婦関係や親子関係を強めることが緊急な課題であることを考えると、このコースの教師としてのあなたの召しが非常に大切なものであることが理解できると思います。この召しに献身的に取り組み、祈りをもって準備すれば、コースに参加する人だけではなく、あなた自身やあなたの家族にも祝福が及ぶことでしょう。この召しを尊んで大いなるものにするよう努力するに当たって、このページとx-xiページに掲載した原則を思い起こすようにしてください。

教えるために自らを備える

このコースの教師であるあなたの責任は、聖霊の力により福音の教義を教えることです。家族カウンセリングの専門的な訓練は必要ありませんし、家族で起こるあらゆる問題について解決策を持っていなければならないということもありません。クラスでの話し合いは参加者が自分の生活についてよく考えて祈り、それぞれの家族の中で改善を図るように導くものであるべきです。

福音の教授についての基本的な原則、例えばレッスンの準備、生徒を愛すること、御霊^{みたま}によって教えることについては以下の資料を参照してください。

- 「福音の教授と指導」『教会指導手引き - 第2部 神権指導者・補助組織指導者』16 (35209 300)
- 『教師、その大いなる召し』(36123 300)
- 『教師ガイドブック』(34595 300)

コースの概観を念頭に置く

最初のレッスンを教える前に、時間をかけてコース全体に目を通してください。それぞれのレッスンがどう補完し合って夫婦関係や親子関係を強めているかが理解できます。

各レッスンの準備をするときには目次(v-vii)を見てください。コース全体の流れが分かります。自分がすでに教えた内容や学んだ内容を復習して、各レッスンで取り上げた教義や原則がコース全体をどのように支えているかを考えましょう。

レッスンの準備は早くから始める

レッスンの準備は早くから始めると効果的です。レッスンが終わった段階で次のレッスンの予習をしましょう。次に何を教えるかが分かっていると、次のレッスンまでの1週間、いろいろと思い巡らすことができます。そして、どの原則を強調するか、どのような教授法を用いるか、どのような経験を分かち合うかが見えてきます。

参加者の必要に最も合ったレッスン資料を選ぶ

各レッスンで紹介されている教義や原則を入念に研究し、御霊の導きを得ながら参加者の必要に最も合うレッスン資料を選んでください。「レッスンの成否は教えを受ける人々に与えた影響によって測られる」(『教師、その大いなる召し』[1999年] 103) ことを心に留めましょう。

どのように教えるかを定める

レッスンでは何を教えるかだけでなく、どのように教えるかも大切です。参加者が学んだ教義と原則を生活に応用できるように促す教え方を常に心がけてください。

レッスンは講義形式ではなく話し合い形式で行うようにします。あなたが教える教義や原則について、参加者が実りある話し合いを行えるように導いてください。クラスでの話し合いについての主の勧告は教義と聖約88：122にあります。「あなたが自身の中から一人の教師を任命しなさい。そして、全員が同時に語ることなく、一時に一人を語らせて、すべての者が彼の言うことに耳を傾けるようにしなさい。それは、すべての者が語って、すべての者が互いに教化し合うように、またすべての人が等しい特権を持てるようにするためである。」話し合いの進め方については『教師、その大いなる召し』63-70ページを参照してください。

適切であれば、いろいろな教授法を用いて各レッスンの参加者の理解を深めるようにしてください。例えば、黒板に書き出したり、実物あるいはそれを象徴するものを用いたり、絵を飾ったりします。教授法については『教師、その大いなる召し』159-184ページを参照してください。

参加者に学んだことを応用させる

あなたは福音の教師として、たとえそれがユニークで参加者の心をつかむ方法であっても、単に情報を分かち合うことだけで満足してはなりません。あなたの目的は、参加者が学んだ教義や原則に従って生活を変えることにあるのです。第11代大管長ハロルド・B・リーはこう勧めています。

「福音の原則と儀式はすべて、ある意味で、その教えを実践して福音を学ぶことへの招待状にすぎません。什分の一の原則は什分の一を納めた人でなければ分かりません。知恵の言葉の原則は知恵の言葉を守った人でなければ分かりません。子供も、あるいはこの点に関しては大人も、これらの原則について人が語るのを聞くだけでは、什分の一や知恵の言葉、安息日を聖くすること、あるいは祈りに改宗してはいません。わたしたちは実践によって福音を学ぶのです。……

……それぞれの原則を実践することによって得られる祝福を体験しなければ、いかなる福音の教えも真に理解することはできません。」(Stand Ye in Holy Place [1974年], 215)

教会機関誌には、教会員が福音に従うことによりどのように祝福されてきたかを描いた靈感に満ちた物語がよく掲載されます。機関誌の索引を使ってあなたが教えようとする教義や原則に合った物語を見つけることができます。その幾つかをクラスで紹介することも考慮してください。

クラスの最後に、参加者に学んだことをどう応用するか尋ねましょう。参加者がやってみようという気持ちになれるように、応用の部分には時間を十分にかけてください。例として、9課の「子供たちは神から賜った嗣業である」の内容の説明が終わったところで、その課のおもな原則を復習し、参加者に子供たち一人一人と個別に会う時間を取るよう決意してもらうことができます。

参加者に学習ガイドを活用するように促す

各レッスンの準備として『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』(36357 300) の関連する部分をよく読んでください。そして参加者が (1) 「応用のための提案」の少なくとも一つに取り組むように、また (2) 各レッスンに掲載された資料を読むように促します。学習ガイド

を夫婦で一緒に読んで話し合うことにより大きな利益が得られることを強調してください。
参加者は学習ガイドをクラスに持参するようにします。

異なった状況にある人々の必要にこたえる

未婚の人や伴侶を失った人、離婚した人、その他難しい状況にある人々に配慮するようにしましょう。第12代大管長スペンサー・W・キンボールの以下のメッセージを参考にしてください。

「……わたしたちは末日聖徒の家庭の理想を引き続き掲げなければなりません。中にはこのような家庭生活を送る機会に恵まれていない人もいます。だからと言って、その話をやめなければならないということはないでしょう。むしろ、多くの姉妹がこのような家庭を持つ機会にあずかっていないことを心に留めて、真剣に家庭生活について話しているのです。ほかの多くの事柄は家庭生活のうえに築かれるため、このことをないがしろにすることはできません。」(The Teachings of Spencer W. Kimball, エドワード・L・キンボール編 [1982年], 294-295)

重大な家族の問題に 対処する

話し合いを勧めながらも、そのときに自分の家庭内の重大な問題について詳細を話すのはふさわしくないことを、参加者に理解させてください。重大な問題について助言を求めているときは、監督に直接話すように優しく勧めます。監督はそのような人の相談に乗ります。あるいは末日聖徒ファミリーサービス事務局や教会の標準と一致した援助を提供している地域社会の機関を勧めることもできます。

使用すべき 資料

教会は結婚と家族関係について真の教義と原則を教えることができるように、たくさんの資料を出版しています。準備段階やレッスンの中で教会出版物ではない市販の資料を使わないようにしてください。あなたがこのコースを教えるために用いるべきおまな資料は、聖典、本書、『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』です。これらのコース資料を編纂するに当たって十分な検討と祈りがなされているのです。

参考資料

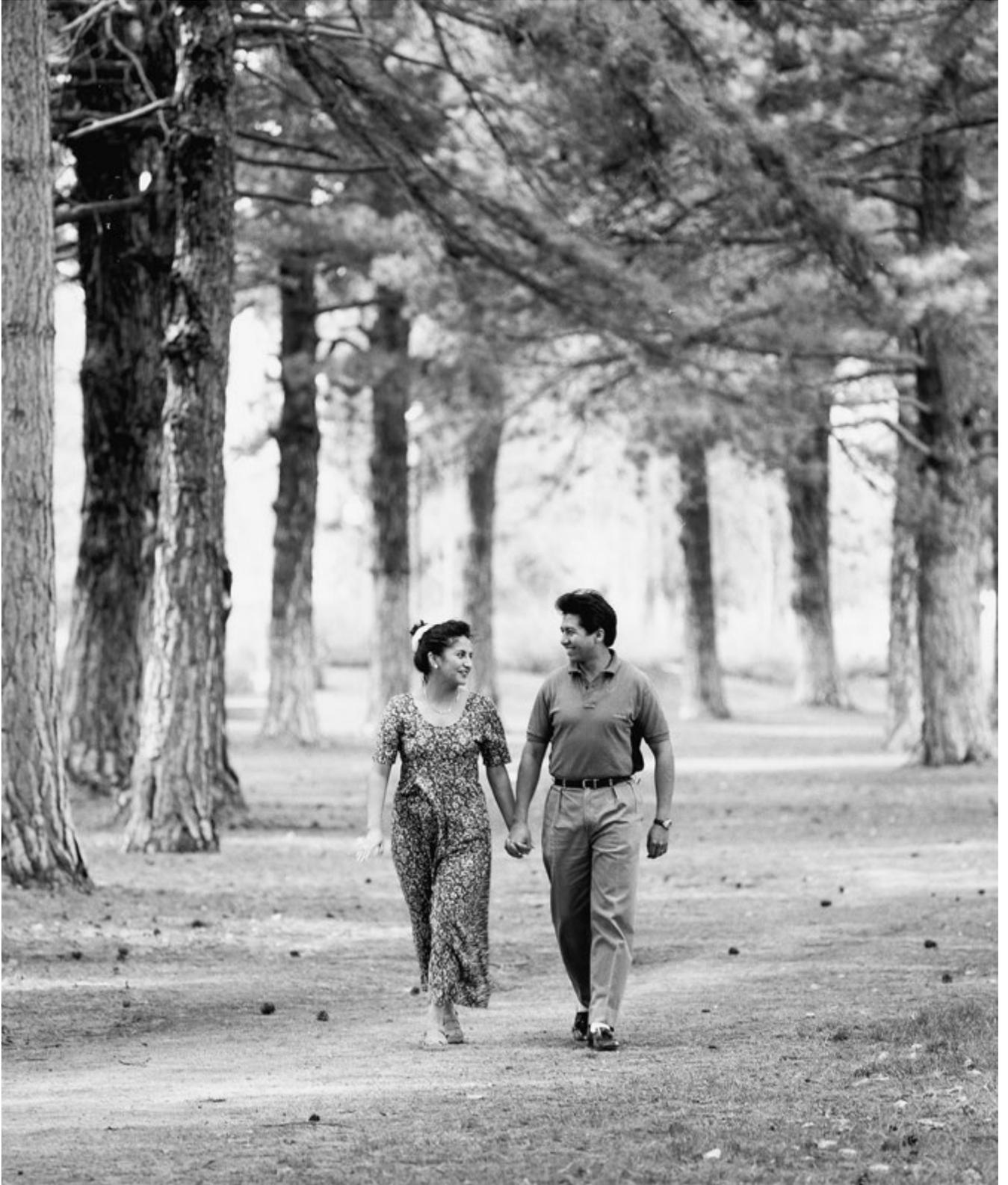
教会が出版する以下の資料はこのコースで話し合われる内容を補足するものです。教会配送センターから入手することができますので、家庭で活用するように参加者に勧めてもよいでしょう(『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』vi参照)。

- 『家族ガイドブック』(31180 300)。家族という組織について述べ、家庭で福音を教えるための情報を提供し、神権の儀式や祝福の手続きを概説したものの。
- 教会機関誌の結婚や家族に関連した記事。
- 『家庭の夕べアイデア集』(31106 300)。両親と子供が家庭の夕べのレッスンを準備するための資料(3-172, 187-248)や家庭の夕べを成功させるためのアイデア(173-183)、特定の原則や責任を子供に教えるための提案(185-278)、そして家族活動のためのアイデア(281-354)が掲載されている。
- 『教師、その大いなる召し』(36123 300)。教会員が福音の教師として自己改善を図るための原則と実用的な提案を提供するもの。単元D「家庭における教え」(127-148)は両親にとって特に役立つ。
- 『教師ガイドブック』(34595 300)。福音の教授と学習を改善するための提案を提供するガイドブック。
- 『若人のために』(34285 300)。デート、服装と身だしなみ、フレンドシップ、正直、言葉遣い、メディア、心身の健康、音楽とダンス、性的な清さ、日曜日の行動、悔い改め、

ふさわしさ、奉仕についての教会の標準を述べたもの。

- 『良い親になるために』 (31125 300)。両親が子供に性について教えるための提案が掲載されている。
- *Cornerstones of a Happy Home* (英文。33108)。ゴードン・B・ヒンクレー大管長が第二副管長時代に行った説教を取めたパンフレット。
- 「家庭における財政管理の指針」『リアホナ』2000年4月号。十二使徒定員会会員マービン・J・アシュトン長老による記事。家計管理についての実践的な提案。

第1部： 夫婦のきずなを強める



「家族は創造主の計画の中心をなすものである」

第1課

目的 家族の永遠にわたる重要性を強調するとともに、参加者が結婚と家族関係コースを十分に役立てるには何をしなければならないかを理解させる。

- 準備**
1. 「教師としてのあなたの責任」(本書 ix-xi)にある原則を復習する。教える準備をする際にそれらの原則を応用する方法を探す。
 2. この課の教義と原則を示す太字の見出しを読む。準備として1週間を通しそれらの教義と原則について思い巡らし、参加者の必要に合ったレッスンをを行うには何を強調すればよいかを御霊の導きを求めながら決める
 3. 『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』(36357 300) ivページにある「家族—世界への宣言」を祈りの気持ちで研究する。
 4. 各参加者のために『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』を日曜学校会長会、ワード書記、または教材担当ワード書記補助から入手する。
 5. 一人か二人の参加者に事前に連絡し、神殿で結婚したときにどのようなことを感じたかをレッスンの中で短く話してもらう。伴侶と永遠に結び固められたことによって味わっている喜びや祝福についても話してもらう。この責任をだれに割り当てるかについては、御霊の導きを求める。
 6. クラスが始まる前に、黒板に次の引用を書いておく (*Stand Ye in Holy Places* [1974年], 255)。
「あなたとわたしが行う最も大切な主の業は、わたしたち自身の家庭という囲いの中にあるのです。」

第11代大管長 ハロルド・B・リー

レッスンの進め方の提案

末日の預言者は結婚と家族が永遠にわたって重要なものであることを宣言している

次の実話を紹介する。

「見たところ洪水で家財一切を失ったらしい一人の男の人が、激しく泣いていました。しかし彼は家財を失ったことでそれほど絶望したわけではなく、それよりもはるかに大切な、愛する妻と4人の子供たちの姿が見えなかったのが、きっと洪水にのまれたものと思い込んで絶望していたのです。しかし、程なくしてよい知らせが届きました。彼の家族は奇跡的に救助されて、近くの避難施設で彼を待っているというのです。間もなくこの家族は再会しましたが、それはこの上ない喜びと幸福にあふれた光景でした。この喜びの中で彼の語った言葉が今も心に残っています。そのとき彼はこのように言いました。『この世の財産はすっかりなくしてしまいましたが、それでも再び家族を得て、わたしは大金持ちにでもなったような気分です』と。」(「主の宮居」『聖徒の道』1981年4月号, 15)

結婚と家族についてのあなたの確信と証を簡潔に述べる。適切であれば、家族に対する自分の気持ちも話す。次に、十二使徒定員会会員ボイド・K・パッカー長老の話を読む。

「教会の中心はステークセンターでもなければ教会堂でもありません。……この世で最も神聖な場所は必ずしも神殿ではないかもしれませんが。教会堂やステークセンターや神殿は神聖ですが、それは教会の中で最も神聖な場所である家庭を築くことと、教会の中で最も神聖な人間関係である家族の祝福に貢献していることが条件になります。」(*That All May Be Edified* [1982年], 234-235)

各自に『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』を配る。ivページを開かせ、大管長会と十二使徒定員会が1995年に結婚と家族に関する世界への宣言を出したことを説明する。この宣言の中で教えられている教義と原則の多くはこのコースで扱うことになる。参加者とこの宣言を読む。段落ごとに別々の参加者に朗読してもらう。

- 家族の宣言で教えられている教義や原則にはどのようなものがあるだろうか。(参加者の答えを黒板に書く。)今の世の中がこのような勧告や警告を必要としているのはなぜだろうか。

第15代大管長ゴードン・B・ヒンクレーは、次のように説明している。「わたしたちはなぜ今、このような家族の宣言を出すのでしょうか。それは、家族が今危機にさらされているからです。世界中、どこを見ても家族が崩壊しています。社会の改善を始めるべき場所は家庭の中にあります。子供は、おおかた、教えられるとおりに行動するものです。わたしたちは家族を強めることによって、世界をより良いものとする努力をしているのです。」(『霊的な思い』『聖徒の道』1997年8月号, 4)

- この宣言にある勧めに従うことによって、あなたの家族はどのように強められてきただろうか。

永遠の結婚はこの世から永遠にわたって喜びと大なる祝福をもたらす

永遠の結婚が天父の偉大な幸福の計画の中心を成すことを強調する。家族は永遠の結婚を通してこの世では真の喜びを見だし、その後も永遠にわたって進歩し続けることができる。

- 永遠の結婚をした人は、この世でどのような祝福を得ることができるだろうか。

割り当てておいた参加者に以下のことを短く話してもらう。(1) 神殿で結婚したときに感じたこと。(2) 伴侶と永遠に結び固められることで受ける喜びと祝福(「準備」の第5項参照)。

以下から一つ以上の言葉を紹介する。

ジェームズ・E・ファウスト副管長はこう教えている。「多くの聖約はこの世と後の世で幸福を得るために欠くことのできないものです。最も大切な聖約の一つに夫と妻の間で交わされる結婚の聖約があります。人生最大の喜びは、この聖約からもたらされます。」(「神よ、どうか、わたしを探って、わが心を知ってください」『聖徒の道』1998年7月号, 19)

ボイド・K・パッカー長老は次のように語っている。『『ロマンスと愛と結婚、そして子供の養育という体験』が『人生の中で最も純粋で美しく魅力ある経験』である。』(「この世から永遠にわたって」『聖徒の道』1994年1月号, 25)

十二使徒定員会会員のジョセフ・B・ワースリン長老はこう説明している。「永遠の結婚における伴侶との関係は、神がその子供たちに授けられた最大の祝福の一つです。確かに、わたしは美しい妻と過ごした何年もの間に、最も深い喜びを味わってきました。時の初めから、夫婦という婚姻関係は、幸福をもたらす天の御父の偉大な計画の根本的な要素でした。愛する家族との交わりという祝福を楽しむとき、わたしたちは互いに善い影響を与えて、ともに高められます。」(「価値ある交わり」『聖徒の道』1998年1月号, 37)

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、大管長としての一般教会員への最初の説教でこう語った。「今月末で、結婚58年になる愛する妻に感謝しています。……わたしはこのすばらしい女性に心から感謝しています。彼女は晴れの日も嵐の日もわたしに連れ添ってきてくれました。二人とも昔ほどの背丈はありませんが、互いへの愛は少しも小さくなってはいません。」(「主のみ業」『聖徒の道』1995年7月号, 75)

多くの人は、結婚や家庭生活がこの世のものだけであると信じている。しかし、教会員であるわたしたちは、ふさわしい夫婦が神殿に参入して神聖な神権の儀式を受けることにより、永遠に夫婦として結び固められると信じている。永遠の家族単位はこのようにして結婚した男女によって始まる。

- 神権の力によって結婚し、その聖約に忠実な夫婦には、どのような永遠の約束が与えられ

るだろうか。(参加者と一緒に教義と聖約131：1-4；132：19-24，30-31を読む。以下は答えの例である。黒板に書くとよい。)

- a. 日の栄えの最高の階級に昇栄して天父やイエス・キリストとともに生活する(教義と聖約131：1-3；132：20-24)。
 - b. 夫婦は「この世においても永遠にわたっても」一緒である(教義と聖約132：19)。子供たちも永遠の家族としてともに生活することができる。(教義と聖約132：19にある「約束の聖なる御霊」とは聖霊を指すことを説明する。聖霊はわたしたちの忠実さに応じて、わたしたちが受けた神権の儀式と交わした聖約が神に受け入れられていることを確認してくださる。)
 - c. 「王位，王国，公国，および力」を受け継ぐ(教義と聖約132：19)。
 - d. 永遠にわたって子孫である霊の子供をもうける(教義と聖約132：19，30-31。教義と聖約131：4も参照)。
- こうした祝福は家族が永遠に続くことを理解するうえでどう役立つだろうか。

忠実な末日聖徒の中には、自分の過ちからではなく、この世で永遠の結婚の祝福にあずかれない人が大勢いる。しかし、最終的にすべての忠実な聖徒がこの祝福を得ることができる。主が約束しておられることを強調する。参加者にこのことを理解させる必要がある。十二使徒定員会会員ダリン・H・オークス長老の次の話を引用するとよい。

「わたしたちは、進歩を望んでも現在は理想的な機会と基本的な条件を欠いている、ふさわしくすばらしい末日聖徒が大勢いることを理解しています。独身生活、子供の授からない生活、死、離婚は理想を妨げ、約束された祝福の実現を遅れさせます。さらに、家庭にとどまって母親あるいは主婦としての務めを果たしたいと願っていても、文字どおりやむなく外に働きに出なければならない女性もいます。しかし、このような苦しみは一時的なものです。戒めに従い、聖約を忠実に守り、正しい望みを抱く神の息子、娘たちには、永遠の世界では何の祝福も拒まれないと、主は約束されました。

現世で得られなかった多くの重要な祝福は福千年で実現するでしょう。御父のふさわしいすべての子供たちに、幸福を与える偉大な計画の中で欠けているものがあれば、すべて実現するのがこの福千年なのです。同じことは神殿で行われる諸儀式についても言えることをわたしたちは理解しています。さらに、家庭生活を営む機会についても同様であるとわたしは信じています。」「(人に幸福を与える偉大な計画)『聖徒の道』1994年1月号，84)

主の教えが参加者それぞれの状況をも踏まえたものであることを理解させるためには、7ページの「参考資料」の一つまたは両方を読むとよい。

結婚と家族関係のコースは家族関係の中に喜びを見いだすために設けられた

一人の参加者に次の部分を朗読させる。

第11代大管長ハロルド・B・リーはこう語っている。「あなたとわたしが行う最も大切な主の業は、わたしたち自身の家庭という囲いの中にあるのです。」(Stand Ye in Holy Places, 255)

- すべての人がこの簡潔な宣言に従って生活したら、世界はどう変わっているだろうか。

このコースが夫婦のきずなと家族を強め、家族のつながりの中に喜びを見いだすために設けられたことを説明する。レッスンは聖文や末日の預言者の教えの中の教義や原則を基に構成されている。

このコースへの参加を選んだことに、家族を強めたいという参加者の望みが表れていることを指摘する。このコースを最大限に活用するためには、3つのことを行う必要がある。

1. クラスに参加する。

結婚や子育てに関してどのような経験を持っているかにかかわらず、このコースの参加者は皆、互いから学ぶことができることを指摘する。話し合われていることが真実であることを証し、レッスンに関連した経験を分かち合うよう参加者に勧める。

2. 『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』を利用する。

参加者に『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』を開かせる。各課には「応用のための提案」があることを指摘する。ここには参加者が学んだ教義や原則を応用するうえで役立つ提案が載っている。さらに、各課には教会中央幹部の説教が一つまたは二つ掲載されている。各課を終えるごとに、参加者は提案されている活動のうち少なくとも一つを行い、各説教を研究する。説教を夫婦とともに読んで話し合うことは、既婚者にとって大変有益である。

学習ガイドの3-6ページを見てもらう。本課の教義や原則を復習するため、参加者に以下を行うよう奨励する。(1)「応用のための提案」にある提案から少なくとも一つを行う。(2) ボイド・K・パッカー長老の説教「この世から永遠にわたって」を学ぶ。

毎回、クラスに学習ガイドを持参するよう参加者に奨励する。

3. レッスンで学んだ教義や原則に従って生活するよう努力する。

福音は単に学ぶだけでは不十分であることを強調する。生活の中で福音の力を享受するには、学んだことを実践しなければならない。ハロルド・B・リー大管長はこう語っている。「それぞれの原則を実践することによって得られる祝福を体験しなければ、いかなる福音の教えも真に理解することはできません。」(Stand Ye in Holy Places, 215)

わたしたちの家庭は「贖い主の岩の上に」築かれた「小さな天国」となり得る

今の世の中にあって、家庭は平安を見いだすことができる貴重な場所であることを強調する。その後、大管長会のトーマス・S・モンソン副管長の以下の言葉を読む。

「一生懸命努力すれば、家庭を天国にすることができます。そして、わたしたちの思いと行いと態度が、この世の旅の正否のみならず、永遠の目標を決める鍵ともなるのです。」(「幸福な家庭のしるし」『聖徒の道』1989年2月号, 71)

● 家庭はどのような点で「小さな天国」となるだろうか。

参加者がこの質問に答えた後、家庭がどのように小さな天国となり得るかについて教師自身の確信を述べる。適切であれば、証の一部として個人的な経験を紹介する。

第12代大管長スペンサー・W・キンボールの以下の言葉を紹介する。

「さらに、過去において家族の結束を強めるうえで少なからぬ働きをしていた社会規範というものが、次第に影の薄い存在となってきています。悪の力が押し寄せる中で、家庭の価値を深くまた積極的な気持ちで信じている人だけが自分の家庭を守ることができる、そのような日が訪れるに違いありません。」(「家族は永遠に」『聖徒の道』1981年4月号, 3)

参加者とともにヒラマン5:12を読む。その後、十二使徒定員会会員のジョセフ・B・ワースリン長老の以下の言葉を読む。

「贖い主と福音の基盤のうえに家庭を築けば、そこは家族が人生の嵐を避けることのできる聖所となるでしょう。」(「堅固な家庭、家族」『聖徒の道』1993年7月号, 73)

● あなたにとって家庭を「贖い主の岩の上に」築くとはどういう意味だろうか。キリストを中心とした家庭を持っている家族は具体的にどのようなことを行うだろうか。

このコースでは、夫婦のきずなと家族を強めるうえで役立つ原則について話し合うことを強調する。家庭において天父とイエス・キリストに近づくためには、これらの原則を実践することが必要である。また永遠に家族とともに住むことを可能としてくれている救い主の無限の贖罪を決して忘れてはならない。

結 び

このコースに対する教師の熱意を伝え、教師に何を期待できるかを参加者に知ってもらう。例えば、教えるために自らを霊的に備えること、また参加者とともに各課の原則を応用し『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』を利用することを約束してもよい。参加者に対して、

クラスに参加し、学習ガイドを利用し、学んだ教義や原則を応用するよう決意を促す。

御霊^{みたま}の導きに従い、家族の大切さを証^{あかし}する。家族を永遠とすることができるという知識に対する感謝を述べる。

参考資料

家族に関して様々な状況にある参加者の必要に対処する

家族に関する参加者の様々な状況に対処するために、以下の言葉の一つまたは両方を読む。

第13代大管長エズラ・タフト・ベンソンは、教会の独身の姉妹にこう語っている。「皆さんは教会の中で重要な役割を果たしています。もちろん教会は家族を重要視していますが、それによって皆さんが主や主の教会に必要とされていないとか、大事にされていないと考えることのないようにと願っています。教会員同士の神聖なきずなは、結婚や年齢、現在の状況がどうかなどという事柄をはるかに越えた次元のものです。神の娘としての皆さん一人一人の価値は何にも増して貴いものです。」（「独身の姉妹たちに」『聖徒の道』1989年2月号，101）

第10代大管長ジョセフ・フィールディング・スミスはこう教えている。「神殿で永遠に結び固められた夫または妻が罪を犯して、日の栄えの王国で昇栄する権利を失った場合、傷つくのは連れ合いであるが、忠実であった連れ合いの進歩がそのために止まることはない。人は皆自分の行いに対して裁かれるのであって、無実の人が罪を犯した人の罪のために罰せられるというような、正義に反することは起こらない。」（『救いの教義』ブルース・R・マッコスキー編，全3巻，1954-1956年，第2巻，164）

第2課

夫婦間に 一致をはぐくむ

目的 既婚者が夫婦間の一致を強めるよう助け、独身会員には夫婦間の一致がもたらす喜びを得る備えをさせる。

- 準備**
1. 教える準備をしながら、「教師としてのあなたの責任」（本書 ix-xi）にある原則を実践する方法を探す。
 2. 太字の見出しを読む。これらの見出しには本課の教義と原則が要約されている。準備の一部として、これらの教義と原則を応用できるよう参加者を助ける方法を思い巡らす。参加者の必要に合ったレッスンをを行うために何を強調すればよいかを決めるに当たって、御霊の導きを求める。
 3. 『家庭の夕べアイデア集』（31106 300）がある場合は、255-256ページにある「結婚生活における一致」を研究する。レッスンにおけるこの資料の利用を検討する。
 4. 各生徒のために紙とペンまたは鉛筆を用意する。

レッスンの進め方の 提案

主は、夫婦は一体となるべきであると命じられた

レッスンを始めるために、黒板に $1+1=1$ と書く。

- これは夫婦関係をどのように表しているだろうか。
参加者がこの質問について話し合った後、ともに創世2：24を読む。神は夫婦に一体となるように命じられていることを強調する。
- 夫婦が一体となるとはどういう意味だろうか。
参加者に十二使徒定員会会員であるヘンリー・B・アイリング長老の以下の言葉を読ませる（『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』p. 7）。
「男女が創造されたとき、結婚によって一つとなることが、希望としてではなく、戒めとして与えられました。『それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。』（創世2：24）天父はわたしたちが心をつつにするように望んでおられます。この愛における一致は、単なる理想ではありません。必要不可欠なものなのです。』（「わたしたちが一つとなれるように」『聖徒の道』1998年7月号、70）
このレッスンでは夫婦が一致するための方法について話し合うことを説明する。

夫婦は互いに相手を対等なパートナーとして大切にすべきである

夫婦間の一致に関する大切な原則の一つは、夫婦が互いに相手を対等なパートナーとして大切にすることであることを説明する。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、大管長会の第一副管長であったときにこう語っている。

「結婚生活は、本来、対等な協力関係です。一方が他方に対して支配権を振るうのではなく、むしろどんな責任を果たし、目標を掲げるときにも、互いに励まし合い、助け合う関係になければなりません。』（「私は信じる」『聖徒の道』1993年3月号、7）

- 夫婦が一体となるためには互いに相手を対等なパートナーとして大切にしなければならないのはなぜだろうか。
- 夫婦関係において夫婦が対等なパートナーとなるのを妨げる態度や習慣にはどのようなものがあるだろうか。夫婦はそのような問題を克服するためにどのようなことができるだろうか。

うか。

十二使徒定員会会員のボイド・K・パッカー長老はこう教えている。

「妻や母親だけが夫や息子の神権の義務に身をささげて努力しなければならないということはありません。当然のことながら、夫や息子を支持し、守り、励まします。

代わりに神権を持つ者は、妻や母親が必要としていることや果たすべき責任に対して自分自身をささげるのです。神権者は、妻や母親の物理的、情緒的、知的、文化的幸福と霊的成長を神権の義務の第一に据えなければなりません。

赤ん坊の世話や子育て、家事に関連した仕事には、いかに雑多なものでも、夫が対等に責任を有していないものはないのです。」(“A Tribute to Women,” *Ensign*, 1989年7月号, 75)

十二使徒定員会会員のリチャード・G・スコット長老は神権者に次のような勧告を与えている。「夫であり、ふさわしい神権保持者として、あなたは主の神権を持つ者として救い主の模範に熱心に倣いたいと望むでしょう。妻と子供にあなたのすべてをささげることが、これからの人生の焦点となることでしょう。時には男性というものは家族一人一人の運命を支配したいという誘惑に遭います。彼がすべてを決めてしまうのです。彼の妻は彼の気まぐれに振り回されてしまいます。それが文化的な慣習であるからとかどうか、そんなことは問題にもなりません。それは、主の道から外れたことです。それは、末日聖徒の夫が妻や子に対して執るべき態度ではありません。」(「神殿の祝福を受ける」『リアホナ』1999年7月号, 30)

- 互いに相手に対等なパートナーとして大切にしている夫婦はどのようなことを行うだろうか。(黒板に参加者の答えを要約する。必要であれば、以下に挙げられている事項を紹介し、参加者にそれらに関連した経験を話してもらう。)
- a. 家族がともに祈り、家庭の夕べを開き、ともに聖文を研究するように、その責任を分担する。
- b. 一緒に家計の支出についての計画を立てる。
- c. 家庭でのルールや子供のしつけ方について話し合い、合意する。子供はそのような決定において両親が一致していることを知る。
- d. 一緒に家族の活動を計画する。
- e. 家事について協力し合う。
- f. 一緒に教会に出席する。

夫婦は互いの人格や能力を補い合うべきである

参加者とともに1コリント11:11を読む。その後、リチャード・G・スコット長老の以下の言葉を紹介する。

「主の計画では、完全な者となるには二人、つまり男性と女性が必要です。……人生最大の幸福を得、生産性を発揮するには、夫と妻の両方が必要なのです。二人の働きは結びつき、補い合っています。各人は、主が男女の幸福のために定められた役割に最も合う、それぞれの特質を与えられています。主が意図されたとおりにこれらの特質を行使するなら、夫婦は、一つとなって考え、行動し、喜びを得ることでしょう。また、問題と一緒に直面し、一つとなって克服するでしょう。愛と理解力をもって成長し、神殿の儀式を通して結び合わされた二人は永遠に一つとなるでしょう。これがその計画です。」(「偉大な幸福の計画を实践する」『聖徒の道』1997年1月号, 84)

スコット長老が教えている原則を説明するために、以下の活動を行う。

各参加者に紙とペンまたは鉛筆を配布する。既婚者には、自分の性格および能力と自分の伴侶はんりよの性格および能力をそれぞれ幾つか書き出してもらう。独身者には、一組の夫婦について考えてもらい、夫と妻の性格および能力をそれぞれ幾つか書き出してもらう。参加者に数分間を与えて書かせた後、以下の質問をする。

- あなたが書き出した性格や能力は、夫婦が一致するうえでどのように役立つだろうか。(参加者に具体例を紹介してもらう。)
- 夫婦の相違が夫婦関係における強さとなった例として、どのようなものを目にしてきただろうか。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長の妻、マージョリー・P・ヒンクレー姉妹が結婚して最初の1年について語った以下の言葉を読む。

「わたしたちが愛し合っていたことは疑いのないところでしたが、相手に慣れることも必要でした。どの夫婦も相手に慣れなければならないと思います。わたしは結婚当初、常に相手を変えようと試みるよりも相手に慣れるようにもっと努力した方がいいことに気づいたのです。」(Church News, 1998年9月26日付, 4)

- 夫婦が「常に相手を変えようと試みる」よりも「相手に慣れ」ようと努力するとき、結果にどのような違いが出てくるだろうか。

夫婦は互いに誠実でなければならない

第15代大管長ゴードン・B・ヒンクレーの以下の勧告を紹介する。

「二人の間に立ち入って結婚生活を崩壊させるものが決してないようにしようと、決心してください。結婚生活を成功に導く事柄を実行してください。実行すると決意してください。そうすれば、心を傷つけ、時には生活をも崩壊してしまう多くの離婚は避けられます。互いに心から誠実であってください。」(「人生の責務」『リアホナ』1999年5月号, 4)

- あなたにとって「誠実」とはどういう意味だろうか。(忠実、偽りがなく、信頼できる、などの答えが考えられる。)

主は夫婦が互いに誠実であることの必要性を強調しておられることを説明する。参加者とともに教義と聖約42:22を読む。この戒めは夫と妻に等しく当てはまることを指摘する。

- 夫または妻と結び合い、その他のものと結び合ってはならないとはどういう意味だろうか。

第12代大管長スペンサー・W・キンボールはこう教えている。「その他のものと結び合ってはならないという言葉は、ほかのあらゆる人、あらゆるものを排除することを意味します。伴侶はその生活で最も優先されるものであって、社交、職業、政治、その他の利害、人が自分の伴侶よりも優先されるようなことがあってはなりません。」(Faith Precedes the Miracle [1972年], 143)

- 人とのつき合い、職業、および教会に熱心であることが伴侶に対する誠実さの妨げとならないようにするにはどうすればよいだろうか。
- 夫婦は互いに誠実であることを示すために、具体的にどのようなことができるだろうか。(参加者がこの質問への答えに困っている場合は、以下に挙げられているような例をいくつか紹介する。)

- 夫は妻の誕生日を祝うために、仕事やレクリエーション、その他の予定を変更する。
- 妻は夫の仕事がうまくいくように毎日祈る。
- たとえ別の用事があるときでも互いに耳を傾ける。
- 家族や友人との会話において、伴侶について愛と敬意を持って語る。

結 び

主とその預言者は夫婦に対して愛のうちに一致して対等なパートナーとしてともに働くように命じておられることを強調する。夫婦は互いに誠実であることを、思い、言葉、行いを通じて毎日示すことができる。

御霊の促しに従って、レッスンで話し合ったことが真実であることを証する。

『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の7-10ページを見てもらう。レッスンでの教義や原則を復習するため、参加者に以下を行うよう奨励する。(1)「応用のための提案」にある提案から少なくとも一つを行う。(2) ヘンリー・B・アイリング長老の説教「わたしたちが一

つとなれるように」を読む。学習ガイドに掲載されている説教を夫婦でともに読んで話し合うことは、既婚者にとって大変有益であることを指摘する。

次回のレッスンに学習ガイドを持参するよう参加者に言う。

目的 愛の原則に対する参加者の理解を深め、既婚者は夫婦間の愛をはぐくむよう奨励する。

- 準備**
1. 「教師としてのあなたの責任」(本書 ix-xi)にある原則を応用する方法を検討する。
 2. この課の教義と原則を示す太字の見出しを読む。準備として1週間を通しそれらの教義と原則について思い巡らし、参加者の必要に合ったレッスンをを行うには何を強調すればよいかを御霊の導きを求めながら決める。
 3. 以下の教材を入手できれば、レッスンの中で利用できるように準備しておく。
 - a. 結婚式の写真(1枚または数枚)。例えば、「神殿に行く若い男女」(62559; 『福音の視覚資料セット』609)を見せたり、教師自身の結婚式の写真を持参し、参加者にも自分の結婚式の写真を持参してもらったりしてもよい。
 - b. 花または花の写真。

レッスンの進め方の提案

夫婦は互いに愛情をはぐくまなければならない

1枚または数枚の結婚式の写真を見せる(「準備」の3a参照)。新婚の夫婦が互いに対して抱く愛について意見を述べる。

花または花の写真を見せる(「準備」の3b参照)。一人の参加者に、第12代大管長スペンサー・W・キンボールの以下の言葉を読んでもらう(『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』13)。

「愛は花に似ていますし、また体にも似ています。愛は絶えず養いを必要としています。死すべき体は、もし度々養いを与えなければ、すぐにやせ衰え死んでしまうでしょう。繊細な花は栄養と水がなければ、枯れて死んでしまうでしょう。愛もそれと同じで、愛を構成するものによって続けて栄養を与えられなければ、永遠に続くことは期待できないのです。つまり、尊敬や称賛の気持ちを態度で示すこと、感謝の気持ちを表すこと、無私の思いやりがなければならないのです。」("Oneness in Marriage," *Ensign*, 1977年3月号, 5)

このレッスンでは、夫婦は、互いへの愛が成長し続けるようにするために、どのように愛をはぐくめばよいかについて学ぶことを説明する。

優しさと思いやりを示すことによって夫婦間に愛と友情を保つ

既婚者に、自分の新婚時代のことを思い出させる。当時、伴侶のために行ったことを幾つか話してもらおう。

- そのような行いが結婚生活の中で引き続き必要なのはなぜだろうか。

夫婦は生涯を通じて愛を示し続け、絶えず友情をはぐくまなければならないことを説明する。そうするとき、夫婦は互いへの愛がより強いものとなっていくことに気づくであろう。

七十人のマーリン・K・ジェンセン長老はこう述べている。「友情は……求婚期間と結婚生活において不可欠かつ素晴らしい要素です。友情から芽生え、ロマンスに熟し、結婚へと至る男女間の関係では常に、友情が絶えることはありません。安易に離婚する今日の世界にあって、夫と妻が現世での祝福や試練を経験する際に、絶えず互いの友情を静かに享受する姿は、何にも勝って人々を鼓舞します。」(「友情——福音の原則」『リアホナ』1999年7月号, 75)

七十人であった当時、ジェームズ・E・ファウスト長老は、離婚のあまり目立たないが重

大なる原因の一つは、「結婚生活を絶えず豊かにしようとする気持ちが欠けていることです。……結婚生活が苦痛で困難に感じられ、退屈に思われるようになったときに、それを貴重で、特別な、すばらしいものに変えようとする前向きな努力が見られないこと」であると語っている。彼はこう勧告している。「結婚生活を豊かなものとする大きな目標もその第一歩は小さなことから始まります。絶えず互いに理解し合って、感謝の気持ちを表すことです。互いに励まし合い、助け合って成長することです。結婚生活は夫婦がそろって真、善、美を希求するところなのです。」（『結婚生活を豊かにするもの』『聖徒の道』1978年2月号，11，13）

- 夫婦間の愛と友情をはぐくむ「小さなこと」にはどのようなものがあるだろうか。（参加者の答えを黒板に書き出す。）これらの方法によって愛をはぐくみ続けることの大切さを示している経験や例があるだろうか。

結婚して35年以上になるある女性はこう語っている。「夜や週末に出かけた夫が小さなおみやげを持って帰って来てくれると、今でもとてもうれしく思います。大きなものである必要などありません。集会で取っておいてくれたクッキーや花でいいのです。また特にうれしいのは、昼間、夫が仕事先から電話をくれて、ただわたしがどうしているか聞いてくれたり、ちょっとしたニュースを話してくれたりするときです。このような小さなことが、自分は愛され大切にされていると感じさせてくれるのです。」

夫婦は二人だけの時間を持つよう計画する必要があることを指摘する。七十人のジョー・J・クリステンセン長老の以下の勧告を参加者に読ませる（『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』20）。

「いつまでも新婚時代の気持ちを忘れないでください。一緒に二人だけで、何かをする時間を作ってください。家族として子供たちと一緒に過ごす時間ももちろん大切ですが、それと同じように、二人だけで毎週定期的に時間を過ごす必要もあります。きちんと時間の調整をしておけば、『結婚生活はとても大切なものだから、それを大切に育てていこう』という両親の気持ちを子供たちに分かってもらえるはずですよ。そのためには、決意と計画と時間の調整とが必要ですよ。」（『幸福の偉大な計画と結婚』『聖徒の道』1995年7月号，70）

- 夫婦が二人の時間を取るのを妨げるものにはどのようなものがあるだろうか。夫婦はどうすれば愛を示し続けるための時間を作ることができるだろうか。

結婚生活における適切な性関係は愛情の表現である

主は結婚生活における適切な性関係を承認しておられることを説明する。それは夫婦の心をつなげて互いへの愛を強め、夫婦に大きな祝福をもたらす。以下の言葉の幾つか、またはすべてを紹介する。

十二使徒定員会会員のリチャード・G・スコット長老は、結婚生活における性関係の目的についてこう説明している。「主は永遠に続く結婚という聖約の中で、夫婦が主の定められた範囲において、その愛と美しさを保ちながら神聖な創造の力を用いることを許されました。この個人的で神聖で親密な経験の一つの目的は、天の御父が現世での経験をさせるために送ろうとしておられる霊に肉体を与えることです。この力強く美しい愛の感情が与えられているもう一つの理由は、夫と妻が互いに対して誠実で忠実な心、思いやりを持ち、目的を一つにすることにあります。」（『正しい選択をする』『聖徒の道』1995年1月号，43）

十二使徒定員会会員のダリン・H・オークス長老はこう教えている。「この世に生命を送り出す能力は神がその子らに賜った至高の力です。その行使は最初の戒めの中で命じられました。しかし、その誤用を禁じる別の戒めも与えられました。神が計画を実現されるうえで生命の創造の力が果たす役割を理解すれば、教会がなぜ純潔の律法を強調するのかは明らかです。神はわたしたちが生命の創造の力を用いることを喜ばれますが、それは結婚というきずなの中でのみ行使するように命じられました。」（『人に幸福を与える偉大な計画』『聖徒の道』1994年1月号，83）

スペンサー・W・キンボール大管長はこう教えている。「合法的な結婚の中でのみ性的に親

密な関係は正当化され、神の承認を受けることができます。性的な交わりそのものは不浄でも堕落したものでもありません。というのも、男女はこの手段によって生命の創造の過程に加わり、愛の表現を知るからです。」(The Teachings of Spencer W. Kimball, エドワード・L・キンボール編 [1982年], 311)

十二使徒定員会会員のジェフリー・R・ホランド長老はこう教えている。「人間の性的な交わりは、結婚した男女のために取っておかれているものだという事です。なぜならそれが神により定められた欠けるところのない一体化、すなわち完全性と一致の究極的象徴だからです。エデンの園に始まり、結婚は一人の男性と一人の女性が、その心、希望、生活、愛、家族、未来、その他あらゆるものに関し完全に合体するということを意味します。アダムはエバを『わたしの骨の骨、わたしの肉の肉』と呼び、二人は『一体』となりともに生活するようになりました。この一致が完全なものだからこそ、永遠に続く約束を表現するために『結び固める』という言葉を使うのです。預言者ジョセフ・スミスはかつて、お互いに『固いつながり』で結ばれる神聖なきずなをわたしたちは生み出すことができるだろうと語りました。」(「個人の清さ」『リアホナ』1999年1月号, 84)

第14代大管長ハワード・W・ハンターは、たとえ夫婦間であっても神聖な生殖の力は誤用されてはならないと勧告している。「利己心を避けて愛情と尊敬を、夫婦間の親密な関係をはぐくむ原則としなければなりません。夫婦は互いの必要と望みに対し、常に敏感で思いやり深くなければなりません。夫婦の親密な関係における、傲慢で分別のない行いは、主の叱責を招くでしょう。」(「義にかなう夫、父親」『聖徒の道』1995年1月号, 58)

参加者とともに出エジプト20:14, 17を読む。その後、第15代大管長ゴードン・B・ヒンクレーの以下の言葉を紹介する。

「わたしたちは、婚前の純潔と、結婚後も完全な貞節を守るべきであると信じています。要約するとそういうことになります。それは幸せな生活への道です。また喜びへの道でもあります。それは心に安らぎを、そして家庭に平安をもたらします。」(「それは、片すみで行われたのではない」『聖徒の道』1997年1月号, 58)

夫婦は不貞の温床となるいかなることも行わないように注意すべきであることを強調する。例えば、職場にいる異性との間には感情的にも物理的にも常に適切な境界線を維持しなければならない。

- 夫婦間の完全な貞節がきわめて重要なのはなぜだろうか。
- ポルノグラフィーなど不健全なものを見ることは、どのような点で夫婦間の信頼に背いているだろうか。異性と戯れることは、夫婦関係にどのような害を及ぼすだろうか。

以下の言葉の一つまたは両方を紹介する。

ハワード・W・ハンター大管長はこう助言している。「思い、言葉、行いにおいて、結婚の聖約に忠実であってください。ポルノグラフィー、妻以外の女性との戯れ、不健全な妄想などは、本人の人格をむしろ、幸福な結婚生活を根本から揺るがします。それによって結婚生活における一致と信頼も崩れ去ります。」(「義にかなう夫、父親」58)

第13代大管長エズラ・タフト・ベンソンはこう勧告している。「既婚者は、あらゆるたぐいのみだらな行い、軽率な行いを避けてください。……異性と戯れたり、あるいはただ単に関心を持つということだけでも、容易に道を誤り、結果として伴侶に不貞を働くことになり得るのです。次のように自分自身に問いかけてみるとよいでしょう。自分の伴侶は、もし自分のしていることを知ったならばそれを喜ぶだろうか。自分が秘書と二人だけの時間を過ごしていると知ったならば、妻はそれを喜ぶだろうか。自分がほかの男性と親しくしているのを見て、夫はそれを喜ぶだろうか。愛する兄弟姉妹の皆さん、これこそパウロの言っていた事柄なのです。『あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい。』(「純潔の律法」『聖徒の道』1988年10月号, 39)

夫婦はキリストの純粋な愛である慈愛を身に付けるように努力しなければならない

- 生徒とともにヨハネ13：34-35およびエペソ5：25を読む。これらの箇所は、夫婦が互い
にどう接するべきかについてどのようなことを教えているだろうか。

夫婦の肉体的な結びつきは大切であるが、それが愛の最も大切な側面ではないことを強調する。スペンサー・W・キンボール大管長の以下の言葉を紹介する。

「〔結婚生活における愛は、〕奥の深い、すべてを含んだ、包括的なものです。誤って愛という名前を付けた、ほとんどが肉体的な結びつきしかないこの世的な交わりのたぐいではありません。もしも結婚が後者だけに基づいているならば、その夫婦はすぐに互いに飽きてしまうでしょう。……主が語られる愛には、肉体的な結びつきのみでなく霊的な結びつきも存在します。それは互いへの信頼と確信、理解です。それはすべてにわたってパートナーであること、つまり共通の理想と標準を持つことなのです。互いへの無私の思いやりと犠牲です。清い思いと行い、そして主と主のプログラムへの信仰です。それは神となって創造の業に加わり、霊の子供たちの親になることを常に待ち望みながら、この世の親としての務めを果たすことです。その愛は広漠としていて、すべてを包含し、限界がありません。この種の愛は飽きることもしほむこともありません。病や悲しみを乗り越え、繁栄や窮乏を経験し、達成や失望を味わい、この世から永遠にわたって生き続けるのです。」(Faith Precedes Miracle [1972年], 130-131)

キンボール大管長が語っている愛は慈愛、すなわちキリストの純粋な愛であることを説明する。参加者とともにモロナイ7：45-48を読む。読みながら慈愛の特徴を調べるよう参加者に言う。それらの特徴を以下のように黒板に書く。

慈 愛

長く堪え忍ぶ。
親切である。
ねたまない。
誇らない。
自分の利益を求めない。
容易に怒らない。
悪事を少しも考えない。
罪悪を喜ばないで真実を喜ぶ。
すべてを忍ぶ。
すべてを信じる。
すべてを望む。
すべてに耐える。
いつまでも絶えることがない。
最も大いなるものである。
キリストの純粋な愛である。
とこしえに続く。

天父とイエス・キリストを愛し、彼らのもとに行くという決意を除いて、結婚、特に永遠の結婚の決意はわたしたちがする決意の中で最も大切なものである。夫婦は互いに対する慈愛を身に付けるために絶えず努力しなければならない。

参加者がこの原則を応用するのを助けるために、黒板に書かれている慈愛の特徴に注目させる。「自分の利益を求めない」や「いつまでも絶えることがない」などの慈愛の具体的な特徴を夫婦間でどのように表すことができるかについて話し合うよう勧める。これらの特徴を目にした例を紹介してもらう。

結 び

夫婦は愛と友情をはぐくまなければならないことを強調する。夫婦は愛情と優しさの表れ

となる小さなことを絶えず行うことによって愛をはぐくむ必要がある。また人生の喜びや重荷を分かち合い、互いの霊的、物質的、情緒的な必要に敏感でなければならない。夫婦は夫婦関係に不可欠な愛を破壊するようないかなることも決して行わないと決意しなければならない。また「〔慈愛〕で満たされるように、……熱意を込めて御父に祈」らなければならない（モロナイ7：48）。夫婦が絶えず互いに対して完全に献身的であるならば、互いへの愛は年月とともに増していくであろう。そして自分たちが真にキリストのような愛を身に付けつつあることを知るであろう。

『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の11-14ページを見てもらう。レッスンでの教義や原則を復習するため、参加者に以下を行うよう奨励する。(1)「応用のための提案」にある提案から少なくとも一つを行う。(2) スペンサー・W・キンボール大管長の説教「結婚によって一つとなる」を読む。学習ガイドに掲載されている説教を夫婦でともに読んで話し合うことは、既婚者にとって大変有益であることを指摘する。

夫婦間の問題に 対処する

第4課

目的 夫婦は協力して問題に取り組まなければならない、フラストレーションや怒りではなく、忍耐と愛をもって対処すべきであることを参加者に学ばせる。

- 準備**
1. 「教師としてのあなたの責任」(本書 ix-xi)にある原則を復習する。教える準備をする際にそれらの原則を応用する方法を探す。
 2. この課の教義と原則を示す太字の見出しを読む。準備として1週間を通しそれらの教義と原則について思い巡らし、参加者の必要に合ったレッスンをを行うには何を強調すればよいかを御霊の導きを求めながら決める。
 3. 18ページにある聖句を研究し、それらについての話し合いを進める準備をしておく。
 4. 『家庭の夕べアイデア集』(31106 300)がある場合は、256-257ページにある「結婚生活における争いを解決する」を研究する。この資料をレッスンで利用することを検討する。

レッスンの進め方の提案

夫婦は皆、問題に直面する

七十人のブルース・C・ヘーフェン長老が語った以下の物語を紹介する。

「〔ある〕花嫁は、式の当日に、うれしさのあまりため息交じりにこう言いました。『ああ、やっと悩みから解放された。』『そうよ』と母親が答えました。『でも、新しい悩みが待っているわ。』」(「聖約による結婚」『聖徒の道』1997年1月号, 29)

● 夫婦が直面する悩みや困難にはどのようなものがあるだろうか。(参加者の答えを黒板に書く。以下のような答えが考えられる。)

- | | |
|-------------|-------------------------|
| a. 意見の不一致 | h. すべての子供が家を離れた後の充足感の模索 |
| b. 利己心 | i. 愛する者の死 |
| c. 心を傷つけられる | j. 財政問題 |
| d. 健康に恵まれない | k. 道をそれた子供 |
| e. 子供に恵まれない | l. 天災 |
| f. 老い | |
| g. 障害を持った家族 | |

試練の中には夫婦関係における問題の結果として生じるものもあれば、人生の一部として自然にやって来るものもあることを指摘する。

結婚を聖約の関係として見れば、夫婦はどのような問題も解決できる

夫婦が問題にどのように対処するかは、彼らが夫婦関係をどのように考えるかによって異なってくることを説明する。黒板に契約および聖約と書く。

契約とは個人または団体の間の書面による合意であることを説明する。契約はその国の法律によって効力を持つ。聖約は契約と似ているが、より大きな影響力を持つ。「聖約」という言葉は人と人との間で交わされる合意を指すこともあるが、福音においてはわたしたちと主の間で交わされる合意を指す。聖約では、主が条件をお定めになり、わたしたちはそれらを守ると約束する(『聖句ガイド』「聖約(契約)」の項, 152参照)。わたしたちが約束を守るとき、主は御自身の約束を果たす義務を負われる(教義と聖約82:10参照)。

今日の社会では多くの人が結婚を単なる契約としか考えていないことを指摘する。以下の

質問について参加者に心の中で考えてもらう。

- 夫婦間に問題が生じたとき、二人の関係を契約として考えている夫婦はどうするだろうか。二人の関係を聖約として考えている夫婦の場合はどうだろうか。

七十人のブルース・C・ヘーフェン長老はこう述べている。「問題が起きると、合意だけの結婚による当事者たちは、離れ去ることで幸福を求めます。彼らは利益を求めて結婚したのであって、その報いがある間だけ、彼らは婚姻関係を続けます。しかし聖約による結婚に問題が起きた場合、夫と妻は協力して問題を解決します。……合意のうえの伴侶は結婚生活を守るために半分の努力しかしますが、聖約によって結ばれた伴侶は全身全霊を尽くして結婚生活を守ります。結婚は本来は聖約によるものであり、勝手に解消できる個人的な合意ではありません。」（「聖約による結婚」29）

問題が生じたときは、フラストレーションや怒りではなく忍耐と愛をもって対処できる

夫婦が直面する問題の中には避けられないものもあるが、問題にどのように対応するかは選ぶことができる。七十人のリン・G・ロビンズ長老はこう説明している。「わたしたちを怒らせる人などいないのです。だれかがわたしたちを怒らせるものではありません。何ら強制力は働いていないのです。怒りは意識的に選ぶものであり、意志に基づいて決めることなのです。ですから、わたしたちは怒らないという選択が可能です。わたしたちが選ぶのです。」（「選択の自由と怒り」『聖徒の道』1998年7月号、86）

天父はわたしたちに選択の自由、すなわち自分自身で選び行動する力を与えてくださっていることを強調する。わたしたちは問題が生じたときに、選択の自由を行使して忍耐と愛を選ぶことができる。

参加者に以下の聖句を順番に朗読してもらう。読みながら、夫婦は夫婦関係や日々の生活における問題に対応する際に、これらの聖句をどのように応用することができるかについて話し合うよう奨励する。

モーサヤ18：21

1ヨハネ4：18

1ペテロ4：8（『聖句ガイド』の

ジョセフ・スミス訳参照）

ヨハネ13：34-35

ヨハネ16：33

2ニーファイ31：20

教義と聖約24：8

アルマ38：12

3ニーファイ11：29-30

ヤコブの手紙1：19-20

モーサヤ3：19

- フラストレーションや怒りを感じ始めたとき、そうした気持ちを克服するためにどのようなことができるだろうか。（以下のような答えが考えられる。）

- a. 落ち着くまでその場から離れる。
- b. 助けと導きを求めて祈る。
- c. 意見の不一致がある場合は、時間を取って相手がそう考える理由や相手の気持ちについてよく考える。
- d. 地元の教会指導者や、必要であれば考え方や療法が教会の教えと一致している専門のカウンセラーの助けを求める。

夫婦が問題への対応の仕方を選ぶことができることを説明するために、以下の物語を読む。これは結婚生活で生じる日常的で小さな問題の一例であることを説明する。

「いつもと同じような日でした。デラは一日中、どんなに頑張っても、家族の必要を満たすことができませんでした。隣の家に住む人たちは、自分のところより子供の数が多いのに、とても楽しそうにやっているようでした。デラはそれを見て、自分の、女として母親としての能力に自信をなくしてきていました。ベンは会社から帰るとき、いつもよりずっとおながすいていました。何しろ今日は農機具を配達するために、いつもより130キロも余計に回ったのです。彼は疲れていました。いつも家に帰るのはとてもうれしいことでした。」

家には平安，食物，そして休息があるからです。

ベンが車の音が家の前の道に入って来る音を聞いて、デラは時計を見ました。ああ、いけない！ もう7時じゃない！ どうしましょう！ 彼女はちゃんとごはんの用意をしておこうと思っていたのですが、間に合いませんでした。大急ぎで最後のパンの練り粉を天板に置いたとき、ドアの開く音が聞こえました。

ベンが入って来ると、壁に寄りかかって、デラにほほえみかけました。彼女が息を詰めて見ていると、彼は、テーブルの上に何も用意していないのに気がつきました。彼はちょっと間をおいてから、ふうっとため息をつきました。』（『家庭の夕べアイデア集』256）

参加者に以下の質問をする。

- ベンが自分のことしか考えていないとしたら、何が起こるだろうか。
- ベンが妻のことを気遣っているとしたら、彼はどのような反応を示すだろうか。

質問について話し合った後、物語を続ける。

「ベンがふうっと息を吐いてから、ほほえんで言いました。『手伝うのにちょうど間に合ったようだね。』彼女はほっとしました。彼女は安心して、彼にキスをしながら言いました。『お帰りなさい。大変だったでしょう。夕食ちゃんと用意しておきたかったんだけど』と彼女は、準備のできていないテーブルを指して言いました。

『一緒にやろうよ』と彼は言って、腕を彼女に回しました。二人は、互いにその日の出来事を話し始めました。ベンがテーブルに食器を並べている間、デラはパンをオープンに入れているながら、一日中忙しくて、ダウンしそうだったことを話しました。ベンは、とてもおなかがかすいていることも忘れて、どうしたら彼女が少しでも楽になるか考えていました。』（『家庭の夕べアイデア集』257）

結 び

『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の15-17ページを見てもらう。このレッスンでの教義や原則を復習するため、参加者に以下を行うよう奨励する。(1)「応用のための提案」にある提案から少なくとも一つを行う。(2) リン・G・ロビンズ長老の説教「選択の自由と怒り」を読む。学習ガイドに掲載されている説教を夫婦とともに読んで話し合うことは、既婚者にとって大変有益であることを指摘する。

参考資料

ほんりよ 伴侶への虐待は神に対する罪である

怒りやフラストレーションを感じている夫や妻が乱暴で破壊的な行為をすることがあることを説明する。夫婦はいかなる形であれ、決して伴侶を虐待してはならない。虐待は神の戒めや教会指導者の断固とした宣言に反する行為である。第8代大管長ジョージ・アルバート・スミスはこう宣言している。「主の御霊を受けていれば、人は決してだれかを傷つけたりはしない。人を傷つけるのは、御霊以外の何かほかのものに支配されているときである。」(Conference Report, 1950年10月, 8)

以下の事項を簡潔に紹介する。

ほんりよ
伴侶の虐待には精神的、身体的、性的なものがある。

精神的虐待には、どなる、ののしる、侮辱的または品位を傷つけるようなことを言う、横暴な振る舞いをする、子供や他人の前でほんりよに恥をかかせる、罰として支援や愛情表現を差し控える、伴侶の感情を無視または軽視する、などの行為が含まれる。

身体的虐待には、突き飛ばす、拘束する、揺さぶる、殴る、平手打ちをする、強制する、財政的支援を差し控えることなどが含まれる。

性的虐待には精神的あるいは身体的なものがある。それには性的いやがらせをする、苦痛を与える、力や脅迫を用いる、および性関係を持つときに相手にとって不快なことを繰り返すことが含まれる。

虐待に含まれるものについてさらに質問がある生徒は、監督に相談するべきであることを

説明する。

第15代大管長ゴードン・B・ヒンクレーの以下の言葉を紹介する。ヒンクレー大管長のこの警告は妻を虐待している男性についてのものであるが、女性にも当てはまることを指摘する。この勧告を聞きながら、自身の振る舞いを静かに吟味するように参加者に言う。

「……男性の中には、日中は人々の前でこやかな顔をしていながら、夜になって家に帰ると、自制心を忘れ、ささいなことに腹を立て、怒りを爆発させる人がいます。

このような悪と野蛮な振る舞いをしている男性は、神の神権にふさわしくありません。そのようなことをしている男性は、主の家に入る特権にふさわしくありません。わたしは、自分の妻や子供たちから愛される資格のない男性がいることを残念に思います。自分の父親を恐れる子供、また自分の夫を恐れる女性がいます。わたしの声を聞いている人の中に、このような男性がいるとすれば、わたしは主の僕として、その人を叱責し、悔い改めるよう求めます。自分自身を抑え、感情をコントロールしてください。あなたを怒らせている原因の多くは、ささいなことのはずです。それに比べて、あなたが自分の怒りと引き換えに払う代価は実に恐ろしいものなのです。主に赦しを請うてください。妻に赦しを請い、子供に謝る必要があります。」（『教会の女性』『聖徒の道』1997年1月号、77）

自分が虐待的な行為をするようになっていくことに気づかない人々がいることを説明する。また自分の態度を変える必要があると認識していても、助けなしには変えることができないと感じている人々もいる。

自分の虐待的な行為を理解し変えることに関して助けを望む人は、謙遜に主の助けと導きを求めるときに変わることができる。監督に助言を求めてもよい。監督は教会の標準と一致した援助を提供している地域社会の機関を勧めることもできる。

- 伴侶への虐待は、子供にどのような影響を与えるだろうか。

参加者の答えを求めるほか、伴侶への虐待は破壊的な方法で問題の解決を試みる例として、いつまでも子供の心に残ることを指摘する。子供のころにそのような虐待を目にした人は、しばしば他人を虐待することがあり、結婚後に自らも同じ道をたどることがある。

- 両親が優しさと忍耐をもって問題を解決するのを目にするとき、子供はどのような影響を受けるだろうか。

問題に直面した際に愛にあふれ成熟した態度を示す父母を通じて、子供は生涯失うことのない良い習慣を学ぶことを説明する。管理監督であった当時、ロバート・D・ヘイルズ監督はこう語った。「すばらしい親同士でも意見の食い違うことがあるということ、また、殴ったり、どなったり、物を投げたりしなくても、意見の相違は乗り越えられるということが分かれば、子どもたちに助けとなります。互いの見解を尊重しつつ穏やかに話し合うさまを見聞きすることによって、子どもたち自身も生活の中で見解を異にする相手とどう協力すればよいかを学べるからです。」（『どのように子どもの心に残る親か』『聖徒の道』1994年1月号、10）

積極的なコミュニケーション により問題に対処する

第5課

目的 愛にあふれたコミュニケーションを通じて夫婦間の問題を防ぎ、解決する方法を参加者に教える。

準備

1. 教える準備をしながら、「教師としてのあなたの責任」（本書 ix-xi）にある原則を実践する方法を探す。
2. この課の太字の見出しを読む。これらの見出しには本課の教義と原則が要約されている。準備の一部として、これらの教義と原則を応用できるよう参加者を助ける方法を思い巡らす。参加者の必要に合ったレッスンをを行うためには何を強調すればよいかを御霊の導きを求めながら決める。

レッスンの進め方の提案

どの夫婦でも意見の違いはある

参加者に七十人のジョー・J・クリステンセン長老の以下の話を読ませる（『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』20）。

「時々、こんな話を聞くことがあります。『わたしたちは結婚して50年になりますが、今まで意見の食い違いなど一度もありません。』もしこれが言葉どおりだとしたら、夫婦のうちのどちらかの意見が異常に抑えつけられているか、それともだれかの言うように、どちらかが『真実に対して無知』なのでしょう。聡明な夫婦なら必ず意見の食い違いは存在します。問題は、その解決法をはっきりと知っているかどうかです。そして、そういう努力が、幸福な結婚生活をさらに充実させるための過程の一部なのです。』（『幸福の偉大な計画と結婚』『聖徒の道』1995年7月号、70）

このレッスンでは夫妻が夫婦関係における問題を防ぎ、解決するうえで役立つ具体的な原則について話し合うことを説明する。

夫婦は互いに相手の良い点を見るようにしなければならない

夫婦が互いに相手の良い点を見るならば、問題を防ぎやすくなることを指摘する。また生じた問題を解決するための協力もしやすくなる。以下の話を紹介する。

度々監督のもとへ行っては夫に対する不平を口にしていた女性がいた。監督が彼女にこう尋ねた。「なぜあなたはそれほど無神経で我慢できないと思う男性と結婚したのですか。」女性は少し考えて答えた。「彼には良い点もあったと思うのですが、何一つ思い出せません。彼は変わってしまったのでしょうか。」監督は彼女に、心が和らいで自分がすばらしいと感じていた夫の良い点を思い出せるように、家に帰って祈るように言った。時間とともに、彼女は夫の良い点に気づき、それらに心を向けることができるようになった。彼女はそれまで、夫の欠点ばかりに目を奪われていたために、彼の良い点が見えなかったのである。

● あなたが他人の良い点を探すことの価値を目にした例として、どのようなものがあるだろうか。互いに相手の良い点を探すことは、夫婦関係を強めるうえでどのように役立つだろうか。

一人一人には個性があるが、だれもが神の子供であることを参加者に思い起こさせる。参加者に「家族—世界への宣言」から以下の言葉を読ませる（本書 viii、または『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』iv）。

「すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている神の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末とを受け継いでいます。」

- この真理を心に留めておくことは、夫婦が互いを理解しようと努力するうえでどのような助けとなるだろうか。

互いの中にあるすべての美しく神聖なものを見つけ出そうとすると、夫婦は互いの交わりにより多くの喜びを見だし、互いが神から授かっている可能性を果たせるようによりいっそう助け合うことができる。

十二使徒定員会会員であった当時、ゴードン・B・ヒンクレー長老は「伴侶をこの世で最も大切な友と考えるときに表す敬意」についてこう語っている。「結婚生活におけるお互いへの意識というものは、それに慣れてくると次第に薄れてくる傾向がある。この意識を高尚にしかも靈感あふれる水準に保つ方法が幾つかある。しかし、夫が時々、自分の傍らに立つ協力者が神の娘であって、神とともに永遠の目的を遂行するため偉大な創造の業に携わっているという事実をよく考えてみることに良い方法をわたしは知らない。また、妻が夫への愛情を常に新鮮なものとするには、天父のすべての息子が受け継いでいる神聖な資質に目を留め、それらが尊敬と称賛、励ましによって呼び起こされることを重んじ、望むことが大切である。これらの目的に向かう一つ一つの行動が、互いに絶えず理解し合う気持ちをはぐくむのに役立つのである。」（「主が家を建てられるのでなければ……」『聖徒の道』1971年10月号、305）

積極的なコミュニケーションは問題の防止や解決に役立つ

互いに相手の良い点を認めることのほかに、夫婦は互いに十分なコミュニケーションを持つよう努力しなければならないことを説明する。コミュニケーションは愛と一致をはぐくむうえで、また生じた問題を解決するうえで不可欠である。

黒板に以下の原則を書く。

互いに耳を傾け合う。
問題について率直かつ穏やかに話し合う。
愛にあふれた、積極的な方法でコミュニケーションを持つ。

これらの原則は夫婦間のコミュニケーションを改善するのに役立つことを説明する。以下の資料を利用して、各原則についての話し合いを進める。

互いに耳を傾け合う

十二使徒定員会会員であるラッセル・M・ネルソン長老の以下の勧告を紹介する。

「夫や妻の皆さん、耳を傾けるすべを身に付け、実際に耳を傾けて、互いに学び合ってください。……二人の間の意思の疎通を保つには、ぜひとも話し合いの時間を取る必要があります。結婚生活が人生の中で最も大切な関係であるならば、それに最も時間を費やす必要があります。にもかかわらず、結婚生活に比べれば価値の低い約束事に優先的に時間が取られ、大切な伴侶に耳を傾けるための時間には残りを充てる、ということが往々にしてあります。」（「耳を傾けて学ぶ」『聖徒の道』1991年7月号、23）

- 互いに対して注意深く愛を持って耳を傾けることは、夫婦にどのような利益をもたらすか

ろうか。(以下のような答えが考えられる。)

- a. 相手のほんとうの気持ちや動機についての理解が深まる。
 - b. 裁いたり助言を与えたりする前に理解しようとするようになる。
 - c. それぞれ自分が尊重され愛されていると感じるようになる。
 - d. それぞれ自分の立場を弁解するような態度を執らなくなり、率直にコミュニケーションを持つようになる。
- 夫婦がほんとうに耳を傾け合うのを妨げるものにはどのようなものがあるだろうか。(答えには、多忙なスケジュール、話を聞くための時間を取らない、互いの責任に対する関心の欠如、などが考えられる。)
 - 夫婦はより良い聞き手となるためにどのようなことができるだろうか。(参加者のアイデアを聞くほかに、以下を紹介するとよい。)
 - a. 一緒に話をする時間を取る。じゃまが入らないようにして、互いに相手に全神経を集中する。
 - b. 理解しようとして耳を傾ける。相手の話を途中で遮らない。必要であれば、「それについてもう少し話してくれないか?」、「そのときどう感じたの?」、「理解できたか自信がないのだけれども、つまり……ということ?」などの質問をする。
 - c. 怒ったり気分を害したりするのを避ける。多くの場合、正しい意見は一つとは限らないことを心に留める。

問題について率直かつ穏やかに話し合う

- 結婚生活で直面している問題について、夫婦が互いに率直に話し合うことが大切なのはなぜだろうか。

問題についての話し合いは、大声で議論や口論をせず、敬意を示しながら行わなければならないことを指摘する。当時十二使徒定員会会員であったゴードン・B・ヒンクレイ長老はこう教えている。

「穏やかに話していて、問題が起こるといことはめったにない。声を荒立てたときのみ、火花が飛び、小さなもぐらの塚が大きな山となるほどの論争に膨れ上がるのである。……天の声は静かな細い声である。同様に家庭内の平和の声も静かな声である。」(『主が家を建てられるのでなければ……』305)

デビッド・O・マッケイ大管長はこう語っている。「夫婦は『家が火事で燃えている場合を除いて』、相手に向かって大声を上げてはなりません。」(Stepping Stones to an Abundant Life, Llewelyn R. McKay 編 [1971年], 294)

愛にあふれた、積極的な方法でコミュニケーションを持つ

- 感謝や励まし、愛情を表現することは、夫婦関係にどのような影響を与えるだろうか。批判、小言、あら探しなど、否定的なコミュニケーションは夫婦関係にどのような影響を与えるだろうか。

参加者にジョー・J・クリステンセン長老の以下の勧告を読ませる(『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』19)。

「『いたずらにあら探しをする』ことを避けてください。お互いの欠点に対して過度に批判的にならないことです。だれ一人として完全な者はいない、という点を忘れないでください。わたしたちの目標として、指導者が説いているように、キリストのような者となるためには、まだまだ長い時間が必要なのです。

スペンサー・W・キンボール大管長が言っているように、『いたずらにあら探し』を続けていると、どんな結婚生活でも破綻してしまいます。一般的に言って、わたしたちは皆、自分の欠点については痛いほど承知しています。だから、人からそれについて度々言ってもらふ必要はないのです。絶えず批判されたり小言を言われたりした結果、良い方へ変わったという人はほとんどいません。注意しないと、わたしたちが建設的な批判のつもりで

言ったことが、実際には人を落ち込ませる結果になることもあるのです。」(「幸福の偉大な計画と結婚」『聖徒の道』1995年7月号, 69参照。"Marriage and Divorce," 1976 *Devotional Speeches of the year* [1977年], 148も参照)

- 絶えず不平や批判を口にするのはどのような結果をもたらすだろうか。
- 相手の短所をほかの人の長所と比較することも批判の一つである。このような行いは夫婦関係にどのような影響を与えるだろうか。
- あなたのこれまでの経験の中で、絶えず人を批判するよりも褒めて励ますことの大切さを知ったのはどのようなときだろうか。前向きな言葉は夫婦関係をどのように強めてくれるだろうか。

ある女性は、夫は家にいるときだけでなく人前でも、妻としてまた主婦としての自分の才能についてよく褒めてくれると語った。妻の短所に触れることは決してせず、代わりに妻の長所に目を向けるのである。彼女は、夫の言葉が希望と進歩しようという意欲を与えてくれると述べている。

結 び

十二使徒定員会会員のマービン・J・アシュトン長老の以下の勧告を紹介する。

「家族の話し合いでは、意見の相違は無視せず、穏やかに比較考察し、評価することである。たいていの場合、個人の意見よりも、良い関係が続くことの方がもっと大切である。良い会話の基本は、話をやり取りするときの礼儀と相手を尊重する気持ちである。……互いに意見が合わなくても不愉快にならない方法を身に付けることは、何と大切なことだろうか。」(「家族の交流」『聖徒の道』1976年8月号, 366)

話し合ってきた原則を簡潔に復習する。参加者にこれらの原則を自分の生活で応用するよう奨励する。御霊^{みたま}の促しに従って教師^{あかし}の証を述べる。

『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の18-21ページを見てもらう。レッスンでの教義や原則を復習するため、参加者に以下を行うよう奨励する。(1)「応用のための提案」にある提案から少なくとも一つを行う。(2) ジョー・J・クリステンセン長老の説教「幸福の偉大な計画と結婚」を読む。学習ガイドに掲載されている説教を夫婦でともに読んで話し合うことは、既婚者にとって大変有益であることを指摘する。

信仰と祈りにより 夫婦のきずなを強める

第6課

目的 参加者に、夫婦がイエス・キリストへの信仰を行使してともに祈るときにもたらされる祝福を理解させ、祝福を受けるように努力させる。

準備

1. 「教師としてのあなたの責任」(本書 ix-xi)にある原則を復習する。教える準備をする際にそれらの原則を応用する方法を探す。
2. この課の教義と原則を示す太字の見出しを読む。準備として1週間を通しそれらの教義と原則について思い巡らし、参加者の必要に合ったレッスンをを行うには何を強調すればよいかを御霊の導きを求めながら決める。

レッスンの進め方の提案

夫婦は協力してイエス・キリストを信じる信仰を強めなければならない

大管長会のジェームズ・E・ファウスト副管長の以下の物語を紹介する。

「昨年夏、わたしはユタ州プレザント・グローブにあるオリン・ボロヘス長老のご両親の家を訪問しました。彼はアルゼンチンのブエノス・アイレス南伝道部で伝道した大柄でハンサムな、立派な若者です。彼が伝道部に来て11か月ほどたったある夜、何人かの武装した強盗たちが、彼と同僚を襲いました。無謀な暴力で強盗の一人がボロヘス長老の頭を銃で撃ちました。……

ボロヘス長老は今なおほとんどの部分がまったくまひして話すことができません。しかし、すばらしい精神力を持っていて、質問には手を動かして答えることができます。彼は今でも宣教師の名札を付けています。両親は、主の召しを受けて奉仕していた貴い息子のうえに、『どうしてこんなことが起こったのですか』と問うことはありません。たぶんそれは、さらに貴い目的があったというほかには、だれも確かな答えを持ってはいないからです。わたしたちは信仰によって歩かなくてはなりません。」「(希望、それは心の錨)『リアホナ』2000年1月号、70-71)

参加者とともにヘブル11：1およびアルマ32：21を読む。ジョセフ・スミス訳のヘブル11：1では「信仰とは、望んでいる事柄を確信することである」となっていることを指摘する。〔訳注：英文ではそれぞれsubstance, assuranceという異なる単語が使われている。一方、日本語口語訳では元々「確信」となっている。〕

- これらの聖句によると、信仰とは何だろうか。
- ファウスト副管長が語っているように「信仰によって歩〔く〕」ことが夫婦に要求される状況にはどのようなものがあるだろうか。

参加者に自分たちの生活からの例を紹介するように求める。健康に恵まれない、子供に恵まれない、老い、障害を持った子供、愛する者の死、財政問題、道をそれた子供、天災などの答えが考えられる。たとえ義にかなった生活をしようと努力しているときであっても困難はやって来る。それを指摘する。

参加者とともにモロナイ7：32-33を読む。わたしたちの信仰はイエス・キリストを中心としたものでなければならないことを強調する。十二使徒定員会会員のリチャード・G・スコット長老は、イエス・キリストへの信仰を行使するときこそ困難に立ち向かうための強さが得られると説明している。

「謙遜な心とイエス・キリストへの信仰をもって求めるなら、主は天から力を注いで助けくださるのです。……自分自身が信仰を働かせ努力しなければ、だれもその人を助けられ

ないのです。信仰と努力は個人としての成長にとっても欠かせないものです。不快な思いや苦痛、抑圧、試練や悲しみのない世界を追い求めようとしないでください。これらは、愛に満ちた御父がわたしたちの個人的な成長と理解を促すために用いておられる手段だからです。聖典に繰り返し述べられているように、わたしたちがイエス・キリストへの信仰を行使するなら助けが得られます。キリストへの信仰を表すうえで、主の預言者を通じて語られた主の約束、そして主の言葉を収めた聖典の中の主の約束を心から信じるのが大切です。」(「癒し」『聖徒の道』1994年7月号, 8)

夫婦は救い主を中心とした生活をするよう協力しなければならないことを指摘する。十二使徒定員会会員のジェフリー・R・ホランド長老はこう語っている。

「皆さんは結婚生活、そして永遠に……力と安心と守りを得たいですか。そうであれば、イエスの真の弟子になってください。正真正銘の言行一致の末日聖徒になってください。皆さんの信仰がロマンスのすべてを左右することを信じてください。なぜなら、ほんとうにそうだからです。……世の光であられるイエス・キリストだけが皆さんと皆さんの恋人の愛と幸福の道を照らしてくれる光なのですから。」(“How do I love thee?” [ブリガム・ヤング大学ディボーションアルでの話, 2000年2月15日], 6)

- キリストへの信仰が増すことは、夫婦が互いの関係を強めるうえでどのように役立つだろうか。(以下に挙げたような答えが考えられる。)
 - a. 互いに対してもっとキリストに近い態度で接するようになる。愛にあふれ、相手の力となり、優しく、忍耐強く、進んで互いに耳を傾けるようになる。
 - b. より謙遜^{けんそん}で、進んで悔い改めて救い主の教えに従うようになる。夫婦がそれぞれ進んで悔い改めて救い主のようになろうとすればするほど、夫婦関係はむつまじいものになる。
- 救い主への信仰を増すために、夫婦はどのように協力することができるだろうか。(生徒に救い主への信仰が強まった経験を分かち合ってもらおう。生徒の答えに加えて、以下に挙げられている原則を紹介する。)
 - a. 福音の律法と儀式に従う。(管理監督であったときにロバート・D・ヘイルズ監督が語った以下の言葉を紹介する。「主イエス・キリストへの信仰を得るには、福音の律法と儀式に対して従順であることが不可欠なのです。」[「アロン神権——名譽の帰還」『聖徒の道』1990年7月号, 45])
 - b. ともに聖文を研究する。(参加者とともにヒラマン15:7-8を読む。)
 - c. 主を信頼する。(参加者とともに箴言3:5-6を読む。困難に直面するとき、夫婦はより熱烈に主の助けを求める決意をし、信仰を日々の生活においてより不可欠なものとすることができる。)

夫婦はともに祈るときに祝福される

- 定期的にひざまずいて祈る夫婦にはどのような祝福がもたらされるだろうか。(この質問に当てはまる経験を分かち合うように促す。さらに、以下の言葉と、以下の例の一つまたは両方を読む。)

十二使徒定員会会員であった当時、ゴードン・B・ヒンクレー長老はこう勧告した。

「一日の始めと終わりにともにひざまずくことほど、生活にすばらしい影響を与える習慣をわたしは考えることができない。主の前にひざまずき、相手を前にしてお互いに相手がいることを主に感謝し、そして生活のうえに、家庭のうえに、愛する人々のうえに、また希望がかなえられるように主の祝福を願い求めるとき、どういいうわけか、結婚生活を襲う小さな嵐^{あらし}は消え去ってしまうのである。

この家族の祈りによって神はあなたのよき友となり、神との毎日の会話はあなたの心に平安をもたらし、ほかからでは決して得ることのできない喜びを味わうことであろう。伴侶との結びつきは歳月を経るとともに強くなり、愛が強まり、相互理解はさらに深められるであろう。」(「主が家を建てられるのでなければ……」『聖徒の道』1971年10月号,

305)

ある夫は、妻の祈りはもっとふさわしい夫、そして父親になるように励ましてくれると語っている。彼は妻の隣にひざまずき、彼女の手を取り、祈りの中で自分の心の中にある関心事について天父に切々と語りかける彼女に耳を傾ける。彼は妻の心が清く、動機が純粹であることを知っており、彼の妻に対する愛は増す。彼は妻が天父に語るときには、妻が義のうちに天父に仕えること以外はまったく何も望んでいないことを知っているのである。

別の家族では、夫が長期にわたって身体的な障害に苦しんでいた。彼と妻は毎晩就寝前に天父に祝福を感謝し、4人の子供をわずかな収入で養っていくに当たって主の導きを求めていた。数年後、夫が仕事に復帰できるようになったとき、彼らはどのようにして困難な時期を乗り越えることができたのかという質問を受けた。彼らはともに努力し、ともに祈ったおかげであると証した。彼らの心からの祈りは、御霊あかしによる慰めを通じて受けた希望を含め、たくさんの祝福となってこたえられたのである。

- ともに祈ることは、夫婦が夫婦間の問題を解決するうえでどのような助けとなるだろうか。(参加者がこの質問について話し合う際に指摘したいのは、夫婦は互いに対してわだかまりがあるときに、ともに祈ることをやめてしまうときがあるが、ともに祈ることはそのような問題を克服するのに役立つ強力な手段となるということである。)

大管長会のトーマス・S・モンソン副管長は、彼と妻フランシスがソルトレーク神殿で結び固められた日のことを語っている。儀式を執行したベンジャミン・パウリングは、彼らに次のような勧告を与えた。「お二人に一つの公式を差し上げましょう。これを使えば夫婦の間の問題は一日で解決できます。それは、毎晩ベッドの傍らにひざまずいて祈ることです。モンソン兄弟が祈ったら次の日はモンソン姉妹が祈るといのように、声を出して祈ってください。そうすればその日に持ち上がった問題はみんな消えてしまいます。約束します。一緒に祈れば、心の中はいつもお互いへの温かい思いやりの気持ちでいっぱいになるでしょう。」「『幸福な家庭のしるし』『聖徒の道』1989年2月号, 72)

十二使徒定員会会員のデビッド・B・ヘイト長老はこう語っている。「もし夫婦の間に何か重大な誤解があるなら、あるいはまた、結婚生活けんそんを築くうえで二人の間に何か重苦しいものや緊張を感じるときには、謙遜けんそんな気持ちで天父の前にもひざまずき、二人を覆う暗闇を取り除いていただけるよう誠心誠意祈ることです。そうすれば必要な光が与えられて、自分の欠点がよく見え、悪い点を悔い改めて互いに赦ゆるし合い、結婚したころの初心を取り戻すことができるでしょう。神が生きてましまし、皆さんの謙遜な祈りにこたえてくださると心よりへりくだり申し上げます。」「『結婚と離婚』『聖徒の道』1984年7月号, 23)

既婚の参加者に、伴侶と祈るために自分が行っている努力について心の中で評価させる。独り親の家庭においては、熱烈な個人の祈りが家庭に神の祝福をもたらすことを強調する。

結 び

協力してイエス・キリストへの信仰を行使し祈るとき、夫婦はいっそう大きな幸福、一致、および困難に対処する能力を見いだすことを強調する。

御霊みたまの促しに従って、レッスンで話し合ったことが真実であることを証あかしする。

『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の22-25ページを見てもらう。レッスンでの教義や原則を復習するため、参加者に以下を行うよう奨励する。(1)「応用のための提案」にある提案から少なくとも一つを行う。(2) リチャード・G・スコット長老の説教「人生に喜びを見いだす」を読む。学習ガイドに掲載されている説教を夫婦でともに読んで話し合うことは、既婚者にとって大変有益であることを指摘する。

今回のレッスンに学習ガイドを持参するよう参加者に言う。

第7課

ゆる 赦しが持つ いや 癒しの力

目的 参加者が互いに、赦し合う者にもたらされる平安を感じられるよう助け、家庭において赦しの精神をはぐくむよう奨励する。

準備

1. 「教師としてのあなたの責任」(本書 ix-xi)にある原則を復習する。教える準備をする際にそれらの原則を応用する方法を探す。
2. この課の教義と原則を示す太字の見出しを読む。準備として1週間を通しそれらの教義と原則について思い巡らし、参加者の必要に合ったレッスンをを行うには何を強調すればよいかを御霊の導きを求めながら決める。
3. クラスに『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』を持参するよう参加者に言う。レッスンの間にガイドを参照することは参加者にとって有益である。

注意：本課を教える際には、個々の参加者の状況にとりわけ注意を払う。参加者が虐待や不貞など重大な家庭問題について赦したり赦しを求めたりすることに関して質問してきた場合は、個人的に監督と話をするように優しく勧める。

レッスンの進め方の提案

夫婦間のゆるしの精神は平安と信頼と安心感をもたらす

七十人のヒュー・B・ピノック長老が語った以下の物語を読む。

「だいぶ年を取ってから結婚した一組の夫婦がいました。奥さんの方は婚歴がありましたが、ご主人の方は初婚でした。初めは楽しい生活が続きましたが、数か月たち、二人の間に激しい意見の衝突が起きました。ご主人は苦悩のあまり、毎日の仕事も手がつかない状態になってしまいました。

彼はその危機に直面して動揺しながらも、その問題についてじっくり考えました。そして、少なくとも責任の一端は自分の側にあることに気づいたのです。彼は妻のところに行き、ぎこちない様子で何度か口ごもるようにしながら言いました、「わたしが悪かった」と。奥さんの方も泣きじゃくりながら、問題の大半は自分の責任であり、赦してほしいと言ったのです。妻は自分を抱き締める夫に、これまで自分は人に謝ったことがなかったと告白し、これからはどのような問題が起きても大丈夫だと知ったことを伝えました。彼女の心には安らぎがありました。それは互いに自分の非を認め、赦し合えるようになったからです。」(「実りある結婚生活を築く」『聖徒の道』1982年2月号, 19-20)

この物語をゴードン・B・ヒンクレイ大管長の話と比較する。結婚生活において問題に直面していたある夫婦と面接をしていたときの話である(『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』27)。

「わたしはある夫婦から長々と話を聞いたことがありました。わたしの机をはさんで座った二人の間には苦悩が感じられました。かつては二人の愛も深く、本物であったに違いありません。しかし、互いに相手の欠点を口にする癖が高じて、だれにもあるような間違いでも赦せなくなり、忍耐し合う気持ちを失いました。互いにあら探しを始め、ついにはかつての愛もなくして離婚という破局に至ったのです。そうならば寂しさと相手に対する非難しかありません。もしこの二人に悔い改めと赦しの気持ちが少しでもあったなら、二人は今もなお結婚生活を続け、新婚当初に豊かな恵みをもたらした夫婦愛を享受していたに違いありません。」(「あなたがたには、赦すことが求められる」『聖徒の道』1991年11月号, 5)

● これら二つの例からどのようなことが学べるだろうか。

この課では赦しを求めることの必要性和、互いに赦し合うことの大切さについて学ぶことを説明する。結婚生活において赦しの精神を持つよう努力すれば、夫婦は夫婦関係における多くの困難を克服することができることを強調する。そうするときに夫婦は、互いに赦し合う人に対するゴードン・B・ヒンクレー大管長の約束が真実であることを知るであろう。「ほかの方法では得られない平安な気持ちが心の中に広がっていくのを感じるでしょう。」（「あなたがたには、赦すことが求められる」5）

夫婦は自分の欠点について相手からの赦しを求め、改善に向けて誠実に努力しなければならない

- 夫婦にとって、「ごめんなさい」と言って自分の過ちについて互いに赦しを求めることが大切なのはなぜだろうか。
- 赦しを求めるのが難しいときがあるのはなぜだろうか。（利己心や高慢さがじゃまをする、わたしたちは時々自分たちの問題を他人のせいにすることがある、などの答えが考えられる。）
- どうすれば人に赦しを求めるための強さを見いだすことができるだろうか。
赦しを求めるときには、変わろうと誠実に努力し、必要であれば罪を悔い改めることが大切であることを強調する。単に自分の行動に対する後悔の気持ちを示すだけでは不十分である。わたしたちは人の赦し、また主の赦しを受けるにふさわしくなるよう努力する必要がある。
- 改善に向けて努力せずに赦しを求めることにはどのような危険が潜んでいるだろうか。

レッスンの本項を終えるに当たり、以下の実話の一つまたは両方を紹介する。

ある夕べを妻と数名の友人とともに過ごした後、ある男性は妻がいつになく無口であることに気がついた。彼は妻にどうしたのかと尋ねると、妻は今夜彼が自分を話題にした話をしたために、何度か恥ずかしい思いをし、また傷ついたと説明した。初め、彼は自分の行動を弁護して、あれは冗談を言っていただけで、皆に楽しんでもらっただけであり、彼女の反応は大げさであると言った。しかし話しているうちに、彼は自分がほんとうに妻の感情を傷つけていたことを理解した。彼は自分の軽薄な態度が妻に何度も恥をかかせていたことを理解し、非常にすまなく思った。彼は謝り、もう二度と彼女に恥ずかしい思いをさせないことを約束した。彼は約束を守った。それ以降、彼は人前で妻を心から褒めるようになった。

夫であり父親であったある男性は、10代のころにポルノグラフィーにふけるようになったまま、やめることができずにいた。彼はどうすれば変わることができるのか分からず、自信を失っていた。ついに、彼は助けを求めて熱心に祈り、謙遜になり、救い主の生涯と教えを研究し始めた。救い主の贖罪を通じて与えられる祝福についての理解が深まるにつれ、彼は自分の行動を変えることができることを理解した。彼は自分の中毒が自分自身と自分の結婚生活、そして家族を破壊しようとしているのを知った。イエス・キリストの使命について新たに理解することによって、彼は必要な変化を遂げて結婚生活を救うことができたのである。

スペンサー・W・キンボール長老が十二使徒定員会会員であったときに語った以下の言葉を紹介する。

「あらゆる赦しには条件がある。しっくいはその落ちた箇所を全部覆ってしまうまで塗らなければならない。断食と祈りと謙虚な態度は犯した罪に十分見合うだけのもの、あるいはそれ以上のものが必要とされる。それは『荒布をまとい灰の中に座る』ほどでなければならない。涙と真底からの改心がなければならない。罪を自覚し、悪を捨て、犯した過ちを正しい権限を持つ主の僕に告白しなければならない。償いをし、歩調、方向、目的を改める決意を断固として行わなければならない。自分を取り巻く諸々の条件を調整し、交遊範囲も是正し、変える必要がある。衣を白く洗い清め、神のすべての律法に忠実に新しい生活を始めなければならない。要するに、自己と罪とこの世のことを克服しなければならないのである。」（『赦しの奇跡』364）

夫婦は互いに赦し合うように努力すべきである

自分が犯した罪や過ちに対する赦しを求めることに加え、わたしたちには人を赦す必要があることを指摘する。わたしたちは人が行うささいな事柄のために感情を害することがあるが、主はわたしたちに互いに赦し合うよう命じておられる。参加者とともに教義と聖約64：8-10およびマタイ6：14-15を読む。

- 夫婦が進んで互いに赦し合うとき、夫婦関係はどのように強められるだろうか。
ゴードン・B・シンクレイ大管長はこう勧告している。「……人に対する憎しみという、毒のある思いを募らせている人々がいるなら、赦す力を主に請い求めるように申し上げたいと思います。このような望みを表すことが、まさに悔い改めそのものなのです。主に赦しの力を請うのは容易でないかもしれませんが、その力がすぐに得られるとも限りません。しかし、もし真剣に求め、その望みをはぐくんでいけば、赦しの力は得られるでしょう。……ほかの方法では得られない平安な気持ちが心の中に広がっていくのを感じるでしょう。」（「あなたがたには、赦すことが求められる」5、『結婚と家族関係参加者用ガイド』27も参照）
- 赦すのが難しいことがあるのはなぜだろうか。（今後自分が傷つくことがないように自分を守ろうとするため、赦すことは人を傷つける行動を見逃すことと同じだと考えているため、不愉快な行為をやめる努力をせずに赦しを期待する人を赦すことは難しいため、などの答えが考えられる。）
- 赦すことを拒む夫婦にはどのような危険が潜んでいるだろうか。
- 赦しは赦される人々にどのような祝福をもたらすだろうか。赦されることは好ましくない行動を変えるうえでどのように役立つだろうか。
- 赦しの精神は赦す人にどのような祝福をもたらすだろうか。

人から不当な扱いを受けたと感じたときには、救い主が自分にどのような対応を望んでおられるかを自問するように提案する。第14代大管長ハワード・W・ハンターはこう勧告している。「わたしたちは、聖なる事柄にいつそう思いをはせ、救い主が弟子たちに望んでおられるとおりに行動しなければなりません。あらゆる機会に、『イエスだったらどうなさるだろうか』と自分に尋ねてみる必要があります。そしてその答えに従い、さらに大きな勇気を持って行動してください。」（「神の御子に従う」『聖徒の道』1995年1月号、97）

第6代大管長ジョセフ・F・スミスの以下の勧告を読む。

「わたしたちは皆、弱点や欠点を持っています。夫は妻の欠点を目にして、妻をとがめることが時々あります。妻も時々夫が正しくないことを行っているのを見て、夫を非難します。そのようなことに何の益があるのでしょうか。赦す方が良いのではないのでしょうか。慈愛を示す方が良いのではないのでしょうか。愛する方が良いのではないのでしょうか。欠点を取り上げて、あれこれ文句を言って誇張するより、黙っている方が良いのではないのでしょうか。夫婦の間で、お互いの弱点や欠点を口にするのを忘れるならば、子供たちが生まれたことにより、また新しくかつ永遠の聖約のきずなによって強められてきた結びつきは、いつそう堅固なものになるのではないのでしょうか。それらを忘れて、口にせず、葬り去って、お互いに対して知っている、また感じている良い点だけを口にする方が良いのではないのでしょうか。このようにして他人の欠点を忘れ、大げさにしない方が、良いのではないのでしょうか。」（『歴代大管長の教え—ジョセフ・F・スミス』180）

結 び

スペンサー・W・キンボール長老の以下の言葉を紹介する。

「何という慰め、何という安らぎ、何という喜びであろうか。背罪や悲しみや罪の重荷に苦しんでいる人でも、主のもとに立ち帰り、主について学び、主の戒めを守るならば赦され、罪から清められるのである。またすべての人は、日ごとの愚かな行いや弱さを悔い改めるこ

とによって赦しの奇跡にあずかることができるのである。」(『赦しの奇跡』380)

御霊^{みたま}の促しに従って、互いの欠点^{ゆる}を赦す夫婦には平安が訪れることを証^{あかし}する。そのような夫婦はさらに一致し、夫婦および親としての問題に対処する能力が増す。家庭において赦しの精神をはぐくむよう、参加者に勧める。

『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の26-28ページを見てもらう。レッスンでの教義や原則を復習するため、参加者に以下を行うよう奨励する。(1)「応用のための提案」にある提案から少なくとも一つを行う。(2) ゴードン・B・ヒンクレー大管長の説教「あなたがたには、赦すことが求められる」を読む。学習ガイドに掲載されている説教を夫婦とともに読んで話し合うことは、既婚者にとって大変有益であることを強調する。

次回のレッスンに学習ガイドを持参するよう参加者に言う。

目 的 参加者に家計管理の確かな原則を実践させる。

- 準 備**
1. 「教師としてのあなたの責任」(本書 ix-xi)にある原則を応用する方法を検討する。
 2. この課の太字の見出しを読む。これらの見出しはこの課での教義と原則が要約されている。さらに、『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の29-32ページにあるN・エルドン・タナー副管長の説教「不変の原則」を入念に研究する。この説教で採り上げられている原則が本課の中心となる。準備の一部として1週間を通しこれらの原則を思い巡らす。参加者の必要に合ったレッスンをを行うには何を強調すればよいかを御霊の導きを求めながら決める。
 3. クラスに『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』を持参するよう参加者に言う。レッスンの間に参加者はタナー副管長の説教を参照することになる。
 4. マービン・J・アシュトン「家庭における財政管理の指針」『リアホナ』2000年4月号, 42-47を参照し、レッスンの一部として使うことを検討する。
 5. 36ページにある参考資料を利用する場合は、各参加者のために紙とペンまたは鉛筆を用意する。

レッスンの進め方 の提案

適切な財政管理は幸福な結婚生活に不可欠である

一組の夫婦に前に出てきてもらう(だれにするかは慎重に決める)。ささいなことによって夫婦関係が強まったり、逆に夫婦間に深刻な問題を生じたりすると説明し、1枚の紙幣を見せる。

前に出てきてもらった夫婦のうちの一人にその紙幣を渡す。

- 夫または妻のうちの一人だけが家族の財政を管理することは、夫婦関係にどのような影響を与えるだろうか。

参加者がこの質問について話し合った後、紙幣を返してもらう。

- だれも家計を管理していない、あるいは家計が利子を伴う借金によって管理されているとき、夫婦関係はどのような影響を受けるだろうか。

この質問について話し合った後、紙幣を再び渡す。夫にその紙幣を手で持ってもらい、紙幣を持った夫の手の上に妻の手を置いてもらう。家計管理は愛にあふれた夫婦関係のための最も大切な鍵ではないが、夫婦が協力して家計を管理するとき、彼らは自分たちの家庭を整えるための大切な取り組みにおいて一つとなるのである。また、難しい問題を防ぐこともできる。結婚生活における最も深刻な問題の幾つかは、家計管理がずさんで家族のために行われていないときに生じるものである。

- 夫婦が協力して家計を管理するとき、夫婦関係はどのように強められるだろうか。

夫婦は協力して家計管理の基本原則に従うようにすべきである

参加者に『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の29-32ページを開かせる。「不変の原則」と題した説教に簡単に目を通してもらい、N・エルドン・タナー副管長の「経済的な安定を図るための5原則」を見つけさせる。参加者が原則を見つけたら、それらを黒板に書き出す。

正直に^{じゅうぶん}什分の一を納める。
収入の範囲内で生活する。
欲しい物と必要な物を区別する。
予算を組んで、その範囲内で生活する。
金銭上の事柄に正直になる。

5つの原則すべてを黒板に書いた後、以下の資料を用いてそれらについての話し合いを進める。

正直に^{じゅうぶん}什分の一を納める

参加者の一人にタナー副管長の以下の言葉を読んでもらう（『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』30）。

「什分の一を納めることは戒めであり、しかも、約束を伴う戒めです。この戒めを守るならば『地で栄える』と約束されているのです。この繁栄は物質的なものだけに限りません。健康や活気に満ちた精神も含まれます。家族の一致や霊性の向上も含まれます。現在、完全な什分の一を納めていない方々は、納める信仰と強さを求めていると思います。あなたの創造主に対してこの義務を遂行するとき、実に豊かな祝福を見いだすことでしょう。それは、この戒めに忠実な人でなければ味わうことのできない祝福です。」（『聖徒の道』1980年3月号, 115）

- ^{じゅうぶん} 什分の一を納めることによって、あなたの家族またはあなたが知っている人々はどのような祝福を受けてきたらうか。

収入の範囲内で生活する

参加者の一人にタナー副管長の以下の言葉を読んでもらう（『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』30）。

「わたしが気づいたのは、人は使える以上のお金を得ることなどできないということです。人に心の平安を与えてくれるのは稼ぐお金の額ではなく、そのお金を管理することであると、わたしは確信しています。お金は従順な僕になり得ますが、また厳しい主人にもなります。生活水準を幾らかゆとりのある程度に抑える人は、自分の環境を支配しています。一方、幾らか収入を超えて使う人は、環境に支配されています。そのような人は束縛の状態にあります。ヒーバー・J・グラント大管長はかつて次のように述べました。『人間の心の中に、また家族の中に平安と満足を与えるものが一つあるとすれば、それは収入の範囲内で生活することです。反対に、苦痛を与え、望みをくじき、落胆させるものが一つあるとすれば、それは返せない借金や負債を抱えることです。』（*Gospel Standards*, G・ホーマー・ダラム編 [1941年], 111）

出費を収入の範囲内に抑える^{かぎ}鍵は簡単です。それは自制と呼ばれています。人生では遅かれ早かれ、わたしたちは皆、自分自身を制し、自分の欲望や経済的な欲求を制することを学ばなければなりません。出費を収入の範囲内に抑えることを学び、思いがけないときのために幾らかの蓄えを残す人は何と祝福されていることでしょう。」（『聖徒の道』1980年3月号, 115参照）

第15代大管長ゴードン・B・ヒンクレーの以下の言葉を紹介する。

「家を整える時期が来ているということです。」

教会員の中でぎりぎりの生活をしている人が多くいます。中には借金生活の人もいます。
……

わたしが懸念しているのは、教会員も含めて国中に広がっている分割払いによる負債のことです。……

皆さんに強く申し上げたいのは、家計の状態をよく調べて支出を抑えることであり、購買欲を抑えて、借り入れをできるだけ避けるということです。負債はできるだけ早く返済して束縛から逃れてください。」「若い兄弟たちに、そして成人の兄弟たちに」『リアホナ』1999年1月号、61-62)

- 借金はどのような点で束縛だろうか。
- 借金から抜け出すために、あるいは借金を避けるためにあなたが実践して役立ったものにはどのようなことがあるだろうか。収入の一部を貯蓄できるようにするために、あなたはどのようなことを行ってきただろうか。

欲しい物と必要な物を区別する

参加者の一人にタナー副管長の以下の言葉を読んでもらう（『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』31）。

「わがままと粗雑な家計管理は、結婚生活に重大な心労を生じます。ほとんどの夫婦間の問題は経済的なことに根ざしているようです。家族を養うのに十分な収入がないか、または得た収入を正しく管理していないかのどちらかです。」（『聖徒の道』1980年3月号、115-116参照）

- 必要な物と欲しい物を見分けるにはどうすればよいだろうか。夫婦がこれと一緒にいることが不可欠なのはなぜだろうか。

予算を組んで、その範囲内で生活する

財源がどのようなものであるかにかかわらず、夫婦は皆協力して家族の予算を立てる必要があることを説明する。予算とは一定期間において計画された収入と支出の概要である。予算は家族が支出を確実に収入以下に抑えるのに役立つ。夫婦は必要な物、欲しい物、および財政目標を決定する際に、予算について話し合うべきである。例えば、次の1か月の収入を見積もった後、夫婦は^{じゅうぶん}什分の一や教会のその他の献金、貯蓄、食費、住宅ローンや家賃など、それぞれの分野に用いる金額を決定する。そして1か月間、すべての収入と支出を記録する。大きな買い物など自分たちが立てた予算に影響を与える支出が生じたときには、事前に夫婦で話し合う。1か月が経過した後、実際の収入と支出を当初の予算計画と比較する。

参加者が予算の立て方を理解できるように、『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の33ページに掲載されている次ページの予算例を見てもらう。

参加者の一人にタナー副管長の以下の言葉を読んでもらう（『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』32）。

「何年もの間、大勢の人々と面接してきて感じたことは、実行可能な予算を持たず、予算に添って自制していない人があまりにも多いということです。多くの人は、予算を立てると自由が奪われると考えています。反対に、成功している人々は、予算が真の経済的自由を可能にしてくれることを知っています。」（『聖徒の道』1980年3月号、117参照）

金銭上の事柄に正直になる

参加者の一人にタナー副管長の以下の言葉を読んでもらう（『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』32）。

「誠実さの理想は決して流行遅れにはなりません。それはわたしたちの行動すべてに当てはまります。教会の指導者、また会員として、わたしたちは誠実さのひな型にならなければなりません。」（『聖徒の道』1980年3月号、117参照）

- 金銭が関係したあらゆる行動において正直さが大切なのはなぜだろうか。家計管理において夫婦間の正直さが不可欠なのはなぜだろうか。

予算 _____ から _____ まで
日付 日付

収 入	予 測	実 績
手取り収入		
その他の収入		
収入合計		
支 出	予 測	実 績
什分の一		
その他の教会への献金		
定期預金		
緊急時のための預金		
食費		
住宅ローンまたは家賃		
公共料金		
交通費		
負債の支払い		
保険料		
医療費		
衣服		
その他		
その他		
その他		
支出合計		

結 び

夫婦が協力して家計を管理しなければならないことを強調する。参加者にレッスンで話し合った原則にどのくらい従っているかを考えてもらう。家計管理を改善するための計画を立てるように勧める。

御霊^{みたま}の促しに従って、レッスンで話し合ったことが真実であることを証^{あかし}する。

『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の29-33ページを見てもらう。レッスンでの教義や原則を復習するため、参加者に以下を行うよう奨励する。(1)「応用のための提案」にある提案から少なくとも一つを行う。(2) N・エルドン・タナー副管長の説教「不変の原則」を

読む。学習ガイドに掲載されている説教を夫婦でともに読んで話し合うことは、既婚者にとって大変有益であることを指摘する。

参考資料

「結婚と家族関係コース」第1部のレッスンの復習

「結婚と家族関係コース」の第1部は本課で終了である。あなたが第2部も担当するのであれば、以下の活動を利用するとよい。

各参加者に1枚の紙とペンまたは鉛筆を配布する。参加者に3分間与え、本コースの最初の8課から覚えている教義や原則を書き出させる。自分にとって最も意義深かった教義または原則に下線を引かせる。下線を引いた項目の幾つかについて話をする準備をしてもらう。助けが必要であれば、本書v-viiページにある目次、あるいは『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』vii-viiiページにあるコースの概要を利用する。

3分後、各参加者に各自のリストから一つの項目を読ませ、それがなぜ特別な意味を持っているのかを説明させる。参加者の意見を黒板にまとめ、それぞれの意見の大切さに同意する。それから教師自身の意見を述べる。時間があれば、この活動を繰り返す。

参加者に、本コースの第1部への参加に対する感謝を述べる。本コースの第2部は、親が家族を強め、自身の責任に喜びを見いだす方法についての8つの課で構成されていることを説明する。参加者全員に引き続きクラスに出席するよう奨励する。

第2部 家族を強めるための 両親の責任



「子供たちは 神から賜わった嗣業である」

目的 地上の両親が天父の子供たちを自分たちの家庭に迎えるとき、彼らは子供たちを愛し、大切に育て、教え、永遠の命へと導く責任を引き受けていることを参加者に思い起こさせる。

- 準備**
1. 教える準備をしながら、「教師としてのあなたの責任」（本書 ix-xi）にある原則を実践する方法を探す。
 2. 太字の見出しを読む。これらの見出しには本課の教義と原則が要約されている。準備の一部として、これらの教義と原則を応用できるよう参加者を助ける方法を思い巡らす。参加者の必要に合ったレッスンをを行うために何を強調すればよいかを決めるに当たって、御霊の導きを求める。
 3. 事前に、初等協会の子供たち数名にレッスンの始めにクラスに来て「神の子です」（『子供の歌集』2-3；『賛美歌』189番）を歌うように頼んでおく。または参加者とともに歌う準備をしておく。
 4. 事前に、一人または二人の参加者に子供が自分たちの生活にもたらす喜びについて短く話すよう依頼しておく。発表の中で個人的な経験を紹介するよう提案する。だれにこの割り当てを依頼すればよいかを決めるに当たって、御霊の導きを求める。

レッスンの進め方の提案

天父は霊の子供たちを地上の両親に託された

割り当てておいた初等協会の子供たちに「神の子です」を歌ってもらおう（「準備」の第3項参照）。歌の後、子供たちに速やかに初等協会のクラスに戻ってもらう。初等協会の子供たちに依頼していない場合は、「神の子です」を参加者とともに歌う。

- この歌ではどのような真理が教えられているだろうか。
- この歌から、両親の責任についてどのようなことが学べるだろうか。（以下の歌詞に言及するとよい。「私を助けて導いて つかみもとへ行けるように」）

第15代大管長ゴードン・B・ヒンクレイはこう勧告している。「この小さな子供たちは神の息子、娘であり、皆さんには彼らを養う責任があること、また、皆さんが親である以前に、神も彼らの親であり、御自身の小さな子供たちに対する権利や関心を保ち続けておられることを、決して忘れないようにしてください。子供たちを愛し、その世話をしあげてください。父親の皆さんは、今も、そしてこれから先常に、自分の感情を制してください。母親の皆さんも声を荒げることなく、穏やかに話すようにしてください。愛をもって、また主の薫陶と訓戒をもって子供たちを育ててください。小さな子供たちを大切にしてください。家庭の中に温かく受け入れ、心を尽くして彼らを愛し育ててください。」（「生ける預言者の言葉」『聖徒の道』1998年5月号、26）

十二使徒定員会会員のM・ラッセル・バラード長老はこう教えている。「人は皆、神の霊の子であり、地上に来る前は天父とともに住んでいました。神は霊の子供たちを地上の両親に託されました。両親は肉体の誕生という奇跡を通して、子供たちに肉体を授けました。そして神はその両親に、子供たちを愛し、守り、教えるという神聖な機会と責任を与えられました。そしていつの日かイエス・キリストの贖いと復活を通して御父のみもとへ戻れるよう、光と真理のうちに子供たちを導く責任を与えられたのです。」（「子供を教えない」『聖徒の道』1991年7月号、79参照）

- この知識と理解は、両親の子供たちへの接し方にどのような影響を与えるだろうか。

ロバート・D・ヘイルズ長老が管理監督であったときに語った以下の勧告を読む。「子供たちを養育し、愛し、世話をし、教える過程で、地上の両親はいろいろな意味で天父の代わりを務めます。子供たちは知らず知らずのうちに親を見て天父の特質を学んでいきます。地上の両親を愛し、尊敬し、信頼するようになってから、無意識のうちに天父に対しても同じような感情を持つようになることが多いのです。」（『どのように子供の心に残る親か』『聖徒の道』1994年1月号, 10）

両親の態度や行動が子供たちの天父に対する感情にどのように影響するかを深く考えるよう参加者に勧める。

両親は一人一人の子供の必要を満たす努力をしなければならない

子供にはそれぞれ自分自身の望み、才能、必要があることを説明する。両親は子供たち一人一人の能力や必要としているものを理解しようと努めることが大切である。

多くの子供たちは親とまったく異なっている。気性も異なり、長所や短所も異なる。これらの相違点のために、自分たちが一度も経験したことのない事柄を経験する子供たちを導き助けることの難しさに落胆する両親もいるであろう。しかし両親は、天父がこれら特定の子供たちを自分たちに託されたこと、また天父は両親が子供たち一人一人を神聖な可能性の成就へ向けてどのように導けばよいかを知ることができるよう助けを与えられることを忘れてはならない。中央初等協会会長であったマイカリーン・P・グラスリ姉妹はこう語っている。

「わたしたちは子供の本質を見いだす必要があります。何が子供たちの関心を引き、何が彼らの悩みの原因となっているかを理解しなければなりません。また彼らが自分のいちばんの夢を実現させたら、次に何をするかということも理解しておく必要があります。ほとんどの場合、彼らのいちばんの夢はすばらしいものです。子供の主体性を重んじ、親と同じになるよう期待すべきではありません。子供が自分で自分の関心事を見いだせるよう、様々な経験をさせてください。そして彼ら独自の関心事と才能を育てるように励ましてください。たとえそれが親である自分の関心事や才能と異なっていてでもです。」（『汝らの子供たちを見よ』『聖徒の道』1994年10月号, 42）

- 両親が子供たち一人一人の性格や必要を理解することが大切なのはなぜだろうか。
- 両親が子供たちに、一人一人の才能や関心事と一致しない活動や体験を強要することはどのような害をもたらすだろうか。
- 子供たち一人一人の才能や能力を伸ばすために両親にはどのようなことができるだろうか。

参加者がこの原則を応用するのを助けるために、同じ家族の子供たちが兄弟同士で、あるいは両親と異なっている点を幾つか挙げてもらう。その際、参加者は親としての経験、あるいは自分自身の両親や兄弟との経験を参考にするとよい。彼らの意見を黒板に書く。その後、挙げられた具体的な才能や性格について話し合う。以下のような質問をして具体的な才能や性格に触れる。

- 子供にこの才能を伸ばし続けるよう促すために、両親にはどのようなことができるだろうか。
- 子供がこのような性格であったとしたら、両親はその子供に愛と優しさを教えるためにどのようなことができるだろうか。
- この才能を持っている子供は、家庭の夕べにどのような貢献ができるだろうか。

それぞれの子供の能力や性格を理解している両親は上手に子供をしつけることができることを指摘する。参加者の一人に、十二使徒定員会会員であったときにジェームズ・E・ファウスト長老が語った以下の勧告を読んでもらう（『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』52）。

「親にとっていちばん難しいチャレンジの一つは、子供たちを正しくしつけることです。子供の育て方は子供の個性によって違ってきます。子供は皆それぞれ異なっており、独特です。一人の子供に合う方法だからといって、ほかの子供にも合うとは限りません。子供をい

ちばん愛しているその子自身の親以外に、しつけが厳しすぎるとか優しすぎるとか言えるほどの分別のある人はいないのではないのでしょうか。親にとってそれは祈りの気持ちで識別すべき事柄です。確かに、最も力があり支えとなる原則は、子供たちのしつけは罰よりも愛によって動機付けられなければならない、ということです。」（「この世での最大のチャレンジ——良い親であること」『聖徒の道』1991年1月号，36）

- どのような経験から、しつけはそれぞれの子供の必要と状況に応じてなされなければならないことを学んだらうか。

子供たちは両親から愛される権利を持っている

両親にできる最も大切なことの一つは、家庭に愛と友情と幸福の雰囲気をつくり出すことである。以下の言葉を紹介する。

十二使徒定員会会員であった当時、ゴードン・B・ヒンクレー長老はこう語っている。「親の愛を感じている子供たちは、何と幸福で、祝福されていることだろう。その温かさと愛が、後に甘い実を結ぶのである。」（「汝らの子供たちを見よ」『聖徒の道』1979年2月号，27）

七十人のマーリン・K・ジェンセン長老はこう語っている。「人生で価値あるほとんどの事柄と同様、友情を必要とする心は家庭内で満たされることがよくあります。家庭内で子供たちが互いに、また親との間に友情を感じていれば、家庭の外に自分を受け入れてもらいたいという強迫観念を持つことはないでしょう。」（「友情——福音の原則」『リアホナ』1999年7月号，74）

- 子供のころ、あなたはどのような経験を通じて自分は愛されていると感じたらうか。そのような愛の気持ちは生涯を通じてあなたにどのような影響を与えてきたらうか。
- 子供たちが自分は両親から愛されていると感じられるように、両親は家庭においてどのようなことができるらうか。

両親が子供たちと愛にあふれた関係を持つと努力する際には、優れたコミュニケーションが不可欠であることを指摘する。M・ラッセル・バラード長老はこう勧告している。「家族内では、開放的で率直なコミュニケーションほど大切なものはありません。それは、子供たちに福音の原則と標準を教えようとしている親にとっては特に大切です。青少年に勧告を与える能力と、恐らくもっと大切なことですが、彼らの関心事にじっくりと耳を傾ける能力は、良い結果をもたらす関係を築く土台です。自分の目に映り、心に感じる事柄は、わたしたちが聞いたり語ったりする事柄をはるかに上回るものを伝えることがよくあります。」（「消せない炎のように」『リアホナ』1999年7月号，104）

- 子供たちと十分なコミュニケーションを持つために、両親にはどのようなことができるらうか。（以下のような答えが考えられる。）
 - a. 根気強い聞き手になる。必要に応じて、子供たちの話から自分が理解したことを繰り返して述べる。これによって自分がほんとうに耳を傾けていることを示すことができ、自分が理解していることを確かめることもできる。
 - b. 子供たちがごく小さいときから、話ができるようになる前でさえも、子供と話し合い、彼らの話に耳を傾ける時間を持つ。
 - c. 子供の考えに関心を持つ。
 - d. 食事の時間に会話をする。
 - e. 子供と一対一で話し合う時間を持つ。

両親は子供たち一人一人と一対一で過ごす時間を持たなければならないことを強調するために、十二使徒定員会会員ロバート・D・ヘイルズ長老の以下の勧告を紹介する。「子供たちと時間を過ごし、活動や話題を子供に選ばせましょう。気を散らすものを排除してください。」（「家族を強めること——わたしたちに託された神聖な義務」『リアホナ』1999年7月号，38）

優れたコミュニケーションの原則に関するその他のアイデアについては、第5課の22-24ペ

ージを参照する。

子供への虐待は神への冒瀆である

参加者とともにマタイ18：6を読む。両親はいかなる形であっても子供を虐待してはならないことを説明する。

- 子供への虐待にはどのようなものがあるだろうか。(参加者の答えを黒板に書き出すことも考慮する。以下のような答えが考えられる。)
 - a. 激しく怒る
 - b. どなる
 - c. 脅迫する
 - d. 身体的暴行
 - e. あらゆる性的接触または不適切な接触
 - f. けなす
 - g. 愛情を差し控える
 - h. 不適切な映画、冗談、言葉遣い、雑誌、またはインターネット上の情報を見せる
 - i. 過度に風雨にさらす
 - j. 医療を受けさせない、十分な監督やしつけをしないなどの怠慢

- これらの行為はどのように子供たちに害を与えるだろうか。

この質問について話し合った後、子供のころに虐待を受けた大人は、それがどれほど有害な行為であるかを理解せずに、同じように有害な方法で子供を扱うことがあることを説明する。彼らは自分だけの力ではそのような行為をやめることができないと感ずることがある。虐待を行ってきた人々は、謙遜に主の助けと導きを求めるときにそのような行為をやめることができることを強調する。

虐待的行為を認め、それをやめることに関して助けを望む人は、監督に相談する。監督は彼らに助言を与えることができる。監督は末日聖徒ファミリーサービス事務局のカウンセラーあるいは教会の標準と一致した援助を提供している地域社会の機関を勧めることもできる。

参加者とともに教義と聖約121：41-44を読む。

- この箇所は両親が子供たちをしつける方法とどのように関係しているだろうか。

大管長会の第一副管長であった当時、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう教えている。

「子供を打つ必要はありません。必要なのは愛と励ましです。恐れではなく尊敬の念をもって見られる父親が必要なのです。何よりも、模範を示す必要があります。……

わたしの願いは、……子供を救うことです。あまりにも多くの子供たちが苦痛と恐れ、孤独、失意の中を歩んでいます。子供には日の光が必要です。幸福が必要です。愛とはぐくみが必要です。思いやりと励まし、愛情が必要です。家の大小を問わず、すべての家庭が愛という環境を子供に与えることができます。それが救いをもたらすのです。」(「子供たちに救いを」『聖徒の道』1995年1月号, 62-63)

第2代大管長ブリガム・ヤングはこう教えている。

「主への愛と畏れのうちに子供を育てなければなりません。子供たちの気質や気性を理解して、それに応じて対処してください。決して感情に任せて子供をしかるようなことがあってはなりません。子供たちに、あなたを恐れるように教えるのではなく、あなたを愛するように教えてください。」(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』190)

子供は両親の生活に大きな喜びをもたらす

両親が自分たちの神聖で厳粛な責任を覚えていることは大切であるが、子供が自分たちの生活にもたらす喜びについてよく考えることも大切であることを指摘する。十二使徒定員会会員であった当時、ジェームズ・E・ファウスト長老はこう述べている。「人が出会うチャレ

ンジで、良い親であること以上に大きなものはほとんどありませんが、またこれほど大きな喜びを与えてくれる機会はほかにありません。」（「この世での最大のチャレンジ——良い親であること」35。『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』51も参照）

割り当てておいた参加者に、子供が自分たちの生活にもたらす喜びについて短く話してもらおう（「準備」の第4項参照）。時間があれば、子供たちが自分の生活にもたらしてきた喜びに対する教師自身の気持ちを述べることも考慮する。

結 び

子供たちは天父からの贈り物であることを強調する。詩篇の作者が語っているように、「子供たちは神から賜った嗣業」なのである（詩篇127：3）。地上の両親が天父の子供を自分たちの家庭に迎えるとき、彼らは子供を愛し、大切に育て、教え、永遠の命へと導く責任を引き受けているのである。

『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の37-41ページを見てもらう。レッスンでの教義や原則を復習するため、参加者に以下を行うよう奨励する。(1)「応用のための提案」から少なくとも一つを行う。(2) トーマス・S・モンソン副管長の説教「大切な子供たち——神からの贈り物」を読む。学習ガイドに掲載されている説教を夫婦でともに読んで話し合うことは、既婚者にとって大変有益であることを指摘する。

次回のレッスンに学習ガイドを持参するよう参加者に言う。

参考資料

家族に関して様々な状況にある参加者の必要に対処する言葉

家族に関する参加者の様々な状況に対処するために、以下の言葉の一つまたはそれ以上を読む。

十二使徒定員会会員のボイド・K・パッカー長老はこう説明している。「身体的な事情または置かれた境遇のために結婚し子供をもうける祝福を得られない人々、また自分には落ち度がないにもかかわらず独りで子供を育て養わなければならない人々は、戒めを守るかぎり、永遠においていかなる祝福も拒まれることはありません。ロレンゾ・スノー大管長（第5代大管長）は、『それは確かで疑いのないことである』と約束しています。」（「この世から永遠にわたって」『聖徒の道』1994年1月号，27）

第11代大管長ハロルド・B・リーはこう語っている。「この世で妻としてのまたは母親としての祝福を受けられなかった（女性）の皆さん、皆さんは心の中で言うでしょう。『もし行くことができたならそうしていたのに』あるいは『もし持っていたら与えていたのに、でも今は持っていないから与えられない』と。主はあたかも皆さんがすでに行ったかのように祝福してくださるでしょう。次の世では、自分自身の過ちでないのに行くことができなかった義になかった事柄を望んだ人々のために償いがあるのです。」（"Maintain Your Place As a Woman," *Ensign*, 1972年2月号，56）

七十人のジーン・R・クック長老はこう説明している。「時々、死亡または離婚のために片親しかいない家族があります。時々、片親だけが教会員であるという場合があります。また、一人の親がその伴侶に比べてあまり活発でないこともあります。どの場合も同様です。霊的に強められた一人の親は、家族を主に近く立派に育て上げることができるのです。わたしがこれまでに知り合った偉大な男女の中には、このような家族で育った人がいます。どうか、これらの善良な母親、父親を主に常に祝福してくださいませよう。彼らは自分だけで子育てをしなければならないと感じるかもしれませんが、実際には、主の導きの下で子供たちを育てているのです。」（*Raising Up a Family to the Lord* [1993年]， xv）

目的 父親がその神聖な役割をどのように果たし、夫婦が対等のパートナーとしてどのように互いに助け合うことができるかを参加者に理解させる。

- 準備**
1. 「教師としてのあなたの責任」(本書 ix-xi) にある原則を応用する方法を検討する。
 2. 本課の太字の見出しに示されている教義と原則を深く考える。1週間を通しこれらの教義と原則を教える方法を思い巡らす。参加者の必要に合ったレッスンをを行うには何を強調すればよいかを決めるに当たって、御霊の導きを求める。
 3. クラスに『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』を持参するよう参加者に言う。

レッスンの進め方の提案

夫婦は協力して子供たち一人一人に信仰の盾を与えなければならない

黒板に**信仰の盾**と書く。参加者とともてに教義と聖約27：15, 17を読む。

- 信仰はどのような点で盾と似ているだろうか。

十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー長老による以下の言葉を読む。参加者に、なぜ子供が家庭で「信仰の盾」を得る必要があるかが分かるよう、注意して耳を傾けるように言う。

「御父の御計画によれば、命それ自体の創造と同じように、信仰の盾は家族の中で作られ、うまく適合する必要があるのです。どの盾も同じものは一つとしてありません。どれも個人の規格に合った手作りでなければならないのです。

御父の考案された御計画では、男性と女性、夫と妻が一緒に働くことによって、奪い取られることも火の矢に貫かれることもないがっしりとした信仰の盾を、子供たち一人一人に合わせて備えるように求められています。

それには、盾の材料であるあらがねを打ち出す父親の着実な力と、それに磨きをかけ、一人一人の規格に合わせる母親の優しい手が必要です。時には親が一人でそれをしなければならぬ場合もあります。難しい務めですが、それは可能です。

教会では、信仰の盾を作るための幾つかの材料について教えることができます。敬虔さ、勇気、純潔、悔い改め、赦し、愛に満ちた思いやりなどがそれです。それらを組み合わせ、個人個人の規格に合わせる方法についても教会で学べます。しかし実際に信仰の盾を作り、それを個人に合うようにする作業は家族の中で行うべきことです。そうでなければ、危機が襲ってきたときに盾は緩んで、外れてしまうかもしれません。」(「信仰の盾」『聖徒の道』1995年7月号、8)

- この言葉は父親と母親の役割についてどのようなことを教えているだろうか。

参加者に『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』のivページにある「家族—世界への宣言」を開いてもらう(本書のviiiページも参照)。参加者とともてに、宣言の第7段落から以下の原則を読む。

「神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養育するという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。心身の障害や死別、そのほか様々な状況で、個々に修正を加えなければならないことがあるかもしれません。」

本課および第11課では父親と母親の神聖な役割について学ぶことを説明する。本課では父

親の役割に、第11課では母親の役割にそれぞれ焦点が絞られているが、これらの2課は「対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負って」いる父親と母親の両方に当てはまる。またこれらの課は、両方の役割を果たすために主の助けとともに全力を尽くす独り親にも役立つ。

父親は愛と義をもって管理する

参加者に、家族に関する宣言にある以下の言葉に注目させる。「神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。」管理するという言葉には、先頭を進んで導き、家族の福利に対する責任を負うという意味があることを説明する。

男性が家庭で管理の責任を果たすときには妻と協力して働くことを強調する。第14代大管長ハワード・W・ハンターはこう勧告している。「神権を持つ男性は妻をパートナーと考えて、家庭を治め家族を導くうえで必要な事柄をすべて知らせ、相互に納得して決定します。……神の定めにより、家庭を管理する責任は神権者のうえに置かれています（モーセ4：22参照）。主は、妻が夫の助け手、つまり完全に協力しつつ、対等でありしかもなくてはならない伴侶となるよう望んでいらっしゃいます。義にかなった管理をするには、夫婦間の責任分担が必要となります。家庭のもろもろの事柄に知恵を出し合い、協力して取り組むのです。これに反して、妻の気持ちや助言を無視するか、尊重せずに家庭を管理する男性は、不義な支配をしているのです。」（「義にかなう夫、父親」『聖徒の道』1995年1月号、58）

第12代大管長スペンサー・W・キンボールはこう教えている。「（父親は）家庭を管理するが、それにはイエス・キリストが教会を管理されるように、愛と奉仕と慈悲と模範の精神で管理しなければならない。」（「少年たちは身近に英雄を必要としている」『聖徒の道』1976年8月号、358）

● 父親にとって愛と義によって管理することが大切なのはなぜだろうか。

大管長会の第一副管長であった当時、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は父親に向かってこう宣言した。「皆さんには、家族の長として立つという、免れることのできない重要な責任があります。それには、独裁的な支配、不義な支配という意味合いは少しもありません。家長には、家族の様々な必要を満たすという責任があります。その必要とは、衣食住の必要だけではありません。模範と教訓によって、正しく導き教えることも求められているのです。正直、高潔、奉仕、人の権利を尊重することという基本的原則、また、人間同士だけでなく永遠の御父であられる天の神に対しても、この世における自分の行いについて責任を求められるということも教える必要があります。」（「子をその行くべき道に従って教えよ」『聖徒の道』1994年1月号、67）

ハワード・W・ハンター大管長はこう語っている。「兄弟の皆さんにお勧めします。神権は義にかなった状態のときにだけ力を発揮する権威であることを忘れないでください。子供たちとの間に愛のこもった関係を築いて、彼らの尊敬と信用を勝ち得てください。」（「義にかなう夫、父親」『聖徒の道』1995年1月号、59）

子供たちに霊的な指導を与えるために父親は何をしなければならないかを参加者に理解させるために、『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の44-45ページを開かせる。参加者とともに、第13代大管長エズラ・タフト・ベンソンの以下の言葉を読んで話し合う。

「ここでわたしは、イスラエルの父親の皆さんに対する心からの愛を込めて、子供に霊的な指導を与えるうえで役に立つ10の具体的な方法を提案させていただきたいと思います。

1. 子供に父親の祝福を与えてください。またバプテスマと確認の儀式を施してください。さらに神権への聖任も自ら行うようにしてください。これらの事柄は、子供たちの人生にとって、霊的に非常に大切な意味を持つ出来事となります。

2. 家族の祈り、毎日の聖典の勉強、毎週の家庭の夕べを、父親として自ら指導してください。皆さんが積極的に進めることにより、これらの大切さを子供たちに理解させることができます。

3. できるかぎり、家族一緒に教会の集會に集うようにしてください。父親の指導の下に家族として礼拝することは、子供たちの霊的な成長に非常に大切な意味を持っています。

4. 父と娘のデートや父と息子の外出というように、子供の一人一人と接触する機会を作りましょう。また、家族全員でキャンプやピクニックに出かけたり、野球の試合や音楽会、学校のプログラムなどに行ったりするようにしてください。父親がいると、ずいぶん大きな違いが出てきます。

5. 家族一緒に休暇を過ごしたり、旅行や外出を楽しんだりする伝統を築くようにしてください。これらの思い出は、いつまでも子供たちの心の中に残ることでしょう。

6. 定期的な子供たちと一対一で話し合うようにしてください。子供たちが何を望んでいるか聞いてあげてください。そして福音の原則、正しい価値観を教え、彼らを愛していることを伝えてください。このようにして個人的に話し合う時間を取ることで、あなたが何に優先順位を置いているかを、子供たちに伝えることができます。

7. 子供たちに働くように教え、価値ある目標に向けて働くことの大切さを教えてあげてください。子供たちの伝道資金や教育資金を準備することによって、父親として何を大切に考えているかを子供たちに伝えることができます。

8. 家庭の中で良い音楽や芸術、文学を鑑賞するように奨励してください。洗練と美を理解する心のある家庭は、子供たちの生活を永遠に祝福するでしょう。

9. 時間が許す範囲内で、定期的に夫婦で神殿に参入するようにしてください。そうすれば子供たちも神殿結婚、神殿の聖約、家族の永遠のきずなをもっとよく理解するようになるでしょう。

10. 教会の責任を果たす喜びと満足子供たちに理解させてください。親のそのような気持ちは子供たちにも伝わり、彼らも教会の中で召しを果たし、神の王国を愛するようになるでしょう。」(「イスラエルの父親たちへ」『聖徒の道』1988年1月号, 55)

父親は家族に生活必需品を提供し、家族を守る

家族に関する宣言では、父親は家族に「生活必需品を提供〔する〕……という責任を負っています」と述べられていることを参加者に思い起こさせる。

- 物質的な生活必需品にはどのようなものがあるだろうか。(食糧、金銭、衣服、住居などの答えが考えられる。) 父親はどのようにしてこれらの必需品を提供しなければならないだろうか。

ハワード・W・ハンター大管長はこう語っている。「神権を持つ皆さんは、身体的に支障がないかぎり、妻子を扶養する責任があります。この責務を、妻はもちろん、ほかの誰かに肩代わりしてもらうことはできません。女性と子供には、夫であり父親である者に扶養を要求する権利がある、と主は言われました(教義と聖約83章; 1テモテ5:8参照)。……夫である皆さんが家族を養うために最善を尽くしている間、妻が家庭にとどまり子供の世話ができるよう、全力を尽くしていただきたいと思います。」(「義にかなう夫、父親」59)

- 霊的な生活必需品にはどのようなものがあるだろうか。(証、^{あかし}愛、毎日の祈りと聖文学習、福音の教授、および神権の儀式などの答えが考えられる。) これらの必需品を提供するために父親はどのようなことができるだろうか。
- 妻や子供たちは、自分の夫や父親がこれらを提供しようと努力するとき、どのような支援ができるだろうか。

参加者に家族に関する宣言にある以下の勧告に注目させる。「父親は……家族を守るという責任を負っています。」

- 家族は何から守られる必要があるだろうか。
- 夫や父親はどのように家族を守ることができるだろうか。

ハワード・W・ハンター大管長はこう語っている。

「義にかなう父親は子供たちの社交活動，教育，霊的な活動や責任のために時間を取り，一緒にいて彼らを守ります。……

神権を持つ男性は家族を連れて教会に出席します。家族が福音を理解し，聖約と儀式を通じて保護を得られるようにするためです。主の祝福を受けたいと願うなら，自分自身の家庭を整えなければなりません。家庭内の霊的な雰囲気は，夫である皆さんと妻で作っているのです。まず最初に皆さんがしなければならぬ務めは，定期的に聖典を学び，日々の祈りを通して自分自身の霊性を整えることです。自分に与えられた神権と神殿で交わした聖約を守り，尊んで，家族にも同様にするように励ましてください。」（「義にかなう夫，父親」59）

- 父親が神聖な責任を果たしている例として，あなたはこれまでどのようなことを目にしてきただろうか。

注意：もし本課のみを教えるだけで第11課を教える予定がない場合は，家族に関する宣言から以下の言葉について話し合うとよい。「これらの神聖な責任において，父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。」第11課には，この真理について話し合う際に役立つ事柄が提供されている（50参照）。

結 び

御霊^{みたま}の促しに従って，レッスンで話し合ったことが真実であることを証^{あかし}する。

『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の42-45ページを見てもらう。レッスンでの教義や原則を復習するため，参加者に以下の事柄を行うよう奨励する。(1)「応用のための提案」にある提案から少なくとも一つを行う。(2) エズラ・タフト・ベンソン大管長の説教「イスラエルの父親たちへ」を読む。学習ガイドに掲載されている説教を夫婦でともに読んで話し合うことは，既婚者にとって大変有益であることを強調する。

次回のレッスンに学習ガイドを持参するよう参加者に言う。

目的 母親がその神聖な役割をどのように果たし、母親と父親が対等のパートナーとしてどのように互いに助け合うことができるかを参加者に理解させる。

- 準備**
1. 「教師としてのあなたの責任」(本書 ix-xi)にある原則を復習する。それらの原則を教える準備に応用する方法を探す。
 2. 本課の教義と原則を示す太字の見出しを読む。準備として1週間を通しそれらの教義と原則について深く考える。参加者の必要に合ったレッスンをを行うには何を強調すればよいかを決めるに当たって、御霊の導きを求める。
 3. クラスに『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』を持参するよう参加者に言う。

レッスンの進め方の 提案

母親は神の業に参加する

レッスンの導入として、参加者とともに十二使徒定員会会員のジェフリー・R・ホランド長老の説教から以下の抜粋を読む(『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』47)。

「ある若い母親から最近手紙を頂きました。彼女の心配はほぼ三つに集約されると言います。一つ目は末日聖徒の母親の務めについて話を聞く度に、自分がふさわしくないか、期待される働きができるようにはならないという心配に駆られると言います。二つ目は子供が言葉を覚え始める前から彼らに読み書きやインテリアデザイン、ラテン語、計算、それにインターネットについて教えるよう世間から期待されているように感じることです。三つ目は、人々の言動がほとんどの場合そういうつもりはないにしても、時折、恩着せがましい無益なものと彼女には感じられるということです。なぜなら、彼女が受ける助言や称賛の言葉でさえ、その中に神が望まれる母親になるために、あるいはなりたいたいと思うために時に必要とされる精神的な苦勞、霊的・情緒的な努力、終日終夜力のかぎり果たさなければならぬものが感じられないからだと言います。

それでも、一つのことを彼女に頑張り続ける力を与えてくれたそうです。『これまでの様々な苦勞や悲喜こもごもを通して、心の奥底で自分は神の御業に携わっているという自覚がありました。母親の務めを果たすとき、わたしは神と永遠に手を取り合って働いているのです。たとえ一部の神の子供たちが主を悲しませても、人が親となることに神は究極の目的と意義を見いだしておられるという点に、わたしは深く感動しました。

結局、すべてが耐え切れないように思えたあの避けられない困難な日々に、わたしが思い起こすように努めたのは、この点でした。自分の力不足や心配のせいで人は主を求めるようになり、主の御力を受けられるようになるのかもしれませんが。もしかすると主は、わたしたちが不安になって主に助けを求めるようになることを、ひそかに望んでおられるのかもしれませんが。だとすると、主はわたしたちを通じて、何の妨げも感じずに、子供たちを直接お教えにすることができると思います。わたしはこの考え方が気に入りました。』そして彼女は手紙をこう結んでいます。『そう考えると希望がわかります。わたしが天父の御前に義にかなった状態を保てば、きっと何の障害もなく、子供たちに導きを与えられるでしょう。だとすると、これが主の御業、主の栄光の文字どおりの意味かもしれません。』(「彼女は母親だからさ」『聖徒の道』1997年7月号, 41)

母親がどのように神の業に参加するかについて、参加者に自分の気持ちを述べてもらう。

母親のおもな責任は子供を養い育てることである

参加者に『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』のivページを開けさせる。家族に関する宣言の第7段落にある以下の言葉に注目させる。「母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。」

- 母親はどのように子供を養い育てるだろうか。(母親が及ぼす善い影響を示している経験を分かち合うよう参加者に勧める。その後、以下の言葉を紹介する。)

十二使徒定員会会員のリチャード・G・スコット長老はこう語っている。「主の導きを受けた母親であるあなたは、配慮の行き届いた指導とふさわしい模範により、真理の糸を用いて、子供たちの人格を織り上げます。正直という特質、神への信仰、義務感、人を尊重する気持ち、親切、自信、貢献し、学び、与える望みを、あなたの信頼を寄せる子供たちの心と思いの中にはぐくむのです。どんな託児所もそれはできません。それは母親の神聖な権利であり、特権です。」(『偉大な幸福の計画を实践する』『聖徒の道』1997年1月号, 85)

十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー長老はこう述べている。「子供を教える母親の教えに匹敵する教えはなく、それ以上に霊的な報いを与え、あるいは人を高めるものはありません。」(『子どもたちを教えなさい』『リアホナ』2000年5月号, 21)

母親はどのように子供を養い育てることができるかについて、さらにアイデアを紹介するために、参加者に『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の49-50ページを開けさせる。子供と時間を有効に使うために母親ができることに関するエズラ・タフト・ベンソン大管長の10の提案を参加者に探させる。参加者がこれらの提案を見つけたら、下に示されているようにそれらを黒板に書き出す。各提案に従うことによって得られる恩恵について話し合う。

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. いつも子供のそばにいる。 | 6. 一緒に食事をする。 |
| 2. 真の友人になる。 | 7. 毎日聖文を読む。 |
| 3. 子供に本を読んであげる。 | 8. 家族一緒に活動をする。 |
| 4. 子供とともに祈る。 | 9. 子供たちを教える。 |
| 5. 毎週家庭の夕べを行う。 | 10. 子供たちを心から愛する。 |

末日の預言者は、母親が職場へ出て行くよりも子供とともに家庭にとどまることの大切さを強調している。そのことを指摘する。第15代大管長ゴードン・B・ヒンクレーの以下の言葉を紹介する。

「……家族の生活のために働かなければならない女性がいることは認めています。実際そのような女性が非常に増えています。そのような人々に申し上げます。どうか、皆さんの最善を尽くしてください。フルタイムで働いている皆さんは、基本的な必要を満たすためにそれをしてるのであり、ただ単に、高価な家や自動車、ぜいたくのために働くようなことのないように望んでいます。母親の最も大切な仕事は、義と真理のうちに子供を育て、教え、助け、励まし、養うことです。母親の代わりになり得るものは、何もありません。」(『教会の女性』『聖徒の道』1997年1月号, 78)

- この勧告に従うために家族に求められる犠牲にはどのようなものが考えられるだろうか。

レッスンのこの箇所を終えるに当たって、以下の言葉の一つまたは両方を紹介する。

大管長会の第一副管長であった当時、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう語っている。「すべての母親に申し上げます。皆さんの召しは神聖なものです。皆さんの代わりを務められる人はだれもいません。自分がこの世に生を与えた子供を、愛と安らぎと誠実さをもって

育てることほど大きな責任と義務はありません。」(「子をその行くべき道に従って教えよ」『聖徒の道』1994年1月号、67)

母親に向かって、ジェフリー・R・ホランド長老はこう語っている。「皆さんには全人類の母であるエバから受け継いだ立派な伝統があります。エバは、自分とアダムは『人が存在するため……喜びを得るため』に墮落しなければならないことを理解していました。皆さんは、サラ、リベカ、ラケルの伝統も受け継いでいます。彼女たちがいなければ、わたしたちすべての祝福となる、アブラハム、イサク、ヤコブに与えられた偉大な族長の祝福はなかったでしょう。皆さんにはロイスやユニケ、2,000人の若い兵士の母親の伝統もあります。創世の前から選ばれ予任されて、神の御子を身ごもり、育て、生んだマリヤの伝統もあります。わたしたちは自らの母親も含め皆さんに感謝し、こう申し上げます。神の御業と栄光に直接携わること、すなわち高い所にある日の栄えの領域で不死不滅と永遠の命を受けられるように、神の息子、娘たちの死すべき状態と地上の命をもたらすこと、これ以上に大切なものはこの世にほかにありません。」(「彼女は母親だからさ」41-42。『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』48も参照)

父親と母親は対等なパートナーとして互いに助け合う

注意：もし本課のみを教えていて第10課を教えていない場合は、レッスンのこの箇所を本書44ページにあるボイド・K・パッカー長老の言葉で始めるとよい。

参加者に家族に関する宣言にある以下の言葉に注目させる。「これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。」

- 夫婦がその責任において対等のパートナーであるとはどういう意味だろうか。
対等のパートナーとして協力する夫婦は一つとなって努力することを指摘する。彼らは互いに支え合い、互いの長所や才能を引き出す。すべての夫婦は、自分たちの責任において互いにどのように支え合うかを決定するに当たって、主の導きを受けることができる。夫婦は神が明らかにされた原則と、それぞれの長所や能力に基づいて決定をすることができる。
- 子供たちを養い育てるという妻の責任に関して、夫はどのように妻を支えることができるだろうか。
- 家族を管理し必要なものを提供するという夫の責任に関して、妻はどのように夫を支えることができるだろうか。
- 子供を世話し教えることに関して互いに効果的に支え合っている例として、あなたはこれまでどのような夫婦を目にしてきただろうか。

結 び

参加者とともに教義と聖約64：33-34を読む。

- この聖句は父親や母親の責任とどのような関係があるだろうか。

母親と父親は確かに「一つの大いなる業の基を据えつつある」ことを強調する。日々の育児は小さな取るに足りないことのように思えることもあるかもしれないが、「小さなことから大いなることが生じる」のである。夫婦が協力してその神聖な責任を果たすとき、家族は主から大いなる祝福を受けるであろう。

御霊の促しに従って、レッスンで話し合った真理に対する教師の確信を述べる。

『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の46-50ページを見てもらう。レッスンでの教義や原則を復習するため、参加者に以下を行うよう奨励する。(1)「応用のためのアイデア」にある提案から少なくとも一つを行う。(2) ジェフリー・R・ホランド長老の説教「彼女は母親だからさ」およびエズラ・タフト・ベンソン大管長の説教「シオンの母親の皆さんへ」を読む。学習ガイドに掲載されている説教を夫婦とともに読んで話し合うことは、既婚者にとって大変有益であることを指摘する。

模範と訓戒によって 子供を教える

第12課

目的 両親には模範と教えによって子供を教える責任と、教えようとするに当たって神の靈感を求める責任があることを参加者に理解させる。

準備

1. 教える準備をしながら、「教師としてのあなたの責任」（本書 ix-xi）にある原則を実践する方法を探す。
2. 太字の見出しを読む。これらの見出しには本課の教義と原則が要約されている。準備の一部としてこれらの教義と原則を応用できるよう参加者を助ける方法を深く考える。参加者の必要に合ったレッスンをを行うためには何を強調すればよいかを決めるに当たって、御霊の導きを求める。
3. 『家庭の夕べアイデア集』（31106 300）がある場合は、258-260ページにある「模範によって教える」および260-261ページにある「子供に言い聞かせる」を研究する。レッスンにおけるこれらの資料の利用を検討する。

レッスンの進め方の提案

両親は子供を教える責任を持つ

第15代大管長ゴードン・B・ヒンクレイが語った以下の物語を紹介する。

「わたしたちは結婚して間もなく、最初の家を建てました。お金はあまりありませんでした。ほとんどの仕事を自分でしました。……庭造りも全部自分でしました。たくさん木を植えましたが、その最初はサイカチの木でした。……それは直径2センチほどの小さな木でした。枝はとてもしなやかで、どちらの方向にでも簡単に曲がりました。年月は過ぎていきましたが、わたしはその木にはほとんど注意を向けませんでした。

そしてある冬の日、たまたま窓越しに、葉をすっかり落としたその木を見たのです。それは樹形も悪く、バランスが取れず、西方に傾いていました。まったく信じられない思いでした。わたしは外に出て、その木を自分の力で押して、まっすぐに立てようとしてみました。しかし幹の直径はすでに30センチほどになっていて、わたしの力ではびくともしませんでした。……

最初に植えたときに、ひも1本で動かないようにしておけば、風の力にも耐えて、まっすぐに育っていたことでしょう。ひもを結わえることなど、わずかな手間でもできたことですし、そうすべきだったのです。しかし、わたしはそれをしませんでした。そして木は吹きつける風の力に負けて、傾いてしまったのです。」（「子をその行くべき道に従って教えよ」『聖徒の道』66）

● ヒンクレイ大管長の経験は、子供を教えるという両親の責任にどのように当てはめることができるだろうか。（参加者がこの質問について話し合う際、彼らとともに箴言22：6を読む。）

この木に関する自らの経験に言及して、ヒンクレイ大管長はこう語っている。「わたしが見てきた子供たちにも、これと同じようなことがよく起こっています。子供たちをこの世に招き入れた親たちが、ほとんどその責任を放棄してしまっているように思えます。その結果は悲劇的です。たとえ単純であっても支えとなるものが少しでもあれば、子供たちはその生活を左右する力に耐えることができたのです。」（「子をその行くべき道に従って教えよ」66）

主は両親に子供を教えるという神聖な義務を与えておられることを説明する。この責任は

軽視したり他人に任せたりしてはならないものである。十二使徒定員会会員のM・ラッセル・バラード長老はこう強調している。

「学校、地域社会、テレビ、教会の組織などに、子供の価値観の形成をゆだねることはできません。また、それはしてはならないことです。主はその義務を父親と母親に託しておられます。わたしたちはその責任を免れることはできません。また委任することもできません。ほかの人の助けを得ることはできますが、責任は両親にあります。ですから、わたしたちは自分の家庭を神聖な場所として守らなければなりません。家庭は子供が日々の生活の中で、価値観を築き、態度や習慣を身に付けていく所だからです。」（『子供を教えなさい』『聖徒の道』1991年7月号、80）

- 両親にとって、他人に任せるのではなく自分たちで子供を教えることが不可欠なのはなぜだろうか。両親がこの責任を果たさないと、どのような危険が待ち構えているだろうか。
- 祖父母やおじ、おばなどの親族は、両親が子供を教えるのをどのように支援できるだろうか。

両親は子供を教えるときに靈感を受けることができる

参加者に教義と聖約42：14を開かせる。この節には両親が子供を教えるうえで大切な鍵が記されていることを説明する。その後、参加者とともにこの節を読む。

- この節に記されている鍵とは何だろうか。（わたしたちは御霊によって教えなければならない。）御霊によって教えるとはどういう意味だろうか。

参加者とともに2ニーファイ32：5および33：1を読む。御霊、あるいは聖霊は、わたしたちが何を行い、何を言うべきか分かるよう助けてくれることを指摘する。両親が聖霊の促しに従って教えるとき、聖霊がそのメッセージを子供の心に伝えるであろう。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長の以下の勧告を紹介する。

「父親と母親の皆さん、子供たちを愛してください。子供たちを大事に育ててください。子供たちはこの上ない大切な存在です。未来は子供たちの中にあります。子育ては自分自身の知恵以上のものが求められます。主の助けが必要です。主の助けを祈り求め、与えられる靈感に従ってください。」（『信仰と証があやなす織物』『聖徒の道』1996年1月号、99）

- 子供を教えようとする両親に靈感が必要なのはなぜだろうか。子供を教えるときに聖霊の影響力があるようにするために、両親はどのようなことができるだろうか。

七十人のF・エンツィオ・ブッシュ長老が語った以下の物語を紹介する。

「ある日のことです、わたしは急な用事ができて普段なら家にはいない時間に帰宅しました。わたしが奥の部屋にいと、学校を終えて帰ったばかりの11歳になる息子が妹に下品な言葉を浴びせているのが聞こえてきました。息子の口からそのような言葉を聞こうとは夢にも思わなかったわたしは、ひどく腹を立てました。怒りのあまり立ち上がり、息子をしかりに行こうとしました。しかし幸いなことに、息子のところへ行くには、部屋を横切り、ドアを開けなければなりません。その数秒間に、わたしはこの事態を正しく処理できるように真心から天父に祈ることを忘れなかったのです。わたしの心は平安を取り戻し、怒りはすでに消えていました。

わたしが家にいるのを知った息子は激しく動揺し、わたしが近づくとつれて恐れの色を濃くしました。ところが驚いたことに、わたしはこう言ったのです。『やあ、お帰り。』そして手を差し伸べて握手をしたのです。それからごく普通の態度で息子を居間に招き入れ、二人で話をするために近くに座らせました。わたしの口からは息子への愛を表す言葉が出てきました。わたしは息子に、すべての人が日々心の中で戦いをしていることについて話しました。

そして息子を信頼していることを伝えると、息子は泣き出して、自分のふさわしくない行いを告白し、激しく自分を責め始めたのです。こうなるとわたしの役目は、息子の罪を正しく見すえ、息子に慰めを与えることでした。わたしたちはすばらしい御霊に包まれ、しまいには互いに涙を流し、愛に満たされて抱き合いました。そして喜びが訪れたのです。父と息

子の悲惨な対立にもなり得たこの出来事が、天からの力に助けられ、二人の間に忘れることのできない最も美しい経験を残してくれました。」（「愛は家族を癒す力」『聖徒の道』1982年7月号，122）

- この父親が怒りに任せて行動していたらどのような結果になっていたのだろうか。
子供をある方法で、例えば当初計画していなかったような方法で、教えたり助けたりするよう聖霊に導かれた経験を参加者に分かち合ってもらおう。
- 聖霊の導きを受ける備えをするために両親はどのようなことができるだろうか。（この質問について話し合う際、聖文から以下の箇所の幾つか、あるいはすべてを読むよう参加者に勧める。アルマ17：2-3；教義と聖約11：21；20：77；121：45-46；136：33）

両親は模範と訓戒によって子供を教える

一般的に、両親が子供を教える方法には二つあることを説明する。模範によってと言葉によってである。

- 子供を教えるとき、両親の模範はどのような点で彼らの言葉をより力あるものとするだろうか。

十二使徒定員会会員であったときにジェームズ・E・ファウスト長老が語った以下の言葉を参加者に読ませる（『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』52）。

「親が子供に危険を避けるように教えるとき、『わたしたちは世の中のことについて経験を積んでいて賢いから、あなたたちより危険な誘惑に近づいても大丈夫』などと言うのは愚かなことです。親の偽善を見ると子供は疑い深くなり、家庭で教えられたことに不信を抱くようになります。例えば、子供には禁じている映画を親が見るならば、親の信用というものはなくなります。子供に正直であるよう期待するならば、親が正直でなくてはなりません。子供に徳高くあるよう期待するならば、親が徳高くあらねばなりません。尊敬される者になるよう望むならば、まず自分が尊敬される者にならねばなりません。」（「この世での最大のチャレンジ——良い親であること」『聖徒の道』1991年1月号，36）

- 模範によって福音の原則を教えるために両親はどのようなことができるだろうか。

管理監督であった当時、ロバート・D・ヘイルズ長老はこう語っている。「妻や子供たちとの交わりについて考えると、自分の両親が示してくれた模範を思い出さずにいられません。」（「どのように子供の心に残る親か」『聖徒の道』1994年1月号，9）以下の回想はヘイルズ監督がどのように両親から学んだかを示している。

「神権を敬うことを教えてくれたのは父でした。わたしがアロン神権者だった当時は、聖餐せいさんで使うトレイはステンレス製でした。ですから、こぼれた水に含まれる成分が凝固して、表面が汚れました。アロン神権者のわたしには、聖餐の準備を助ける責任があります。父はわたしに命じてトレイを家に持って来させ、一緒にスチールたわしで全部のトレイがピカピカになるまで磨きました。わたしは聖餐を配るとき、聖餐の儀式を神聖なものとするために多少とも自分が貢献していることを感じていました。」（「どのように子供の心に残る親か」9）

「夫と子供のために献身的に働いた母にも感謝しています。母は模範を通して教えてくれました。30年以上にわたる扶助協会での献身的な働きに感謝しています。わたしは16歳のときに特に恵まれて、彼女から教訓を得ることができました。それは、母が監督を助けて、貧しい人や助けのいる人に手を差し伸べている現場へ連れて行ってもらったときのことでした。」（「神の恵みへの感謝」『聖徒の道』1992年7月号，68）

- 両親が言葉によって子供を教える機会にはどのようなものがあるだろうか。

参加者がこの質問について話し合う際、家族の祈り、家族の聖文学習、および家庭の夕べについては第16課で話し合うことを説明する。これらすでに定められた教える機会のほかに、日々の生活の中で思いがけないときに数多くの教える機会が訪れる。これらの機会は子供が経験している事柄に密接に結びついているために、教えるためのすばらしい機会

となる。そのような機会はほんのわずかな時間しかないことがあるので、両親はその機会に気づいて、子供たちが学ぶ準備のできている原則を教えられるよう備えておく必要がある。

- 思いがけない教える機会、両親が心積もりをしておくべきものにはどのようなものがあるだろうか。(答えがなかなか出ないようであれば、話し合いを促すために以下の提案を紹介するとよい。)

両親は、子供が質問や心配事、兄弟や友人と付き合っていくうえでの問題、決断をする機会、あるいはメディアを通じて知った考えに対する懸念を抱くときに、教える機会を見いだすことができる。また教える機会は、子供が自分の過ちから学ぶ必要があるとき、奉仕をしているとき、怒りを抑制する必要があるとき、あるいは聖霊の影響力を認識するために助けを必要としているときにも訪れる。

- 食事の時間や就寝時といった家族の日課は、どのような形で教える機会を提供してくれるだろうか。
- 子供との一对一の時間は、どのような形で教える機会を与えてくれるだろうか。子供たち一人一人と一对一で過ごす時間を確実に取るために、両親はどのようなことができるだろうか。
- これまであなたは思いがけない教える機会に、子供にどのようなことを教えることができただろうか。

本コースでこれから学ぶ4つの課では、両親が子供に教えなければならない原則と、両親に与えられた教えるための機会について話し合うことを説明する。

結 び

両親が主から導きを求めるなら、主は彼らが子供を教えるときに導いてくださることを強調する。模範と言葉によって教えようとするとき、両親は絶えず努力し、首尾一貫していなければならない。

御霊^{みたま}の促しに従って、レッスンで話し合ったことが真実であることを証^{あかし}する。

『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の51-56ページを見てもらう。レッスンでの教義や原則を復習するため、参加者に以下を行うよう奨励する。(1)「応用のための提案」にある提案から少なくとも一つを行う。(2) ジェームズ・E・ファウスト長老の説教「この世での最大のチャレンジ——良い親であること」およびリグランド・R・カーティス長老の説教「愛に囲まれた食卓」を読む。学習ガイドに掲載されている説教を夫婦でともに読んで話し合うことは、既婚者にとって大変有益であることを指摘する。

子供に福音の原則を教える

第13課

その1

目的 参加者が基本的な福音の原則と儀式を子供に教えたいという望みと教える能力を増すよう助ける。

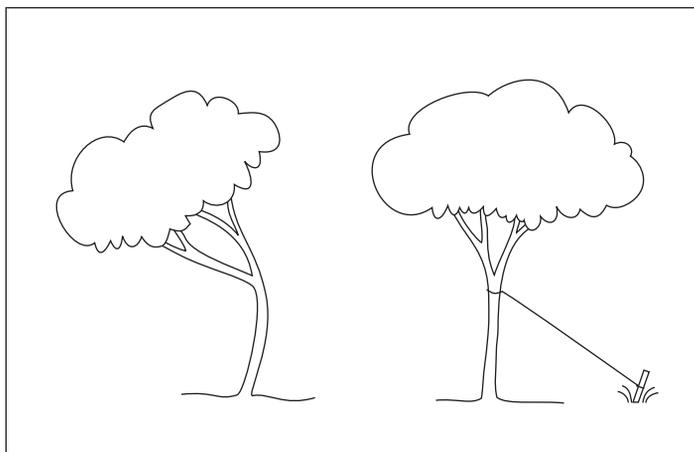
準備

1. 「教師としてのあなたの責任」(本書 ix-xi)にある原則を応用する方法を検討する。
2. 本課の太字の見出しに示されている教義と原則について深く考える。1週間を通しこれらの教義と原則を教える方法を思い巡らす。参加者の必要に合ったレッスンを行うには何を強調すればよいかを決めるに当たって、御霊の導きを求めよう。

レッスンの進め方の提案

両親の教えは子供に強い信仰を保たせる

黒板に以下の絵を描く。



- これらの二つの絵は何を表しているだろうか。これらの絵は子供を育てることについて何を教えているだろうか。

参加者がこの質問の答えに困っているようであれば、第12課に出てきた木を植えることに関するヒンクレー大管長の物語を思い起こさせる。(本課のみを教えていて第12課を教えていない場合は、黒板の絵について話し合う前に51ページにある物語を紹介する。)

左側の木は、両親が家庭で福音を教えず実践しなかったために福音から離れてしまった子供を表している。右側の木は、両親の言葉と模範があるために福音を学んでいる子供を表している。強い風が吹いても、ひもに導かれている若木はまっすぐに成長し続ける。同様に、両親から簡潔な福音の原則を学んできた子供は、よりしっかりと信仰にとどまるであろう。

参加者とともに教義と聖約68：25-28を読む。

- この聖句によると、主は両親に対して子供に何を教えるように求めておられるだろうか。(参加者の答えを次に示されているように黒板に書き出す。)

イエス・キリストへの信仰
 悔い改め
 バプテスマ
 聖霊たまものの賜物を受けること
 祈り
 主の前をまっすぐに歩むこと

- 子供が幼いうちに両親がこれらの原則や儀式を子供に教えることが大切なのはなぜだろうか。

管理監督であった当時、ロバート・D・ヘイルズ長老はこう説明している。「幼いときから祈ることを教えられ、親と一緒に祈った子供たちは、成長した後も祈り続ける可能性が高いものです。また、神を愛し神の存在を信じるように幼いときから教えられてきた子供は、成長とともに霊性を伸ばし続け、愛を深めていくことが多いのです。」（「どのように子供の心に残る親か」『聖徒の道』1994年1月号，10）

両親は子供に福音の第一の原則と儀式を教える

以下の質問を用いて、両親は子供たちが信仰と悔い改めの原則を実践し、バプテスマを受けて聖霊たまものの賜物を授かる備えをするのをどのように助けることができるかについて話し合う。話し合いを進めながら、参加者に自分自身の経験を分かち合うように奨励する。

- イエス・キリストへの信仰を行使するために、わたしたちは主の特質や属性について正しく理解していなければならない。両親は子供が救い主の特質や属性を理解するのをどのように助けることができるだろうか。
- イエスがヤイロの娘いばを癒された話（マルコ5：21-24，35-43）と、真鍮しんちゅうの版を入手するよう命じられたニーファイの反応（1ニーファイ3：1-7）について簡単に読む。これらの話は子供がイエス・キリストへの信仰を行使するうえで、どのように役立つだろうか。
- わたしたちの人生での経験を分かち合うことは子供の信仰を強めるのにどのように役立つだろうか。

両親は、信仰が人生における試練や困難を切り抜けるのを助けてくれることを子供に教える機会を探す必要がある。例えば、子供が学校や友人関係において問題を抱えているとき、両親は子供とともに聖句を読み、子供が導きと慰めを求めて祈るのを助け、主がどのように助けを与えてくださるか子供が理解できるように助けることができる。

- 両親が悔い改めについて子供に教えようと努力するとき、日々の生活の中で教える機会をうかがうことが大切なのはなぜだろうか。

両親は子供が賢明でない選択をするのを目にしたときに、子供にその選択についてどのように感じるか、またほかにどのようにすることができたかを尋ねることができる。両親は子供が過ちを正し、必要であれば主や傷ついた人々に後悔の念を表せるように導くことができる。また両親は、子供が真の悔い改めを通じてもたらされる幸福と平安を認識するよう助けることができる。

- 息子アルマ（モーサヤ27章；アルマ36章）およびアンタイ・ニーファイ・リーハイ人（アルマ23章）の改宗を簡単に読む。これらの話は子供が悔い改めと赦しゆるの祝福を重んじるようになるうえで、どのような助けとなるだろうか。

- 参加者とともにモーサヤ18：8-10および教義と聖約20：37を読み、バプテスマの聖約を復習する。両親は子供がバプテスマの聖約を交わして守る備えをするのをどのように助けることができるだろうか。
- 子供がバプテスマを受けて聖霊の賜物^{たまもの}を授かることを心待ちにするよう、両親はどのような助けができるだろうか。

両親は「その子供たちに祈ることと、主の前をまっすぐ歩むこと」を教えなければならない

- 子供が祈りを習慣にできるように助けるうえで、両親の模範が最も偉大な教師であるのはなぜだろうか。
- 祈りの模範を示すこと以外に、祈りについて両親が子供に教えることができる原則にはどのようなものがあるだろうか。（参加者がこの質問に答える際、以下の聖句および引用を読んで話し合う。これらの教えに関連した経験を分かち合うよう参加者に奨励する。）
 - a. ヤコブの手紙1：5-6（わたしたちが信仰を持って尋ねるなら神は知恵を与えてくださる。）
 - b. 2ニーファイ32：9（常に祈らなければならない。イエス・キリストの御名^{みな}によって御父に祈る。）
 - c. アルマ37：37（すべての行いについて主と相談するとき、主はわたしたちのためになる指示を与えてくださる。）
 - d. 3ニーファイ18：19-21（イエス・キリストの御名^{みな}によって御父に祈るとき、求めるものが正当であればそれを受ける。家族の中で祈らなければならない。）
 - e. 教義と聖約112：10（謙遜^{けんそん}であるならば、主は祈りにこたえてくださる。）

十二使徒定員会会員のダリン・H・オークス長老は、「祈りの言葉」を用いることの大切さについて語っている。オークス長老は、子供たちは祈りの言葉を両親から学ぶことができると言っている。

「人は周囲の人が話すのを聞いて、自分の母国語を身に付けます。天父に語りかける言葉についても同じことが言えます。祈りの言葉は、どのような言語よりも簡単に楽しく習得できます。子供たちにそのような特権を与えてください。家庭での日々の祈りの中で両親がそのような言葉を使っているところを、子供たちに聞かせる必要があります。」（「祈りの言葉」『聖徒の道』1993年7月号、18）

- 両親は家族の祈りを、子供たちを教える時間としてどのように活用できるだろうか。
- 両親はどのようにして子供たちに個人の祈りをするよう奨励できるだろうか。
- 主は、両親は子供たちに「主の前をまっすぐに歩む」よう教えなければならない、と言われた（教義と聖約68：28）。子供たちに「主の前をまっすぐに歩む」よう励ますために、両親は家庭においてどのようなことができるだろうか。（両親は子供たちに福音の律法と儀式に従い、いつでも、どのような所においても神の証人になるよう教えることができる、などの答えが考えられる。）
- 祖父母やその他の親族は、両親が子供たちに福音の原則を教えるのをどのように助けることができるだろうか。親族が子供たちを助けているよい例として、あなたはこれまでどのようなものを目にしてきただろうか。

結 び

神は両親に対して、子供たちに義の原則を教える責任を与えておられることを強調する。レッスンで教えられた原則を実践するよう努力し、これらの原則を子供たちにさらによく教えるためにどのような方法を用いるか、参加者に決めてもらう。

御霊^{みたま}の促しに従って、レッスンで話し合った真理に対する教師の確信を述べる。

『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の57-60ページを見てもらう。レッスンでの教義

や原則を復習するため、参加者に以下を行うよう奨励する。(1)「応用のためのアイデア」にある提案から少なくとも一つを行う。(2) ロバート・D・ヘイルズ長老の説教「家族を強めること——わたしたちに託された神聖な義務」を読む。学習ガイドに掲載されている説教を夫婦でともに読んで話し合うことは、既婚者にとって大変有益であることを指摘する。

子供に 福音の原則を教える

第14課

その2

目的

参加者が子供に思いやりと奉仕、正直と人の物を大切にすること、正直に働くことの喜び、道徳的な清さを教えたいという望みを強め、教える能力を高められるように導く。

準備

1. 「教師としてのあなたの責任」(本書 ix-xi)にある原則を復習する。それらの原則を教える準備に応用する方法を探す。
2. 本課の教義と原則を示す太字の見出しを読む。準備として1週間を通しそれらの教義と原則について深く考える。参加者の必要に合ったレッスンをを行うには何を強調すればよいかを決めるに当たって、御^{みたま}霊の導きを求める。必要であれば、これらの原則を2回に分けて教える。
3. 以下の資料があれば、読んでクラスに持参する。
 - a. 『若人のために』(34285 300)
 - b. 『良い親になるために』(31125 300)
 - c. 『家庭の夕べアイデア集』(31106 300)。この資料を読む際、特に262-263ページの「責任を教える」、および269-276ページの「性と純潔について教える」に注意する。これらの項目をレッスンで参照することを検討する。

レッスンの進め方の 提案

両親は子供に教えるとき、愛を示す

七十人のローレン・C・ダン長老が語った以下の経験を紹介する。

「わたしはある小さな町で少年時代を過ごしましたが、父はわたしたち兄弟に労働の原則を教える必要があると考え、自分が育った町外れの農場に働きに行かせました。父は地元の新聞社を持っていたため、わたしたちとゆっくり過ごせるのは早朝と夜だけでした。まだ10代の二人の少年にとってはその仕事は実に大きな責任で、わたしたちは時々失敗もしました。

小農場の周りは別の農場に囲まれていましたが、ある日一人の農夫が父のところへ行き、わたしたちの仕事がいかに不手際かを話して聞かせました。父はじっくりと話を聞いた後でこのように言いました。『ジムさん、お分かりでないようですね。わたしが育てているのは牛ではなくて、息子たちなんですよ。』父の死んだ後、ジムがそのことを話してくれました。牛ではなく、息子たちを育てようと心に決めた父に、わたしはどんなに感謝したことでしょう。わたしたちは失敗もしましたが、農場での仕事を覚えることができました。また、両親はほとんど口にしませんでしたが、わたしたちが父母にとって牛よりも大切なこと、ほかの何よりも大切なことを、わたしたちはいつも感じていたように思います。」(『私たちの大切な家族』『聖徒の道』1975年4月号, 180)

- この物語で印象に残るのはどこですか。

ダン長老とダン長老の兄弟は、自分たちが両親から愛されていることを常に理解していたことを強調する。両親が子供に愛を示す方法の一つは、彼らが福音を学び実践するのを時間を取って助けることである。このレッスンでは、思いやりと奉仕、正直、人の物を大切にすること、正直に働くことの喜び、道徳的な清さという福音に従った生活の5つの基本的な原則を子供に教える方法について話し合う。

両親は子供に思いやりと奉仕を教えなければならない

救い主がその教導の業を通じて、愛と奉仕の大切さを教えられたことを説明する。主はこの原則を言葉と模範によって教えられた。

- 愛と奉仕について両親から学ぶ子供にはどのような恵みがもたらされるだろうか。(参加者の答えを聞き、以下の例を紹介する。)

十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー長老はこう述べている。

「教会で教えたり、指導したりするいかなる召しをもしのご奉仕を続けてきた一人の愛する姉妹を、わたしは長年にわたって見てきました。彼女は助けを必要としている人を見つけると、行動に移します。『助けが必要なきときはいつでも言ってね』ではなく、『わたしはここにいます。どんなお手伝いをしましょうか』という姿勢です。彼女は一見ささいなことのように見える事柄を頻繁に行います。集会中にだれかの子供の面倒を見たり、スクールバスに乗り遅れた子供を学校まで送ったりといったことです。教会での彼女は見慣れない人を常に探していて、見つけると、その人に歩み寄って歓迎します。……

彼女が奉仕の精神を学んだのは母親からでした。奉仕の精神を教える最善の場所は家庭です。わたしたちは、無私の精神が幸福を得るためになくはならないものであることを、模範によって、あるいは言い聞かせることによって子供たちに教えなければなりません。」「奉仕の業に召される」『聖徒の道』1998年1月号、5-6)

ある家族に悩みを抱えている子供がいた。その子供が問題に対処するのを助けるために、両親は彼に、毎日家族のだれか一人のためにひそかな奉仕をするように勧めた。その週の終わりには、彼は自身の問題についてあまり悩まなくなり、他人に関心を向けることによって得られる祝福と平安を味わい始めていた。

- 奉仕について家庭でしか学ぶことのできないものにはどのようなものがあるだろうか。
 - 両親が子供に奉仕を教えるのに役立つ事柄にはどのようなことがあるだろうか。
- 参加者の答えを黒板に書くとよい。参加者に自分自身の経験からの例を紹介するように勧める。また家族で行う奉仕活動についてのアイデアを紹介してもらう。話し合いを進めながら、以下のアイデアを提示する。
- a. 両親は家族に奉仕し、教会での割り当てを果たし、周囲の人々に手を差し伸べることによって模範を示すことができる。
 - b. 両親は子供が家族や周囲の人々に奉仕する機会を探すことができる。年少の子供であっても奉仕の喜びを感じることができる。

両親は子供に正直と人の物を大切にすることを教えなければならない

大管長会第一副管長であったN・エルドン・タナーの以下の勧告を紹介する。

「この正直の訓練は、家庭から始まります。わたしたちにはそれぞれ個人の所有物があります。おもちゃやゲームを分かち合うことができるし、人に対する奉仕も相手に分かちあうことができます。またそうすべきものです。しかし、わたしたちには、お金、宝石、衣服といったまったく個人的な所有物もあります。これは所有者の同意がなければ持ち出せないものです。家庭でこのような教えを学んでいる子供は、家庭外でもこの原則に従おうとします。他方、このような訓練の欠けている場合は、他人の権利や所有物を軽視する気持ちを増長させることとなります。」(「適切な推薦を受けるにふさわしく」『聖徒の道』1978年10月号、66)

- 子供が人の物を大切にするように教えられないと、どのようなことが起こるだろうか。
- 子供は正直と人の物を大切にすることを家庭でどのように学ぶことができるだろうか。両親はいつからこれらの原則を子供に教え始めるべきだろうか。

両親は子供に正直に働くことから得られる報いについて教えなければならない

教会指導者は、子供に働くことを教えることの大切さについて、頻繁に両親に勧告を与えてきた。子供に働くことを教えることは時に難しいこともあるが、両親は決してあきらめる

ことなく努力を続けなければならない。十二使徒定員会会員のL・トム・ペリー長老はこう勧告している。「正直に働く喜びを子供に教えることは、親が子供に与え得るあらゆる贈り物のうち、最上のものの一つです。」（「正直に働く喜び」『聖徒の道』1987年1月号，65）

● 幼いうちから子供に労働と勤勉の原則を教えることにはどのような価値があるだろうか。両親は子供が働くことの大切さを学べるようにどのような助けができるだろうか。（参加者がこの質問について話し合う際、自分自身の経験からの例を紹介するよう勧める。話し合いを促すために以下のアイデアを挙げるとよい。）

- a. 家事を楽しく手伝うことによって子供に模範を示す。
- b. 子供に各自の能力に合った責任を与える。
- c. 責任を果たす方法を時間をかけて教える。
- d. 子供の手助けに対して感謝を表す。

以下の言葉の一つ、または両方を読む。

第15代大管長ゴードン・B・ヒンクレーはこう勧告している。「子供たちは親と一緒に、皿洗い、床掃除、芝の手入れ、庭木のせん定、ペンキ塗り、修理、整理整頓などをする必要があります。清潔さ、進歩、繁栄などを手に入れるには働かなければならないことを教えてくれる数多くの事柄と一緒にする必要があります。」（「家族と国の助けとなる4つの簡単な事柄」『聖徒の道』1996年6月号，8）

十二使徒定員会会員であった当時、ジェームズ・E・ファウスト長老はこう教えている。「子供たちをしつけ、責任感を身に付けるように教えるために不可欠な要素は、働くことを学ばせることです。……ここでもまた、働くことの原則を教える最良の教師は親自身です。初めてわたしが父や祖父、おじや兄弟たちと一緒に働いたとき、わたしにとって働くことは楽しみでした。きっと彼らを助けるというよりむしろ困らせる方であったに違いありませんが、それは楽しい思い出となり、学んだ教訓は貴重な体験となっています。子供たちは責任感と独立心を学ぶ必要があります。リーハイの教えたように、子供たちが『思いのままに行動することができ、強いられることはない』（2ニーファイ2：26）ように、親は自分の時間を割いて教え、実際に行い、説明しているでしょうか。」（「この世での最大のチャレンジ——良い親であること」『聖徒の道』1997年1月号，37。『結婚と家族関係参加者用ガイド』53も参照）

- 子供にとって両親や家族と一緒に働くことが大切なのはなぜだろうか。家族でともに働くことは、家族関係にどのような影響を与えるだろうか。
- 正直に働くことの報いにはどのようなものがあるだろうか。（以下のような答えが考えられる。）
 - a. 立派に成し遂げた仕事からの満足感と喜び
 - b. 達成感
 - c. 大切な実用的技術の訓練
 - d. 自尊心の実感
 - e. 学業面での荣誉や財政的な利益など、物質的な報い

● 働くことはどのような点でこの世的な祝福と同時に霊的な祝福となるだろうか。

● 両親は、子供が収入を得てそれを賢明に利用するのをどのように助けることができるだろうか。子供が仕事と教会や学校、家事など、その他の働きとのバランスを保てるように、両親はどのように助けられるだろうか。

● 子供が働く責任を回避するのを両親が容認することにはどのような危険が潜んでいるだろうか。

十二使徒定員会会員のニール・A・マックスウェル長老はこう教えている。

「労働が『完全な福音』の一部であることを心に留めてください。喜びにあふれていますが、伝道活動は労働です。喜びにあふれていますが、神殿活動も労働です。悲しいことに、現代の無気力な若人たちは、きちんと働ける人も幾らかいますが、ほとんどはかつて気ままな生活をしようとしています。……

父親の皆さん、気をつけてください。自分のときよりよいものを子供に与えようと考え

すぎではいけません。しかし、子供が経験すべき手ごろな仕事を取り除き、今の自分を形成してきた機会を子供から奪って、知らずに状況を悪化させないようにしてください。』
〔押せ、肩の力もて〕『聖徒の道』1998年7月号、43)

両親は子供に道徳的に清くあるべきことを教えなければならない

両親には子供に道徳的な清さに関する主の標準を教える義務があることを強調する。これにより子供が誘惑に耐えられるように助けることができる。

- 両親が道徳的な清さと性について率先して子供と話し合わなければならないのはなぜだろうか。これを率先して行わない両親はどのような危険を冒しているだろうか。

今日の世の中で、子供が性について耳にするのを避けることは不可能であるが、彼らが世の中で耳にすることの大半は、神聖な生殖の力の誤用を助長するものであることを指摘する。子供、とりわけ10代の子供は、これらのトピックに関する正確な情報と正しい教義を必要としている。両親は、子供が世の中で教えられている偽りに耐える強さを得られるように助けなければならない。両親は子供に生殖の力の使用に対する主の計画を教えなければならない。

子供を持つ参加者に、これらのトピックについて子供に効果的に教えることができた例を話してもらおう。参加者の意見を聞き、以下の原則を紹介する。

小さな子供には、体の神聖さについて分かりやすく簡潔な情報を与えなければならない。このような理解は、誘惑しようとする人々から自身を守るのを助けることになる。子供が思春期に近づくと、両親は体に起こる変化について慎重に説明しなければならない。両親は身体的な成熟はごく自然のことであり、神の計画の一部であることを説明する。

また両親は、性的能力は主が定められた範囲内で用いるならばよいものであるが、主の戒めに背いて用いることは重大な罪であることを子供が理解するよう助けなければならない。10代の子供は主の標準について両親からの明確な指針を必要としている。

パンフレット『若人のために』を見せる。このパンフレットには青少年とその両親にとってきわめて有益な事柄が紹介されていることを説明する。パンフレットにはデートや服装、言葉、メディア、および音楽やダンスについての教会の標準が述べられている。青年期に入りつつある子供一人一人と、個別にこのパンフレットをともに読んで話し合うよう両親に勧める。これによって、両親は話しづらいこともあるトピックを容易に話題にすることができる。また青少年には道徳の標準についての具体的な質問をする機会を与えてくれる。パンフレットの15-16ページからの以下の抜粋を紹介する。

「天父は、性的に親密な関係は夫婦関係の中でのみ許されると勧告しておられます。夫婦間のこの関係はうるわしく神聖なものとすることができます。それは子供をもうけるため、また夫婦間の愛情の表現として、神によって定められたものです。『それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。』（創世2：24）

性的に親密な関係は非常に神聖なものです。そのために主は、すでに結婚している人々に互いの完全な忠節を求めると同様、未婚の人々にも自制心と純潔を求めておられます。デートをするときには、相手を尊重する必要があります。それと同時に、自分自身に対してもそれと同じ思いで接するよう、相手に望むことも大切です。デートの相手を、自分の情欲や利己心を満足させるための対象として扱うようなことは絶対に許されません。不適切な肉体的接触は、自制心を失わせる原因となることもあります。どのようなときにも自制心を保ち、衝動的な思いを抑えてください。

主はある種の行いをはっきりと禁じておられます。その中には、結婚前におけるあらゆる形の性的関係、ペッティング、性倒錯（同性愛、強姦、近親相姦など）、マスターベーション、また自制心を忘れたわいせつな思い、言動、行動などが含まれます。……

同性愛は罪悪であり、主の目に憎むべきものです（ローマ1：26-27、31参照）。同性愛も含めて、自然の理に反した思いは、神が人類のために定められた永遠の計画にも反するもの

です。あなたには正しい選択をする責任があります。相手が同性であれ異性であれ、情欲はさらに重大な罪に発展する恐れがあります。末日聖徒は皆、自分を治め、鍛練するようになければなりません。」

『良い親になるために』と『家庭の夕べアイデア集』を見せる。これらの資料は純潔について子供に教えようと努力している両親にとって助けとなることを説明する。『良い親になるために』では全体にわたってこのトピックが扱われている。『家庭の夕べアイデア集』では、269-276ページでこのトピックが取り上げられている。

子供と性について話すとき、両親は道徳的な清さが喜びと平安につながることを証^{あかし}できることを強調する。

- 両親にとって、道徳的な清さを言葉で教えることだけでなく、模範を示すことが不可欠なのはなぜだろうか。両親はどのように道徳的な清さの模範を示すことができるだろうか。

子供は両親が互いにどのように接するか、どのような書物やその他のメディアが家庭に入るのを許すか、また神聖な生殖の力についてどのように話すかによって、道徳的な清さについて正しい原則を学ぶことができる。そのことを指摘する。

結 び

両親は子供に義の原則を教える責任があることを強調する。レッスンで学んだ原則に従うよう努力するとともに、その原則をどのような方法で子供たちに教えるか決めるように参加者を励ます。

御^{みたま}霊の促しに従って、レッスンで話し合った真理に対する教師の確信を述べる。

『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の61-66ページを見てもらう。レッスンでの教義や原則を復習するため、参加者に以下を行うよう奨励する。(1)「応用のための提案」にある提案から少なくとも一つを行う。(2) ボイド・K・バッカー長老の説教「子どもたちを教えなさい」を読む。学習ガイドに掲載されている説教を夫婦とともに読んで話し合うことは既婚者にとって、大変有益であることを指摘する。

第15課

子供が決定を下すに当たって、 導きを与える

目 的

何かを決めようとする子供を導くうえで役立つ原則を教える。

準 備

1. 教える備えをしながら、「教師としてのあなたの責任」（本書 ix-xi）にある原則を実践する方法を探す。
2. 太字の見出しを読む。これらの見出しには本課の教義と原則が要約されている。準備の一部として、これらの教義と原則を応用できるよう参加者を助ける方法を思い巡らす。参加者の必要に合ったレッスンをを行うためには何を強調すればよいかを御霊の導きを求めながら決める。
3. 『家庭の夕べアイデア集』（31106 300）がある場合は、253-254ページにある「自由意志——成長の鍵」および268-269ページにある「迷い出た子供」を研究する。これらの項目をレッスンで参照することを検討する。
4. 小さな石を一つクラスに持参する。本課の最後の箇所で使用する。

レッスンの進め方 の提案

子供は決定を下すときに導きが必要である

トーマス・S・モンソン副管長が総大会での説教で紹介した以下の詩を読む。

「少年は一人で分かれ道に立った。
日の光が顔を照らす。
彼は世の中を知らない。
これから人生の大変なレースだ。
でも道は西と東に分かれていた。
どちらの道がよいか分からない。
そこで彼は下りの道を選んだ。
そして彼はレースに敗れ、冠を受けることなく
恨みに満ちた人生を過ごした。
分かれ道で、だれも
どちらに行くべきか教えてくれなかったから。

ある日同じ分かれ道に
高い望みを抱いた少年が立った。
彼も人生のレースのスタートだ。
彼もよきものを求めていた。
そこには道を知っている者がいた。
その人はどちらに行くべきか教えてくれた。
こうして少年は下りの道を避けた。
そしてレースに勝ち、勝利の冠を受けた。
彼は今、順調に高い道を歩んでいる。
分かれ道に立って、より良い道を教えてくれる人がいたから。」
（「さらに高き道を」『聖徒の道』1994年1月号、57）

子供や青少年はしばしば岐路に立つ。すなわち人生にいつまでも影響を及ぼすような選択

を迫られるときがある。道を知っている両親は、そこにいて子供が正しい選択をするように助けなければならない。たとえ選択の瞬間に両親が子供とともにいることができない場合であっても、子供は両親から教わったことを思い出して聖霊の導きを受け、その促しに頼れるようになる必要がある。

両親は子供が選択の自由を義にかなって行使できるように助けることができる

選択の自由は天父がわたしたちに授けられた最も偉大な賜物^{たまもの}の一つであることを説明する。選択の自由とは、自分自身で選択し行動する力である。選択の自由を通じて、わたしたちは救い主に従い、永遠の命の祝福を受ける（2ニーファイ2：25-28参照）。

参加者とともに教義と聖約58：27-28を読む。

- この聖句は何かを決めようとしている子供を助ける両親にどのように当てはまるだろうか。
- 子供に決めさせることにはどのような利点があるだろうか。
以下の資料には、子供が選択の自由を義にかなって行使するのを助けるために親が従うことのできる原則が略述されている。参加者とともにこれらの原則について話し合う。

子供に天父の偉大な幸福の計画を教える

参加者とともに、アルマ12：32から以下の抜粋を読む。

「そこで神は、贖^{あがな}いの計画を人々に示された後、……戒めを彼らに与えられた。」

- 神が贖^{あがな}いの計画を示された後に戒めを与えられたことが重要なのはなぜだろうか。戒めに従うように子供を励まそうとする両親は、この原則をどのように応用することができるだろうか。

十二使徒定員会会員のボイド・K・パッカー長老はこう教えている。

「若人は『なぜ?』と言います。なぜこれをしなきゃならないの? なぜこれをしちゃいけないの? 幸福の計画についての知識が、若人に『なぜ?』の理由を与えてくれます。

皆さんは、若人が誘惑を受けるときにそばにいることはできません。そのような危険なとき、彼らは自分に与えられたものに頼らなければなりません。それを福音の枠の中に見いだすことができれば、彼らは非常に強められます。

幸福の計画は何度も繰り返し教える価値のあるものです。そうすれば、人生の目的や贖^{あがな}い主の實在、戒めの必要性が心に刻み込まれます。

そして、彼らが福音について学んだことや人生で経験したことが、キリストとその贖^{あがな}い、福音の回復への深まり続ける証を増し加えていくのです。」（*The Great Plan of Happiness* [宗教教育者への話、1993年8月10日]、3）

子供に福音の原則に基づいた明確な指針を与える

両親は子供に選択の際に従うべき明確な指針を与えなければならない。これには家庭において福音を教えることや行動の標準を定めることが含まれる。七十人のジョー・J・クリステンセン長老はこう教えている。

「道徳上の標準や指針を明確に決めるのを恐れしないでください。必要なときには、『ノー』と言わなければならないのです。……わが家では、してはならない決まりがあることを、子供たちにはっきり伝えてください。自分の子が友達から受け入れられたり、人気を得たりすることに気を配るあまり、子供たちがお金をかけて流行を追いかけたり、慎みのない服装をしたり、夜遅くまで外出したり、16歳になる前にデートをしたり、成人映画に行ったりするのを、標準にそぐわないと感じていながら黙認している親がいます。子供にとっても親にとっても、正しくあろうとするのは、時として孤独なことです。子供たちは、一人で夜を過ごすなければならないかもしれません。パーティーに出られなかったり、映画に行けなかったりもするでしょう。それはあまり楽しい経験ではないかもしれません。しかし、子育ての目的は人気投票で1位になることではないのです。」（『汚れた世にあって子供を育てる』『聖徒の

道』1994年1月号, 12-13)

- 家族のために明確な道徳の指針を定めるために、両親にはどのようなことができるだろうか。(参加者がこの質問について話し合う際、自分自身の経験からの例を紹介するよう勧める。)

参加者とともにモロナイ7:15-19を読む。

- ここでは善悪をわきまえる方法についてどのような勧告が与えられているだろうか。両親は子供のための指針を定めるときに、この勧告をどのように実践できるだろうか。
- 子供や青少年の生活の中で、彼らが善悪を判断する際に助けを必要とする可能性のある分野にはどのようなものがあるだろうか。両親は子供が義にかなった選択をするのを助けるために、モロナイ7:15-19にある勧告をどのように用いることができるだろうか。

子供が生活の中で聖霊の影響力を認識するのを助ける

モロナイ7:15-19には、善悪をわきまえるのを助けてくれるキリストの光について書かれていることを説明する。キリストの光に従うことに加えて、わたしたちは「[わたしたち]がなすべきことをすべて[わたしたち]に示し(2ニーファイ32:5)、わたしたちが「すべてのことの真理を知る」(モロナイ10:5)のを助ける聖霊から導きを受けることができる。聖霊を認識してその促しに従うことを学ぶとき、子供たちは選択に当たってさらなる助けを受けるであろう。子供が聖霊の賜物を授かった後、両親は彼らが御霊を常に伴侶とするのにふさわしくありたいという望みをはぐくむように助けることができる。

十二使徒定員会会員のロバート・D・ヘイルズ長老は、聖霊の影響力を認識できるように母親がどう助けてくれたかを語っている。

「わたしがバプテスマと確認の儀式を受けた後、母がそばに来て『どんな気持ち?』と聞きました。わたしは、何とか言葉を見つけて、その平安に満ちた穏やかで、幸せで、温かい感じを伝えました。すると母は、それは今受けたばかりの聖霊の賜物で、もしふさわしく生活すれば、その賜物が常にわたしともにあることを説明してくれました。そのとき受けた教えは、生涯にわたってわたしの心に刻まれています。」「(「家族を強めること——わたしたちに託された神聖な義務」『リアホナ』1999年7月号, 39)

- 両親は子供が聖霊の影響力を感じてそれを認められるようにどう助けることができるだろうか。(両親は子供に聖文を学習し、神聖な音楽を聴き、戒めを守り、心から祈るよう励ますことができる、また子供に霊的な経験について話し、彼らへの愛を表すことができる、などの答えが考えられる。)

両親にとって子供たちに個人の聖文学習、祈り、断食といった個人的に行う宗教的行為を奨励することが不可欠であることを強調する。家族の宗教活動に参加することは大切であるが、それだけでは十分ではない。

小さな子供には簡単な選択をする機会を与える

両親は小さな子供に何かを決める機会を与えることができる。選択は簡単なものにし、通常は二つの選択肢だけを与えたり、どちらを選んでも問題のないようにしておいたりする。例えば、「今日は青いシャツを着たい? それとも赤いシャツを着たい?」あるいは「お話を聴きたい? それとも寝る時間まで遊んでいたい?」と尋ねることができる。そのような選択肢を与えた後は、子供の選択を受け入れなければならない。

- そのような簡単な選択は、子供が後に重要で難しい選択をするための備えをするうえでどのように役立つだろうか。

選択の中には永遠に影響を及ぼすものがあることを子供が理解できるよう助ける

安息日の活動を選ぶ、友人を選ぶ、教育に関する計画を立てる、あるいは職業に関する目標を立てるなどの難しい選択をしなければならないとき、子供は福音の真理に基づいて選択する方法を知っている必要がある。また、自分の選択が永遠に影響を及ぼす可能性があるこ

とを理解していなければならない。両親は子供が幼いうちから時間を取ってこれらの原則について子供と話さなければならない。

- 両親は子供と話し合うとき、どのような方法で導くことができるだろうか。(自分自身の経験を話す、子供に主の戒めを思い起こさせる、異なる選択が持つ永遠の結果について考えさせる、などの答えが考えられる。)
- 子供が正しくない選択をしそうなときに親の介入が求められることがある。具体的にはどのような状況が挙げられるだろうか。

参加者の一人に十二使徒定員会会員M・ラッセル・バラード長老の以下の勧告を読ませる(『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』69)。

「誤った選択をするのを見たら、間に入るのが親の務めです。それは尊い賜物^{たまもの}である選択の自由を子供から奪うことではありません。選択の自由は神から授かった賜物であるため、究極的には、子供たちが何を行い、どのように振る舞い、何を信じるかという選択は、常に子供たちにかかっています。しかし親として、適切な振る舞いについて、そして誤った道に進んだ場合の結果について、子供たちが理解していることを確認する必要があります。覚えていただきたいのは、家庭の中には非合法の検閲官のような人は存在しないということです。映画、雑誌、テレビ、ビデオ、インターネット、そのほかのメディアは、家庭では客のような存在です。そして家族の娯楽としてふさわしいと判断した場合だけ、招き入れるべきです。皆さんの家庭を平安と義の避け所としてください。自分の特別な霊の環境が悪の影響に汚染されるのを許してはなりません。互いの言葉や態度を親切で、思いやり深く、温和で、情け深いものにしてください。また福音の標準に基づいた家族の目標があれば、よりいっそう良い決断をしやすくなります。」(「消せない炎のように」『リアホナ』1999年7月号, 104)

両親は子供にふさわしくない決定の結果から学ばせるべきである

子供が正しい選択ができるように親が介入しなければならないケースもあるが、ふさわしくない選択をしたことから来る結果を阻止するような介入はしてはならないことを指摘する。

- 子供に自分の選択の結果を味わわせないと、どのような結果を招くだろうか。逆に、自分の選択の自然な結果を経験させることは、どのような利益をもたらすだろうか。(参加者に自分自身の経験からの例を紹介するように勧める。その後、以下の言葉を読む。)

十二使徒定員会会員のリチャード・G・スコット長老はこう語っている。「子供が故意に戒めを破って受ける当然の報いを取り除こうとして、親が意図的に介入するのは誤りです。このようにすれば、誤った原則を教える結果となり、さらに大きな罪を誘発し、悔い改めの必要性を感じなくなってしまいます。」(「正しい原則の力」『聖徒の道』1993年7月号, 37)

ロバート・D・ヘイルズ長老はこう教えている。「子供が誤りから学ぶのを見守るのは、恐ろしい経験です。しかし、人から強要されてでなく、子供が自らの手で主の方法や家族の価値観を選ぶとき、選択の機会はさらにすばらしいものになります。愛と寛容という主の方法は、力と強制というサタンの方法よりも優れています。10代の子供を育てる場合は、特にそうです。」(「家族を強めること——わたしたちに託された神聖な義務」39)

両親は道を外れた子供たちにも絶えることのない愛を示さなければならない

たとえ両親が最善を尽くしても、自分自身やほかの人々に深い悲しみを招くような選択をする子供がいることを指摘する。両親は道を外れた子供たちへの愛を決して失ってはならない。リチャード・G・スコット長老はこう語っている。

「皆さんの中には、親の勧めを無視して、道を外れた子供を持つ人もいるでしょう。天父も繰り返し同じような経験をしていらっしゃいます。中には自由意志の賜物^{たまもの}で天の勧告に背く選択をする神の子供たちもいますが、神は愛し続けていらっしゃいます。それでもわたし

は、神が子供たちの無分別な選択を見ても、御自分を責められることはないと確信しています。」(「正しい原則の力」37)

「立派な親とは、子供に愛を示し、犠牲を払い、世話をし、教え、子供の必要を満たす人のことです。もしこれらのことをすべて行っても、子供が不従順で世のものを追い求め、手に負えないようであれば、それでも、皆さんは立派な親であると言えます。どのような環境の下でどのような両親のもとに生まれてこようとも、反抗するために生まれてきたような子供がいるのではないのでしょうか。同様に、両親がどうあろうと、両親の生活に祝福と喜びをもたらす子供もいると思います。」(「子供を思いやる両親」『聖徒の道』1994年1月号, 114)

参加者の一人に、教師がクラスに持参した小さな石を渡す(「準備」の第4項参照)。そして、その石を自分の目の前に持ってくるように言う。それから、何が見えるかを言ってもらう。リチャード・G・スコット長老が七十人であった当時に紹介した以下のたとえを読む。

「小さな石ころでも、目のすぐ前に持ってくると、大きな岩のように見えて、それ以外何も見えなくなってしまいます。すべての関心を小さな石に注ぐことになるのです。このように愛する者の問題が、四六時中わたしたちの生活を脅かすようになります。実際にできるかぎりのことをした後は、主の御手にすべてをゆだね、もはやよくよ悩む必要はありません。どうしてもっとできないのかと自分を責めないでください。無益な心配をして皆さんの力を浪費しないでください。主は皆さんの視界を遮っている小石を取り除かれ、それを永遠に進歩する過程で直面する一つの課題としてとらえられるようにしていただきます。こうして、問題を正しく見ることができるようになります。そのうちに、皆さんは心に御霊を感じて、どうしたらもっと助けられるかが分かるでしょう。そしてより大きな平安と幸せに恵まれ、皆さんを必要とする人々をおろそかにせず、永遠の見地から物事を見て、より効果的な助けを与えることができるようになるでしょう。」(「助けを必要としている人に」『聖徒の道』1988年6月号, 62)

- 両親はどのようにしたら道を外れている息子や娘に変わる事のない愛を示すことができるだろうか。そのような愛を、彼らの行いを黙認することなく示すにはどうすればいいだろうか。

参加者とともにルカ15：11-32を読む。この箇所はしばしば放蕩息子^{ほうとう}のたとえ話と呼ばれていることを説明する。しかし、これは愛にあふれた父親のたとえ話とも呼ぶことができる。

- このたとえ話から、父親の愛が道を外れた子供たちに与える影響についてどのようなことが学べるだろうか。

大管長会の第一副管長であった当時、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう教えている。

「人の世の歴史を通じて、反抗的な子供の行いは嘆きや悲しみのもととなっていますが、反抗しても、家族のきずなはその子を包んできました。

ルカによる福音書15章に記録されている救い主が語られた話ほど、心を打つものはないと思います。財産を要求し、それを使い果たして無一文になってしまった軽率で貪欲^{どんよく}な息子の話です。彼が後悔して父のところへ帰って来ると、遠くから彼を見つけた父親は走って行って息子を抱きしめ、首に手を回して接吻^{せつぶん}しました。」(「神が合わせられたもの」『聖徒の道』1991年7月号, 74)

結 び

子供が選択をする際に導きを与え、自分の行動の結果から学ばせることの大切さを強調する。主が、子供を愛し、子供のために努力し続ける両親を祝福されることを参加者たちに思い出させる。その後、管理監督であった当時のロバート・D・ヘイルズ長老の以下の言葉を読む。

「子供を育てる過程で間違いを犯さない親はいません。しかしへりくだり、信仰を持ち、祈り、勉強することによって、だれでもさらによい道を学び、その過程で現在の自分の家族

を祝福し、幾世代にもわたって正しい伝統を伝えることができます。」（「どのように子供の心に残る親か」『聖徒の道』1994年1月号，10）

御^{みな}霊の促しに従って、レッスンで話し合った原則が真実であることを証^{あかし}する。

『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の67-70ページを見てもらう。レッスンでの教義や原則を復習するため、参加者に以下を行うよう奨励する。(1)「応用のためのアイデア」にある提案から少なくとも一つを行う。(2) M・ラッセル・バラード長老の説教「消せない炎のように」を読む。学習ガイドに掲載されている説教を夫婦とともに読んで話し合うことは、既婚者にとって大変有益であることを指摘する。

第16課

家族の祈り，家族の 聖文学習，家庭の夕べ

目的 定期的に家族の祈り，家族の聖文学習，および家庭の夕べを行い，これらの時間を通じて福音を教えるように奨励する。

- 準備**
1. 「教師としてのあなたの責任」(本書 ix-xi)にある原則を応用する方法を検討する。
 2. 本課の太字の見出しに示されている教義と原則について深く考える。1週間を通しこれらの教義と原則を教える方法を思い巡らす。参加者の必要に合ったレッスンを行うには何を強調すればよいかを決めるに当たって、御霊の導きを求める。
 3. 以下の資料がある場合は、それらの一部またはすべてをクラスに持参する。家庭の夕べについて話し合う際に見せられるようにしておく。
 - a. 聖典
 - b. 『家庭の夕べアイデア集』(31106 300)
 - c. 『家族ガイドブック』(31180 300)
 - d. 『家庭の夕べ ビデオ補助教材』(53736 300)
 - e. 『福音の原則』(31110 300)
 - f. 教会機関誌
 - g. 『わたしたちの受け継ぎ：末日聖徒イエス・キリスト教会歴史概観』(35448 300)
 - h. メルキゼデク神権および扶助協会テキスト
 - i. 福音の教義クラスの生徒用学習ガイド
 - j. 『若人のために』(34285 300)
 - k. 『モルモン書ものがたり』(35666 300) など教会が出版している聖文物語
 - l. 『福音の視覚資料セット』(34730 300)
 4. 74ページにある復習のための活動を利用する場合は、各参加者のために紙とペンまたは鉛筆を用意する。

レッスンの進め方の提案

家族の祈りと聖文学習，家庭の夕べは，すべての末日聖徒の家族で高い優先順位を与えられなければならない

1999年2月，大管長会は全世界の教会員に向けて一通の手紙を送ったことを説明する。手紙には以下のような指示が書かれている。

「わたしたちは親の皆さんと子供たちに，家族の祈り，家庭の夕べ，福音の研究と指導，そして健全な家族活動を最優先するようお勧めします。必要とされるその他の事柄や活動がどれほど価値のある適切なものであったとしても，それらは，親と家族だけが全うできる天与の義務に取って代えられるものでは決してありません。」(大管長会からの手紙，1999年2月11日付)

● この勧告が今日特に大切なのはなぜだろうか。

このレッスンでは，毎日の家族の祈りや聖文学習および毎週の家庭の夕べを行うために，両親にどのようなことができるかについて話し合うことを説明する。

家族はともに祈るときに大きな祝福を受ける

参加者とともに3ニーファイ18：21を読む。その後，第15代大管長ゴードン・B・ヒンクレ

一の以下の勧告を紹介する。

「この教会の家族は皆、一緒に祈りをささげてください。もちろん個別に祈りをささげることは重要なことですが、家族で祈りをささげることも素晴らしいことです。信仰を持って天父に祈ってください。主イエス・キリストの御名^{みな}によって祈ってください。家族の祈りのときに順番に祈らせ、自分の受けている祝福に感謝の言葉を述べさせること以上に、子供にとって良いものはありません。子供たちが幼いうちにこれを実行したら、その心に感謝の気持ちをもって成長していくことでしょう。」(「霊的な思い」『聖徒の道』1997年7月号, 7)

- 毎日の家族の祈りの習慣を築くために、家族にはどのようなことができるだろうか。これまであなたが毎日の家族の祈りを行ううえで直面してきた問題にはどのようなものがあり、どのようにそれらを解決してきただろうか。
- 家族の祈りを家族にとって有意義な時間とするために、家族にはどのようなことができるだろうか。(参加者の答えを聞き、以下の提案の一部またはすべてを紹介する。)
 - a. 祈りの前に、両親は特に家族で天父に感謝すべきこと、あるいは家族の祈りの中で思い起こすべきことが何かあるかを尋ねることができる。
 - b. 両親は子供が定期的に家族の祈りで祈る機会を与えられるようにすることができる。
 - c. 家族は教会指導者、宣教師、家族で特別な祝福を必要としている人のために祈ることができる。
 - d. 両親は祈りを通して教えることができる。例えば、彼らの感謝の言葉は子供にも同様の気持ちをはぐくむ。
 - e. 両親は祈りの中で子供たち一人一人の名前を挙げ、天父や地上の両親が彼らに対して抱いている愛を彼らを感じるように助けることができる。
- あなたやあなたの家族は家族の祈りによってどのような祝福を受けてきただろうか。

家族の聖文学習は、家族が神に近づけるように助けてくれる

以下の言葉を黒板に書くか、声を出して読む。

敬虔^{けいけん}さが増す

敬意や思いやりの深まり

争いの減少

より大きな愛と知恵をもって子供に助言を与える能力

両親の助言に対する従順さ

義の増加

豊かな信仰、希望、慈愛

平和、喜び、幸福

参加者に以下の質問について心の中で深く考えさせる。

- 家庭にこれらの祝福をさらに豊かにもたらすために、あなたにはどのようなことができるだろうか。

マリオン・G・ロムニー副管長は、わたしたちが聖文、特にモルモン書を学習するときに、これらの祝福がわたしたちの家庭により豊かにもたらされると証^{あかし}している。

「家庭にあって両親が、夫婦として、また子供を交えて家族として、ともに祈りをもって定期的にモルモン書を読むようにするならば、家庭の中はこの偉大な書物からわき出る特別な力で包まれ、家族一人一人がその力強い影響を受けることでしょう。家庭の中はこれまで以上に敬虔な雰囲気^{けいけん}に包まれ、一人一人が互いに尊敬し合い、関心を持つようになると思います。そして、いがみ合うようなことがまったくなくなります。また両親は愛と知恵の中で子供たちを諭すようになり、子供たちは以前にも増して両親の勧めに快く従うようになります。義は増し加えられ、信仰と希望、キリストの純粋な愛が家庭や日常生活に満ちて、平和と喜びと幸福がもたらされることでしょう。」(「モルモン書」『聖徒の道』1980年9月号, 102)

ロムニー副管長の約束に言及して、第13代大管長エズラ・タフト・ベンソンはこう語って

いる。「これらの約束——家庭においては愛と一致が増し、親と子の間には尊敬が生まれ、霊性と義の面で高められること——これらのことはむなしい約束ではありません。それは預言者ジョセフ・スミスがモルモン書は人を神に近づけるものであると言ったとおりのものです。」（「モルモン書——私たちの宗教のかなめ石」『聖徒の道』1987年1月号，7）

参加者に、家族の聖文学習を通じて家族にもたらされた祝福について話すように勧める。

- 家族の聖文学習を実り多いものとするために、あなたはどのようなことを行ってきただろうか。これまでどのような問題に直面し、どのようにそれらを解決してきただろうか。（参加者の答えを聞き、以下の提案の一部またはすべてを紹介する。）
 - a. 協力して毎日家族として聖文を学習する時間を定める。これは家族の聖文学習に関してしばしば最も難しい部分である。しかし、家族は自分たちの状況において最も有効な方法を決定するに当たって、御霊の導きを求めることができる。
 - b. 毎日どのくらい読むか（節や章、ページ数、あるいは時間）を決めることを検討する。
 - c. 可能であれば、家族の一人一人がそれぞれ聖典一式を持つようにする。自身の聖典を持つことは、読むことができない子供にとっても有益である。両親はバプテスマ、誕生日、あるいはその他の特別な機会に子供に聖典を贈ることができる。あるいは、子供はお金をためて自分の聖典を買うこともできる。
 - d. 必要に応じて年少の子供を助けながら順番に読む。一つの箇所を読んだ後、何について述べられていたかを復習し、年少の子供にも理解できるように説明する。
 - e. 小さな子供に聖文の物語の絵を描かせる。例えば、リーハイが見た命の木の示現を描いた壁画を家族で作ることができる。
 - f. 好きな節を一緒に暗記する。
 - g. 復活祭、クリスマス、バプテスマ、神権の聖任、神殿の奉献など、特別な行事に関連した聖句を読む。
 - h. 聖句ガイドを利用して、福音に関する特定の主題について一緒に調べる。
 - i. 家族ノートを用意して、聖文を読むことに関連した質問、目標、感想を記録する。

聖文学習のために家族を集合させることが難しくなったとき、両親はこの努力が自分たちの想像以上に長く影響力を持ち続ける可能性があることを思い起こさなければならない。中央初等協会の第二副会長であったスーザン・L・ワーナー姉妹はこう語っている。

「わが家では、朝早く聖文の勉強会を開くよう努めてきました。しかし息子が嫌がるのをなだめすかして起こすのによく苦労しました。やっと起きてきても、頭をテーブルの上に伏せてしまうのでした。何年か後に、伝道中の息子から届いた手紙にはこう書いてありました。『聖文について教えてくれてありがとう。伝えておきたいことがあります。あのころずっと頭を伏せて眠っているようなふりをしていたけど、実は目をつぶったまま聞いていたんです。』（「どのようにして受けたか、また聞いたかを思い起こす」『聖徒の道』1996年7月号，90）

家庭の夕べはこの世の影響に対抗する力を家族に与える

1915年、ジョセフ・F・スミス大管長と副管長たちは両親に定期的な「家庭の夕べ」を始めるように指示したことを説明する。これは両親が家族に福音の原則を教えるための時間であった。大管長会はこう記している。「聖徒たちがこの勧告に従うならば、大いなる祝福がもたらされることをわたしたちは約束します。家庭に愛が満ち、両親に対する従順が増し加えられるでしょう。イスラエルの若人の心に信仰がはぐくまれ、襲いかかる悪の力と誘惑に立ち向かう力を得ることでしょう。」（『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』348）

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、彼の両親がどのようにスミス大管長の勧告に従ったかを語っている。

「1915年、ジョセフ・F・スミス大管長は教会員に対して家庭の夕べを開くように求めました。わたしの父も『やろう』ということで、母のグランドピアノが置いてある応接間を暖めて大管長が言われたことを実行しました。」

子供たちは決して上手にはできませんでしたが、遊んでいるときは何でもしましたが、みんなの前で独唱をするのは、台所の火のついたレンジの上でアイスクリームに溶けるなど言うようなものでした。初めは互いの独唱に笑ったり、やじをとばしたりしていました。でも、両親はやめませんでした。わたしたちは一緒に歌いました。一緒に祈りました。母が聖書やモルモン書の物語を読むのを静かに聞きました。父は記憶をたどりながら話をしてくれました。……

昔の家の応接間でのこの簡素で小さな集まりから、言葉では言い表せないすばらしいことが起こりました。両親への愛が強められました。兄弟への愛が高まりました。主への愛が深まりました。身近なものへの感謝の気持ちが皆の心に深まっていきました。これらのすばらしい成果は、両親が大管長の勧告に従ったから得られたのです。わたしはこのことから、何かとても重要なことを学んだように思います。」(Teachings of Gordon B. Hinckley [1997年], 211-212)

ジョセフ・F・スミス大管長以来、すべての大管長が家庭の夕べの大切さを強調してきたことを説明する。今日、大管長会は家族に毎週月曜日の晩に家庭の夕べを開くよう勧告している。

家庭の夕べには毎回、家族の祈りと、両親または子供の一人によるレッスンが含まれるべきであることを指摘する。両親は年少の子供がレッスンを準備して行うのを助けることができる。

教会は家族が実り多い家庭の夕べを行ううえで役立つ資料を用意していることを説明する。クラスに持参した教会が出版している資料を見せる(「準備」の第3項参照)。両親にとって貴重な道具である『家庭の夕べアイデア集』を特に強調する。この本は家族が家庭の夕べを計画し実施するのを支援するための、教会の主要な資料である。レッスンや活動の提案が掲載されている。

- 祈りやレッスンのほかに、家庭の夕べでどのようなことを行うことができるだろうか。(ゲームをする、聖文を読む、賛美歌やその他の適切な歌を歌う、家族会議を開く、リフレッシュメントを食べる、などの答えが考えられる。)
- 両親は家族の必要を満たすために家庭の夕べをどのように活用できるだろうか。(参加者の提案を聞き、以下の例を紹介する。)

ある父親は、子供たちと個別に話をすることによって家庭の夕べのレッスンを準備した。子供と話をするとき、彼はしばしば「学校の男の子たちは女の子たちについてどんなことを言っている？」あるいは「今までだれかが不法な薬物について話していたことがあるかい？」など、具体的な事柄についての質問をした。この父親は子供たちの答えから、子供たちとどんなことを話し合わなければならないかを知った。それから彼は妻とともに、これらの問題をテーマにしたレッスンを計画した。子供たちは喜んで自分の考えを述べ、実際の状況にどう対処したらいいかを学んでいった。

- 両親は家庭の夕べに参加するよう家族の一人一人をどのように励ますことができるだろうか。
- 家庭の夕べを行ってきた結果として、あなたの家族はどのような祝福を受けてきただろうか。

結 び

毎日の家族の祈りと聖文学習と毎週の家庭の夕べは、家族のきずなを強め、家族一人一人の証^{あかし}を強め、家族一人一人を人生における問題に対処できるよう備えることを強調する。

御霊^{みたま}の促しに従って、教師自身の家族に対する愛を述べ、このレッスンおよびコース全体を通じて話し合われた真理^{あかし}に対する証^{あかし}を述べる。

『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』の71-75ページを見てもらう。レッスンでの教義や原則を復習するため、参加者に以下を行うよう奨励する。(1)「応用のための提案」にあ

る提案から少なくとも一つを行う。(2) ゴードン・B・ヒンクレー大管長の説教「家族の祈りがもたらす祝福」およびL・トム・ペリー長老の「善い両親から……教えを受けた」を読む。学習ガイドに掲載されている説教を夫婦でともに読んで話し合うことは、既婚者にとって大変有益であることを指摘する。

参考資料

健全なレクリエーション活動に家族で参加する

家族の祈り、家族の聖文学習、家庭の夕べに加えて、健全なレクリエーション活動は家族が愛と一致の強いきずなを築くのに役立つことを説明する。両親は家族がいつそのような活動と一緒に参加することができるかを計画すべきである。エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう勧告している。「家族一緒に休暇を過ごしたり、旅行に出かけたりする楽しい伝統を築くようにしてください。これらの楽しい思い出は、いつまでも子供たちの心の中に残ることでしょう。」（「イスラエルの父親たちへ」『聖徒の道』1988年7月号、55）

- レクリエーション活動に家族で参加することにはどのような価値があるだろうか。

話し合いを促すために、以下の意見または教師自身の意見を紹介するとよい。

- a. 一緒に活動を楽しむ家族にはより大きな愛と一致がはぐくまれる。
- b. とともに楽しい時間を過ごし、生涯続く関係を築くことができる。
- c. 子供は両親との時間を楽しみ、両親の勧告に耳を傾けて従うようになる。

- 子供のころに家族で行った活動としてどのような思い出があるだろうか。それらの活動はあなたの人生にどのような影響を与えてきただろうか。

参加者にほとんど、あるいはまったく費用のかからない、楽しくて思い出に残る家族の活動についての提案を紹介してもらおう。

「結婚と家族関係コース」第2部のレッスンの復習

「結婚と家族関係コース」の第2部は本課で終了である。コース全体を教えている場合は、以下の活動を利用するとよい。

各参加者に1枚の紙とペンまたは鉛筆を配布する。参加者に3分間与え、本コースの第9-16課から覚えている教義や原則を書き出させる。自分にとって最も意義深かった教義または原則に下線を引かせる。下線を引いた項目の幾つかについて話をする準備をしてもらう。助けが必要であれば、本書v-viiページにある目次、あるいは『結婚と家族関係参加者用学習ガイド』vii-viiiページにあるコースの概要を利用する。

3分後、各参加者に各自のリストから一つの項目を読ませ、それがなぜ特別な意味を持っているのかを説明させる。参加者の意見を黒板にまとめ、各意見の大切さに同意する。それから教師自身の意見を述べる。時間があれば、この活動を繰り返す。

参加者に本コースへの参加に対する感謝を述べ、コースを通じて話し合われてきた教義と原則に従い続けるよう奨励する。また、家族で定期的に「家族—世界への宣言」を読み、家庭においてその勧告を実践するように奨励する。

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

